

ジョイス・マイヤー

#1 ニューヨークタイムズベストセラー作家

発行部数400万部超え！

思考 という名の 戦場

思考における戦いに勝利するために



バトルフィールド オブ ザ マインド
: 正しい考えを選ぶことは戦い

献 呈

バトルフィールド オブ ザ マインドを私の長男、デイビッドに献呈したいと思います。

あなたの性格は私の性格と似すぎているため、精神的領域での葛藤があったと思います。あなたが思考を新たにして勝利を体験していることによって、あなたが絶えず成長をしているのがわかるのです。

デイビッド、私はあなたを愛しています。そして、あなたを誇りに思っています。前進あるのみ！

目次

パート1：思考の重要さ

序章

- 1 考える事は戦い
- 2 絶対に必要なこと
- 3 決して諦めない
- 4 少しずつ
- 5 肯定的に
- 6 心の思いを縛る霊
- 7 あなたが考えていることについて考える

パート2：心の状態

序章

- 8 いつ私の思いは普通なの？
- 9 さまよい、思案する心
- 10 混乱した思い
- 11 疑いそして不信仰な思い
- 12 不安と心配する思い
- 13 批判的、非難的そして疑い深い思い
- 14 受身的な思い
- 15 キリストの思い

パート3：荒野的な心の態度

序章

- 16 私の将来は過去と現在によって決まる
- 17 責任は取りたくない
- 18 難しすぎることはやりたくない！
- 19 やめられない—やらずにはいられない
- 20 待たせないで—今それが欲しい！
- 21 それは私のせいではない！
- 22 私の人生は本当にみじめなもの。
- 23 私は神の祝福に値しない。
- 24 うらやましくないはずがないでしょう？
- 25 私のやり方でします！

パート1：思考の重要性

序 章

私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

コリント人への手紙第二 10 : 4, 5

箴言 23 : 7 : 人が心で考える、そのとおりの人である（詳訳聖書訳）の真の意味を伝えるために私たちの思いの重要性をいかに十分に表すことができるでしょうか？

より長く神に仕え、御言葉を学んだら、思考と言葉の重要性をさらに気付くのです。かなり定期的に、聖霊がこれらの分野での学びへと導いていると思います。

私たちがこの地上で生きている限り、思考と言葉の分野での学びは必要であると信じています。どんな分野であっても、私たちがどれだけのことを知っていたとしても、いつでも新しく学ぶことがあり、またかつて学んだことも新たに直す必要があるものです。

箴言 23 : 7 は本当に何を意味しているのでしょうか？キング・ジェームス訳は、…**人が心で考えるとおり、人はそのような人である…** それ以外の訳では、『人は心で考えるとおり、そのように人はなる。』

思考はすべての行動の先駆けなのです。ローマ 8 : 5 がそれを明らかにしています：**肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。**

私たちの行動は私たちの思考のそのままの結果なのです。もし私たちに否定的な思いがあるなら、私たちの人生は否定的なものになるでしょう。一方、もし私たちの思いを神の言葉で新たにすれば、私たちはローマ 12 : 2 が約束するとおり、私たちの人生にとって『良き神の完全な御心』を体験し証すことになるでしょう。

私はこの本を 3 つの主なパートに分けました。この最初のパートでは思考の重要性を取り扱っています。あなたが考えていることについて考え始める必要があることを心に築いて欲しいと思います。

多数の人が過去に経験した問題を実際に生み出すことになる考えのパターンに根付いているという問題を抱えています。サタンは誰にでも悪い考えをもたらします、しかし私たちは彼の提供を受け取る必要はありません。どのような考えが聖霊に受け入れられ、どのようなものが受け入れられないかを学んでください。

Ⅱ コリント 10 : 4, 5 が明らかに示しているように私たちは私たちの思いと神の思いが何であるかを比較できるほど十分に神の御言葉を知らなければなりません：神の御言葉以上に高揚させる思いは投げ捨てイエス・キリストの捕虜へと渡すのです。

この本によってそれができるようにお祈りします。

思考は戦場です。私たちは自分の考えを神の思いとが一線につながる必要が必然なのです。これは学ぶことと時間がかかるプロセスなのです。

決して諦めないでください、なぜならあなたは少しずつ変わっているのです。あなたの思考がより良いものになるなら、あなたの人生もより良いものへと更に変わっているからです。あなたが自分の思考の中で神の良いご計画がわかり始めるとき、あなたはその中を歩き始めることになるのです。

第1章

考える事は戦い

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗闇の世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

エペソ人への手紙 6 : 12

この御言葉から私たちは戦いの中にいることがわかります。この箇所を注意深く学んでみると、私たちの戦いは他の人間との戦いではなく悪霊と悪魔との戦いであることが述べられています。私たちの敵、サタンは良く練った計画と意図的欺きによる戦略で、私たちを打ち負かそうと試みるのです。

悪魔は嘘つきです。イエスは彼を... **彼は偽りものであり、また偽りの父であるからです** (ヨハネ 8 : 44) と、呼びました。彼はあなたや私に嘘をつきます。彼は私たちのこと、ほかの人のことや境遇のことについて、本当ではないことを言います。彼は、一度に完全な嘘をつくではありません。

彼は賢く企んで、少し不満なこと、疑い、疑惑、恐れ、不思議に思う思い、言い訳などを私たちの思いの中に仕掛け始めるのです。彼はゆっくりそして注意深く（結局、計画を良く練るのには時間がかかります）動きます。彼には彼の戦略があることを覚えておいてください。彼は私たちのことを長い間研究しているのです。

彼は私たちが何が好きで、何がいやなのかを知っています。彼は私たちの不安なこと、私たちの弱点、そして恐れを知っています。彼は何が一番苛立たせるかを知っています。彼は私たちを打ち負かせるのに必要な時間を喜んで使います。悪魔の強い点の一つは忍耐なのです。

要塞を打ち破る

私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

コリント人への手紙第二 10 : 4, 5

注意深い戦略と巧妙な欺きによって、サタンは私たちの思いの中に『要塞』を作ろうとします。要塞とは私たちが一定の方法で考えてしまうという束縛（捉えられた）された領域を言います。

この御言葉で、使徒パウロは私たちにはサタンの要塞に打ち勝つための武器があることを述べています。これらの武器については後の章でさらに学ぶこととなりますが、今ここで、私たちは霊的戦いの中にいることを知っててください。5章でこの多他の戦われる場所をはっきり見ることとなります。

考える事は戦いなのです。

状況のまとめ

ここまでに、私たちが見てきたことは：

1. 私たちは戦いの中にいる。
2. 私たちの敵はサタンである。
3. 考える事は戦いの場である。
4. 悪魔は私たちの思いの中に要塞を作ることに勤勉に働く。
5. 彼は戦略と欺き（よく練った計画と意図的の欺きによる）をもたらず。
6. 彼は全く急いでいない；彼は彼の計画が上手くいくように時間を十分にかける。

彼の計画をよりわかりやすくするために例えを見てみましょう。

メアリーの側

メアリーと夫のジョンは、幸せな結婚生活を楽しんでいませんでした。二人の間には争いが絶えずあるのです。二人とも怒り、苦々しく憤慨しているのです。彼らには二人の子供がいるのですが、彼らの問題の影響を受けています。子供たちの学校での活動や振る舞いの中に、争いが見受けられるのです。一人の子は神経による胃の問題を持っていました。

メアリーの問題はジョンが彼らの家庭でのリーダーとしてみなすことがわからなかったのです。彼女はボス的で—彼女は全ての決断をすることや、家計を取り仕切り、子供のしつけをしたいのです。『自分の』お金を持ちたいので、仕

事をしたいと思うのです。彼女は自立的で、口うるさく、要求的です。

ここまですら読んであなたは『彼女はイエスを知る必要があるのよ、それが彼女の答えだわ。』と、考えているかもしれないですね。

彼女はイエスを知っているのです！メアリーは 5 年前にイエスを彼女の救い主として受け入れたのです—その 3 年後にメアリーはジョンと結婚しました。

『メアリーがイエスを救い主として受け入れてから何の変化もないということなの？』

いいえ、変化はありました。彼女の悪い振る舞いが元による継続的な咎めを感じていても、天国に行けることを信じています。今は希望があるのです。彼女がイエスに出会う前は、みじめで希望がありませんでした；今の彼女はただみじめなのです。

メアリーは自分の態度が悪いことを知っています。彼女は変わりたいのです。彼女は二人の人からカウンセリングを受け、怒り、反抗、許せない思い、憤慨、と苦々しい思いに打ち勝つためほとんどいつもお祈りを求める列に並んでいます。どうして彼女には改善が見られないのでしょうか？

答えはローマ書 12：2 にあります；この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

メアリーには彼女の思いの中に要塞があるのです。そこに長い間あり、彼女自身、どのようにそれを持つようになったかがわからないのです。彼女は反抗的でボスの口うるさいのが良くないことをわかっています。しかし、自分の性質をどのように変えればよいのかがわからないのです。彼女は自分の行動をコントロールできないので、ある状況に対し好ましくない方法で単に反応しているというような状態なのです。

メアリーが彼女の行動をコントロールできないのは、自分の考えをコントロール出来ないからなのです。彼女が考えをコントロールできないのは悪魔が彼女の若いとき彼女の思考の中に築いた要塞があるためなのです。

サタンは大変若い時に欺きの種をまき、良く練った計画を仕掛け始めるのです。メアリーの場合、彼女の問題は彼女が子供の時から始まっているのです。

子供の頃メアリーの父親は自分の気分が良くないというだけで、彼女をたたくといった大変支配的な人でした。もし彼女が間違えた動きをただけで、彼の怒りを彼女に爆発させたのです。何年もの間、彼女は母親と一緒に父親の誤った扱いを唯蒙るだけだったのです。しかし、メアリーの兄弟は何の悪いことも出来なかったのです。まるで、彼が男の子だったので、お気に入りだったかのようでした。

彼女が 16 歳の時には、メアリーはサタンの嘘によって洗脳をされてしまいました、このような感じです：『男性は彼らが何者かのように思っている、彼らは皆同じようなもの；彼らを信頼することなどできない。彼らはあなたを傷つけあなたを利用するでしょう。もしあなたが男性なら、自分で人生を築くのだよ。あなたがしたいこと何でもできるし、あなたの周りにいる人に命令をし、ボスとしてあなたの好きなように人を扱えば良いから。誰も（特に妻や娘）それをとやかく言えないんだから。』

その結果、メアリーの思いは固まってしまっていました：『私がここから去ってからは、誰も私を再びいじめることはないのよ。』

サタンは彼女の思考に戦いを仕掛けていたのです。これらの考えを 10 年以上の間、何回も何回ももたらすのです、そして結婚の準備ができた時には優しく、服従的で、愛すべき妻であるかのように見えるでしょう。たとえあなたが望むべき奇跡によってでさえも、あなたはそれを求めないのです。これがメアリーが今日自分で気付いた混乱なのです。彼女に何ができるでしょうか？このような状況で私たちは何ができるでしょうか？

御言葉の武器

そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。『もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。

そして、あなたがたは、真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。』

ヨハネの福音書 8 : 31, 32

ここでイエスはサタンの嘘にどのように勝利できるかを語っています。私たちは、神の御言葉で私たちの思いを一新して、神の真理の知識を得なければなりません。それから、Ⅱコリント 10：4、5 の武器を使い、神の知識に逆らうすべての高ぶった思いである要塞を打ち破るのです。

これらの『武器』は説教、教え、本、テープ、セミナーや個人で学ぶバイブル・スタディーによって受け取るのです。しかし私たちは聖霊の靈感によって与えられ啓示となるまで御言葉にとどまり続けなければなりません。マルコ 4：24 でイエスは…**あなたがたは、人に量ってあげるその量りで、自分にも量りを与えられ、さらにその上に増し加えられます**…繰り返します、私たちは御言葉の武器を使い続けなければならないのです。

私たちがその他に使える 2 つの武器は賛美と祈りです。賛美は他のどんな戦いの計画よりも早く悪魔を打ち負かすことができます、しかしそれは純粋な心からの賛美でなければなりません、単なる口先だけのものであったり、上手くいくかどうかと試すようなものではだめでしょう。また、賛美と祈りのどちらも御言葉が関わっています。私たちは神の御言葉と彼の善意によって神を賛美するのです。

祈りは神との関係です。私たちを煩わせることについて神の助けを求め、神と話すことです。

もしあなたが効果的な祈りの生活を持ちたいのであれば、御父との良い個人的な関係を育ててください。彼はあなたを愛していて、憐みに満ちていて、あなたを助けてくれるということを知ってください。イエスを知ってください。彼はあなたの友達です。彼はあなたのために死んでくれたのです。聖霊を知ってください。彼はあなたの助け主として、あなたといつも一緒にいます。彼の助けを受けてください。

あなたの祈りが御言葉で満ちるようになることを学んでください。神の言葉と私たちの必要によって私たちは神の元にやってくるのです。

そして、私たちの武器はさまざまな方法で用いられる御言葉です。パウロがⅡコリントで述べているように、私たちの武器は肉の物ではなく、霊的なものなのです。なぜなら私たちは霊のかしら、悪魔自身と戦っているのですから、霊的な武器が必要なのです。イエスでさえも荒野で悪魔を打ち負かすのに御言

葉の武器を使いました。(ルカ 4:1-13) 悪魔が彼に嘘を言うたびに、イエスは『それは、書かれている、』と御言葉を引用して応答しました。

メアリーが彼女の武器を使うのを学ぶことで、彼女の思いの中に築かれた要塞を打ち破り始めるでしょう。彼女を自由にしてくれる真理を知りましょう。すべての男性が彼女の父親のようにではないということがわかるでしょう。同じような人もいるかもしれないけれど、そうでない人はたくさんいるのですから。彼女の夫のジョンは、そうではありません。ジョンはメアリーを大変愛しています。

ジョンの側

この話の別の側でジョンが関わってきます。彼もまた、メアリーとの結婚、家庭生活で問題となっている要因を持っています。

ジョンは家族のリーダーとしての立場をとるべきなのです。神は彼を家庭での祭祀として考えています。ジョンもまたクリスチャンで家庭生活での正しい秩序を知っています。彼は妻が家事や家計、育児を取り仕切るべきではないことを知っているのです。彼はこれらすべてを知っているのですが、テレビとスポーツで打ち負かされた気持ちを慰める以外は、このような状態に何もしていないのです。

ジョンは何事にも直面するのを好まないで、自分の責任から隠れているのです。彼はむしろ受身的な態度をとることにして、『まあ、この状態のままにしておく限り、多分それ自体で上手くいくだろうから。』と考えたり、『祈ることにしよう』と言って、実際の行動を取ることに言い訳を自分にしているのです。もちろん、祈ることは良いことですが、それが単に責任を避けるための方法の一つであるなら、そうではないでしょう。

ジョンは家で神から与えられた役割を引き受けるべきだと私が言う意味を明確にしましょう。彼が『ミスター・マッチョ』のようになって、自分の権利を振りかざして怒鳴り散らすべきだと言っているのではありません。エペソ 5:25 で夫は彼の妻をキリストが教会を愛したように、愛すべきであることを教えています。ジョンは彼の責任を取るべきであり、権威には責任が伴うのです。彼は妻に対し、確固としているべきで一愛するけれど確固とするべきなのです。

メアリーが神を信頼し神に自分を明け渡して、すべての男性が父親のようではないという自信を得るようになっていたけれども、子供の時に傷ついた彼女を安心させるべきなのです。

ジョンはたくさんのことをするべきなのですが、メアリーと同じように、彼も悪魔に捉えられた『マインドセット』があるのです。ジョンの思いの中でも戦いが起こっているのです。メアリーと同じく、彼も子供の時に言葉による虐待を受けていたのです。彼の支配的な母親は突き刺さるような言葉でしばしば彼を傷つけてきたのです；『ジョン、あなたは本当にダメねえ；あなたには何も役に立たないわね。』のようにです。

ジョンは母親から認められなかったので（すべての子供がそうであるように）母親を一生懸命よろこばせようと思いました；しかし、一生懸命やればやるほど、彼は誤りをおかしました。彼は不器用だったのです、なので彼の母親は彼がどれほど『とんま』であるかといつも言ったのです。彼は一生懸命に喜ばせようとしたことで、より緊張して、彼の目的はダメになったのです。

彼はまた、友達になりたいと思った子供たちからも拒絶されるという不運な体験をしたのです。このようなことは大抵誰にでも起こることですが、ジョンにとっては既に母親から拒絶されていると感じていたので彼を参らせてしまうことになったのです。

彼が高校の低学年の時大変好きになった女の子がいたのですが、ボーイフレンドが既にいたので、拒絶をされてしまったことがあります。ジョンの人生の中でこれら全てのことが合算された時、そして悪魔が彼の思いの中に長い年月をかけて要塞を築いていたので、ジョンには何をやる勇気もなく、ただ恥ずかしがり屋の引っ込み事案になっていたのです。

ジョンは暗い調子の人柄で波風を立たせないことを選ぶのです。何年もの間彼はこのような考えをしてきました：『自分が考えていることを人に伝える意味なんてない；誰も聞くことなんかないんだから。もし人に受け入れてもらいたいんだったら、その人が望むように合わせる必要があるんだ。』

数回だけ彼は問題に対して立ち上がったけれど、最終的にはいつも彼は諦めるようになったかのようです、そこから彼は直面することは努力する価値はないと決心したのです。

『僕は結局最後には負けるんだ。』と彼は理由づけをしました。それなのに、どうして何かを始める必要があるんだろうか？』

答えは何なのでしょう？

わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油を注がれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。

ルカの福音書 4 : 18, 19

ジョンとメアリーが問題にぶつかっていることで、彼らの家庭での生活がどのようなものかはたやすく想像することができます。思い出してください、そこにはたくさんの争いがあったと、述べたかと思います。争いはいつも表に現れた戦いとは限りません。家庭の中で争いが底流にあって、誰もがそのことを知っているのですが、誰もそれをどうにかしようともしないことが、大抵の場合なのです。彼らの家の雰囲気はひどく、悪魔はそが大好きなのです！

ジョンとメアリーと子供たちに何が起こるのでしょうか？彼らは上手く乗り切れるのでしょうか？彼らはクリスチャンです—彼らの結婚生活がダメになり、家庭が破壊されることになるのは気の毒なことです。しかし、実際にはそれは彼ら次第なのです。ヨハネ 8 : 31, 32 が彼らの決断へのカギとなるでしょう。もし彼らが、神の言葉を学び続ければ、彼らは真理を知り、真理を行うことでその問題から自由になれるでしょう。しかし彼らはお互いについての真理と過去について神が示されたとおりに直面しなければならないのです。

真理はいつも御言葉を通して表されます；しかし、悲しいことに大抵皆受け入れないのです。自分の落ち度に面しそれを取り扱うのは痛々しい過程です。一般的に言って、人は自分の間違った行動を正当化してしますのです。彼らは自分の過去をそのままにし、それによって残りの人生に否定的な影響を与えてしまうのです。

過去はなぜ私たちが今苦しんでいるかの説明をしてくれるかもしれませんが、その捕らわれの中にとどまるための言い訳としてはいけません。

イエスが捕らわれ人を自由にする約束を成就しようといつも私たちとともにいてくださるので、誰も言い訳はいりません。もし私たちがすべての過程を彼と共に進んでいくことを選ぶならばどんな分野であっても勝利の最終ラインをともに踏み超えることができるでしょう。

脱出の方法

あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出のみちも備えてくださいます。

コリント人への手紙第一 10 : 13

この例えからサタンがどのように私たちの境遇を使って私たちのうちに要塞を築くかを分かってもらえることを願います—彼がどのように思考する思いの中に戦いを仕掛けるかということなのです。しかし、神に感謝します。私たちには要塞を打ち破る武器があります。神は私たちを見捨てたり、助けなしのままにはされないのです。I コリント 10 : 13 が約束するように神は私たちが耐えられない以上の誘惑は受けさせられないし、すべての誘惑には脱出への道を備えてくださるのです。

私たちの誰もがメアリーやジョンのような状態にいくらかのかかわりがあるかと思います。彼らの問題は内側の物です—彼らの内面の物です。サタンはもし私たちの考えをコントロールすることができれば、私たちの行動も彼がコントロールできることを知っているのです。

あなたには打ち破られる必要のある主だった要塞があるかもしれません。この言葉を持って励ましたいと思います。『神はあなたの側にいてくれます。』戦いが起こっていて、あなたの思いの中は戦場となっているでしょう。しかし、良い知らせは神があなたの側で戦ってくれているということです。

第 2 章

絶対に必要なこと

彼は心のうちでは、勘定ずくだから…その心はあなたとともにない。

箴言 23 : 7

この一つの御言葉からだけでも私たちが正しく考える事がいかに重要かがわかる。思考は力強い、箴言の著者によれば、思考には創造的な力があるということです。もし私たちの思考が私たちが何になるかということに影響を与えるのであれば、正しい考えをすることを最優先にするべきなのです。

私はあなたの考えと神の言葉と一致していることが絶対に必要であることを強調したいと思います。

否定的な思いを持って、肯定的な人生を送ることはできません。

肉の思い 対 霊の思い

肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。

ローマ人への手紙 8 : 5

キング・ジェームズ訳で、ローマ書 8 章は、もし私たちが肉のことを『思う』なら、私たちは肉によって歩む；しかしもし私たちが霊のことを『思う』なら、霊によって歩むと教えています。

それを別の言い方にしてみると；もし私たちが肉的な考え、悪い考え、否定的な考えをするならば、霊によって歩むことはできない。一新されて、神のように考えることがクリスチャンとしての生き方には必然であると言っているようです。

そのことに注目することの重要さに築かない怠慢な時も人間にはあります。しかし、しかしもしそれをそのままにしておけば、大きな問題になるということに気付いたとき、気合を入れその問題に取り組むのです。

たとえば、あなたの銀行口座から 85.000 円超過引出がされていると言って銀

行から電話が掛かったとします。あなたは直ちに問題点を探すでしょう。調査の結果、自分で預け入れをしていたと思っていたけれど、していなかったことがわかるかもしれません。あなたは預け入れをしにすぐに、銀行へ行くでしょう、これで、それ以上の問題は起こらないのです。

思いを一新にするということをこれと同じように考えてもらいたいのです。

あなたの生活は長年の間違った考えが原因で混沌とした状態になっているかもしれません。もしそうであるなら、あなたの思いが一新されるまで、あなたの人生はまっすぐになることはならないという事実を握ることが大変重要なのです。

あなたはこのことを必然のこととして考慮すべきなのです。サタンがあなたの思いの中に築いた要塞を打ち破ることに真剣になってください。御言葉、賛美と祈りの武器を使ってください。

御霊によって

…『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって…』と万軍の主は仰せられる。

ゼカリヤ書 4 : 6

自由への最善の助けの一つは神にたくさん助けを求めることでず一頻繁に助けを求めるのです。

あなたの武器の一つは祈り（求めること）です。あなたの問題の状況に打ち勝つのに決断するだけではだめなのです。決断をする必要はありますが、あなたの肉による努力ではだめで、聖霊によって決断することが必要なのです。聖霊はあなたの助け主で一彼の助けを求めてください。彼に頼ってください。あなたひとりではできません。

絶対に必要なこと

信じる者にとって、正しい考えは絶対に必要なことです。絶対に必要なこととはそれなしでは生きられない位重要なものです—心臓の鼓動が欠かせないよう

に、もしくは血圧も欠かせません。これらの物が無いということは命が無いというようなものです。

主が数年前に折りて御言葉による神との個人的な交わりについての真理を印象付けられました。神がこれらのことが絶対に必要なことであるということを示されるまでは、自分がこれらを行えるように訓練するのが大変困難だったのです。私の肉での生活が心臓の鼓動等の状態によるように、霊的生活は神との決められた、良質な時を過ごすことによつてきますのです。神との交わりが絶対に欠かせないことを学んでからは、それを私の人生の最優先としました。

同じように、正しい考えが勝利的な生き方に欠かせないことを知つたので、私は自分が何について考えているかということに、より真剣になつて、自分の考える事を注意深く選ぶようになりました。

あなたが考えるとおりに、あなたはそのような人です

木が良ければ、その実もよいとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木のよしあしは、その実によつて知られるからです。

マタイの福音書 12 : 33

聖書では木はその実によつて知られると言っています。

私たちの人生でも同じです。思考が実をならせませす。良い考えをする、そうすればあなたの人生の実が良いものでしょう。悪い考えをすれば、あなたの人生の実も悪いのです。

実際、人の態度を見て、その人の人生ではどのような考えがなされてきたかがわかるでしょう。優しく、親切な人は意地悪で復讐的な考えはしないでしよう。同じように、心から悪い人は、善良で愛に満ちた考えはしません。

箴言 23 : 7 を覚えてください、その言葉によつてあなたの人生を考えてみてください：あなたの心で考えるとおり、あなたはそのような人なのです。

第3章

決して諦めない!

決して諦めない！

第3章

善をおこなうのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取るようになります。

ガラテヤ人への手紙 6：9

あなたの人生と心の状態とがどんなにひどいものであっても、絶対に諦めないでください！悪魔があなたから盗んだ領域を取り戻してください。もし必要ならば、本の少しずつ、自分の力で望んだ結果を得ようとするのではなく、神の恵みに頼り、取り返すのです。

ガラテヤ 6：9 で使徒パウロはやり続けるようにと私たちに励ましています。意気地なしにならないで！古い『諦めてしまう』霊の人にならないでください。神は彼と一緒にやり通す人を探しています。

やり通す

あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡る時も、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。

イザヤ書 43：2

あなたが今何かに直面しているかもしれないし、何かが起こっているかもしれないけれど、私はあなたがそこで諦めないで、やり通すようにと励まします。

ハバクク 3：19 では、私たちが雌鹿（雌鹿は山をすいすい上ることのできる動物）のような足を育てる方法を述べています…**私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。**

神が私たちを霊的に発達させる方法は困難なときに私たちと一緒にいて私たちを強め、『やり続けるように』と励ましてくれるのです。

やめることは簡単です；やり通すために信仰が必要なのです。

選択はあなたのモノ！

私は、きょう、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、

申命記 30 : 19

毎日私たちに何千もの思いがやってきます。思いは肉によってではなく、霊によって一新されなければならないのです。私たちの肉体（世的、肉的）思いは自由にあまりにも多くのことを実践してきたので、悪いことを考えるのに何の努力もいらぬのです。

一方、私たちは正しいことを意図的に選んで考えなければならないのです。私たちが神と同じような考え方をしようと決断をしてからは、正しい考えを選び、それを続けなければならないのです。

私たちが心の思いに戦うのが難しいと思い始め、やり通せないと感じ始めた時、その思いを捨て、やり通せるという思いを選ぶことができるようになります。やり通すことができるという思いを選ぶだけではなく、絶対にやめないという風に決心をしなければならないのです。疑いや恐れへの攻撃を受けたら、私たちは立ち上がって、『私は絶対に諦めない！神が私の側におられるんだ、そして神は私を愛していて、私を助けてくれるから！』と、言わなければならないのです。

私たちの人生を通して、たくさんの選択をすることになります。申命記 30 : 19 で主は彼の民に、神が彼らの前に死と命を定められた、彼らは命を選ばなければならないと仰られました。箴言 18 : 21 で、**死と生は舌に支配される、どちらかを愛して人はその実を食べる…**と、言われています。

私たちの考えが私たちの言葉になります。それなので、私たちは命を生み出す考えを選ぶことが必然的に重要になります。そのように行えば、正しい言葉がそれに続くのです。

決して諦めない！

戦いに終わりが無いかのようで、戦いとおせるように思えない時には、あなたの肉的、世的思いが神が考えるように新たにプログラムすることを思い出してください。

不可能ですって？いいえ！

難しいこと？確かに！

しかし、ちょっと考えてみてください、神があなたの側におられるのですよ。私は、神は最高の『コンピュータ・プログラマー』だと信じています。（あなたの思いはコンピュータのようで、生涯に渡るごみがプログラムされているかのようなのです。）神はあなたに働いておられます、もしあなたの考えのコントロールを神にしてもらうために神を招くなら、神はしてくれます。神はあなたの思いを新たにプログラムしておられます。神と一緒に働くようにしてください—そして、絶対に諦めないでください！

確かに、時間はかかるでしょう、そして、すべて簡単ではないのです、しかしもしあなたが神の方法で考える事を選ぶなら、あなたは正しい方向に進んでいるのです。あなたは自分の時間を使って何かをしているということで、あなたは前進しているのであって残りの人生を同じ混沌の中にはとどまっていないこととなります。

向きを変えて勝ち取れ！

私たちの神、主は、ホレブで私たちに告げて仰せられた。「あなたがたはこの山に長くとどまっていた。

向きを変えて、出発せよ。そしてエモリ人の山地に行き、その近隣のすべての地、アラバ、山地、低地、ネゲブ、海辺、カナン人の地、レバノン、さらにあの大河ユーフラテス川にまで行け。

見よ。わたしはその地をあなたがたの手に渡している。行け。その地を所有せよ。これは、主があなたがたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓って、彼らとその後の子孫に与えると言われた地である。

申命記 1:2 で、モーセはカナン（約束の地）までが 11 日間のできる旅なのに、実際には彼らがそこに着くのに 40 年かかったことをイスラエル人たちに指摘しました。6 節で、神は彼らに、『主である神が、「あなたがたはこの山に長くどどまっていた。』』とされました。

あなたは同じ山に長くどどまっていたことがあるでしょうか？ 11 日間のできる旅を 40 年かけたことがあるでしょうか？

私は自分の人生についてやっと目覚め、自分がどこへも向っていないことに築きました。私は勝利のないクリスチャンでした。メアリーとジョンのように、私には何年もかけて築かれた要塞とたくさんの悪いマインド・セットがありました。悪魔が私に嘘をつき、私は彼を信じたのです。それで、私は欺きの中にいたのです。

私は同じ山に長い時間いたのです。神の言葉の真理を知っていたなら、もっと短期間で終えられた旅に 40 年間費やしたのです。

神はイスラエルの民が『荒野的メンタリティー』一人を束縛するあるタイプの悪い考え方を持っていたのであのように長く荒野にとどまっていたということを私に示されました。この課題について、後で学ぶこととなりますが、今ここで一つお奨めしておきます。あなたの思いを一新させる良い決断をするように、考える事を注意深く選択するようにしてください。あなたが受け取るべく遺産を得、勝利をもって完了するまで、絶対に諦めないということを決断してください。

第4章

少しずつ

あなたの神、主は、これらの国々を徐々にあなたの前から追い払われる。あなたは彼らをすぐに絶ち滅ぼすことはできない。野の獣が増してあなたを襲うことがないためである。

申命記 7 : 22

思いを一新にすることは、徐々に起こりますので、なかなか前進しなくてもがっかりしないでください。

イスラエルの民が約束の地に入る直前に、彼らの中で『野の獣』が増すことがないように彼らの敵を徐々に追い払うと主は告げられました。

私は、もしあまりにも多くの自由をあまりにも早く受け取ったら、『野の獣』である私たちのプライドが私たちを焼き尽くしてしまう、と信じています。一つの分野ごとに自由を得るほうが実際には良いのです。そのほうが、私たちは自由をもっと感謝することになるのです；それが真に神からの贈り物で、私たちが自身の力ではどうにもできないことがわかるのです。

苦しみが解放に先立つ

あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあつてその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全に、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。

ペテロの手紙第一 5 : 10

どうして私たちはしばらく苦しむ必要があるのでしょうか？ 私たちには実際に問題があることに気づいた時からイエスが私たちを解放してくれるまで、苦しみに耐えるということを信じるのです、しかし自由が訪れるとき私たちはさらに喜ぶのです。私たちが何かを自分だけでやろうとすると、失敗してそれから私たちは神を待たなければならないことがわかるのです、私たちが自分だけではできないことを神が立ち上がり、助けてくれるので私たちの心は感謝と賛美であふれるのです。

罪に定められることはない

こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

ローマ人への手紙 8 : 1

つまづいたり、良くない日があっても咎めを持たないでください。立ち戻って、埃をはらって、また初めてください。赤ちゃんが歩くことを学ぶとき、自信を持って歩くのを楽しみまで何回も、何回も転びます。しかし、赤ちゃんの喜ばしい所は転んだあとなくともかもしれませんが、いつも元に戻り歩こうとすることです。

悪魔はあなたの思いを一新しようとするのを彼の全力をもって止めに来るでしょう。あなたが正しい考えを選び悪い考えを拒絶することを学んだなら彼のあなたに対するコントロールは終わりだということ知っているのです。悪魔は失望や咎めによってあなたにやめさせようとするのです。

咎めがやってきたら、あなたの『御言葉の武器』を使ってください。ローマ 8 : 1 を引用して、あなたが肉によってではなく、霊によって歩むということをサタンとあなた自身に思い出させてください。肉によって歩むことは自分に頼ることです；霊によって歩むことは神に頼ることなのです。

あなたが失敗をする（するでしょう）ということで、あなたが落伍者であるという意味ではありません。それはあなたは何かかも正しくはできないという意味なのです。私たち皆、強いところと弱いところがあるという事実を受け入れなければならないのです。あなたの弱いところにキリストが強く表れるようにするのです；あなたの弱い日に彼があなたの強さになるのです。

繰り返します：咎めを受け入れないでください。あなたの完全な勝利はやってきます、しかしそれには時間がかかります、何故ならそれは『じょじょに』しか来ないからです。

がっかりしないで

わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。私の前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。

詩篇 42 : 5

失望は希望を壊します、なので悪魔はいつも私たちをがっかりさせようとするのです。希望がないと私たちは諦めます、それが悪魔の望んでいることなのです。聖書はがっかりしたり、落胆しないようにと繰り返し教えています。私たちが失望するなら勝利はやってこないことを神はご存知です、だから神は『がっかりするな』といつも励まし私たちのプロジェクトを始めさせるのです。神は私たちががっかりするのではなく、元気づけられてほしいのです。

失望や咎めがあなたを突然襲うときは、あなたの思考生活を調べてください。どんなことを考えていたのでしょうか？以下のような感じだったのでしょうか？

『私はやり通すことはできない；これはあまりにも難しすぎるから。私はいつも失敗するから、いつもそうだし、何も変わるはずはないもの。他の人は彼らの思いを一新するのにこんなにも問題があることはきつくないわ。私は諦めてもいいの。変わることに疲れたから。私は祈るけど神は聞いていないようだし。神は私のことに大変がっかりしているから恐らく私の祈りにこたえてはくれないでしょう。』

あなたの思いがこれらの例の中に当てはまるようであるなら、あなたががっかりし、咎めの元にいるのは間違いないと思います。思い出してください、あなたはあなたが考えたとおりの人になるということを。がっかりするようなことを考えれば、あなたはがっかりします。咎められるようなことを考えれば、咎めの元にいるようになるのです。あなたの考えを変えて自由になってください！

否定的に考える代わりに、このように考えましょう：

『まあ、物事は少しゆっくりだけど；神に感謝だわ、私も少し前進しているから。私が自由に至る正しい道にいることは嬉しいものです。昨日は大変な日だった。一日中悪い考えを選んでいたので。天のお父様、私を許してください、私が進み続けられるよう助けてください。間違いをしたけど、少なくとも一つだけで、同じ間違いはもうしないわ。今日は新しい日。主よ、あなたは私を愛してくれているから。あなたの憐みは毎朝新しい。』

『私のがっかりしないわ。咎めを受けない。お父様、聖書ではあなたは私を咎めないと言っています。あなたは私のためにイエスを死へと送られました。私は大丈夫です—今日は素晴らしい日になるでしょう。今日私が正しく考えるようにしてくださいました。』

このような陽気で、肯定的で、神のような考えをすることであなたは勝利を既に感じていることと思います。

私たちは何でも即座のものを好みます。私たちには忍耐の実を内に持っているのですが、外側に出るために働きがされます。時々、神は私たちの完全な解放に導くのに時間をかけられるのです。神は私たちの信仰を引き延ばすために待つのが困難な期間を用いられます、そして忍耐が完全な働きをします。(ヤコブ 1 : 4) 神の時は完全です。神は決して遅れることはありません。

ここに考えるのに良い考えがあります：『私は神を信じています。私が何を考えたとしてもまた、どのような状況であっても、神は私のうちで働いています。主は私のうちで良い働きを始められました、そして神はそれを完了されるのです。』(ピリピ 1 : 6 ; 2 : 13)

このような方法であなたの御言葉の武器を効果的に使って要塞を打ち破ることができるのです。意図的に正しく考えるだけでなく、さらに進んでそれらの言葉をあなたの告白として大きな声で話すことを勧めます。

覚えていてください、神はあなたを解放されます、徐々にです。だから、もし誤りをおかしても、がっかりしないで、また咎めに思わないでください。

自分に忍耐してください！

第 5 章

肯定的に

…あなたの信じたとおりになるように…

マタイの福音書 8 : 13

肯定的な思いは肯定的な人生を生み出します。否定的な思いは否定的な人生を生み出します。肯定的な考えはいつも信仰と希望に満ちています。否定的な思いはいつも恐れと疑いに満ちています。

あまりにもたくさん傷ついてきた人の中には希望を持つことを怖がる人がいます。彼らには数えきれないくらい失望することがあって、これ以上の痛みに面することができるとは思えないのです。それゆえ、彼らは希望を持とうとはしないのです、そうすればがっかりすることがないからです。

このように希望を避けることが傷つくことに対する一種の防衛法なのです！再び傷つくより、何か良いことが起こるということを希望したり信じることを単に拒絶する人がたくさんいます。このような振る舞いが否定的なライフスタイルを作ります。考え方が否定的なので、すべてのことが否定的になります。箴言 23 : 7 を思い出してください：**人は心の中で考えるように、そのとおりの人になる…**

何年も前、私は非常に否定的でした。もし私が2つ続けて肯定的に考えたら、胃痙攣が起こるといつも言っていました。私のすべての哲学はこのようでした：『もし良いことが起こることを期待しなければ、そのとおりになってもがっかりすることがない。』

私は失望することにたくさん出会ってきました—私にたくさんの破壊的なことが起こったのです—そこから何か良いことが起こるということを信じるのが怖かったのです。すべてのことを大変否定的に考えていたのです。私の考えがすべて否定的だったので、私の口も否定的でした；従って、それが私の人生だったのです。

私が御言葉を本当に学び神が私を回復してくれることを信頼し始めてから、最初に私が気付いたことは否定的な思いは捨てないといけないということでした。

マタイ 8:13 でイエスは私たちが信じたとおりになるということを教えています。キング・ジェームス訳では、**あなたが信じたとおりに、それはあなたに起こる…**私が信じたことは全て否定的だったので、一般的に否定的なことがたくさん起こったのです。

私たちが何でも欲しいもののことを唯考えるだけで、何でも得ることができるということではありません。神は私たちそれぞれに完璧な計画を持っておられます、私たちは私たちの考えや言葉で神をコントロールすることはできないのです。しかし、私たちは神の意志と私たちのための計画と同意の中で考え、話さなければならないのです。

もし今この時点で神のあなたへの意志が何であるか全くわからないのであれば、少なくとも『私は神のご計画がわからないけれど、神が私を愛してくれていることはわかります。神がされることは何であっても良いことなので、私は祝福されるでしょう。』というように考え始めてください。

あなたの人生について肯定的に考え始めてください。

あなたに起こるそれぞれの状況で肯定的でいるよう訓練してください。この瞬間あなたの人生に起こっていることがそれほど良くないことでも、そこから神が御言葉の中で約束した通り、良いことをもたらしてくれると神に期待してください。

全てのことを益として働かせる

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

ローマ人への手紙 8:28

この御言葉はすべてのことが良いとは言っていません、すべてのことを働かせて益としてくださると言っています。

あなたは買い物に行く計画をしているとしましょう。車に乗ります、でも車はスタートしません。この状況で2つ見ることができます。『わかっているのよ！毎回私が何かをしようとしたら、間違いなくダメになるの。今回のショッピング

グは結局大失敗だということ；私の計画はいつもこうなの。』と言うか、『ショッピングに行きたかったけど、今は行けないよね。車が直ってから、行くことにするわ。この計画の変更は私には良いことに働くことを信じているの。今日は何か家にいたほうが良い理由があるのかも、だから、家で過ごす時を楽しむことにするわ。』と言うこともできます。

ローマ 12 : 16 で使徒パウロは人々と物事に順応するようにと教えています。もし何か計画して、それが上手くいかなくても、落胆しないような人になることを学ばなければならないと教えています。最近この原理を実践する素晴らしい機会に恵まれました。デーブと私はフロリダ州レイクワースにいました。そこで 3 日間奉仕をし、荷物をまとめ家に戻るため空港に向かっていました。私はスラックスとブラウスにローヒールの靴を履いて帰ろうと計画をしていました、そうすれば帰りの旅も楽にできると思ったからです。

洋服を着換えはじめたところスラックスが見つかりません。あちらこちらを探してようやくクローゼットの一番下にあるのがわかりました。ハンガーから落ちてしまったままで、ひどいしわだらけになっていました。私たちは携帯のアイロンを持っているので、それでしわを取りました。それを着てみましたが、あまり良い感じには見えません。私のそれ以外の選択はワンピースとハイヒールになりました。

私はこの状況に対して憤慨することもできます。自分がしたいと思うことを出来ない時はいつでも、私たちの感情が湧きあがり自己憐びになったり否定的な態度になろうとしてしまいます。私は選ぶことができるということに直ちに気付きました。私が望んだようにならなかったのでイライラすることも出来るけど、自分を状況に順応させて家への旅を楽しむことも出来るのです。

本当に肯定的な人でも彼が望むことが、すべて望み通りにいつも出来るとは限りません。否定的な人は決して何も楽しめません。

否定的な人は一緒にいても楽しくありません。彼は全てのことに憂鬱な雰囲気をもたらします。彼には何か『重苦しいもの』があります。彼は不平不満の人で、文句を言って、人のあら捜しをします。どんなに良いことが起こっていても、彼はいつも問題になりそうなものを見つけ出すようなのです。

私が究極に否定的だった当時、新しく飾り付けられた人の家に入って行って

も、素敵に飾られたものを見て褒めるより、壁紙の角が外れているとか窓につ
いているシミを見つけてしまうのでした。イエスが人生の中の良いものを楽し
めるよう私を自由にしてくださったことを大変喜んでます！悪いことも良い
ことに変わるということを神にあっての信仰と希望で自由に信じられるのです。

もしあなたが否定的な人であっても、非難として受け止めないでください。
私がこれらのことを分かち合っているのは、あなたが否定的であることに対し
て否定的にならせるためではなく、否定的であることによる問題に気づき、神
を信頼してあなたが回復できるためなのです。

私たちが言い訳なしで問題に直面するとき、自由への道が始まるのです。も
しあなたが否定的であるなら、そうである理由があると思っています。でも、
覚えておいてください、クリスチャンとして、聖書によれば、あなたは今は新
しい人なのです。

新しい日！

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ
去って、見よ、すべてが新しくなりました。

コリント人への手紙第二 5 : 17

『新しく造られた者』なので、キリストのうちにある新しい生活に影響を及ぼ
すような古いことは受け入れる必要はありません。あなたはキリストにあって
新しい命を持つ新しく造られた者なのです。あなたは神の御言葉によってあな
たの思いを一新することができるのです。良いことがあなたに起こるのです。

喜びなさい！新しい日なのです！

聖霊の働き

しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益
なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに
来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わし
ます。

否定的な状態から解放されるための一番困難な面は真実に面て言うことです、『私は否定的な人間です、私は変わりたいのです。私は自分を変えることができないけれど、私が神に信頼しているので、神は私を変えてくれると信じています。それには時間がかかると思います、また私は自分につながりするつもりはありません。神は私のうちで良い働きを始められました、そして神はその働きを完成へと至らせることができます。』（ピリピ 1 : 6）

あなたが否定的になり始めたらいつも聖霊に咎めてもらうようお願いしてください。それは彼の仕事の一部です。ヨハネ 16 : 7, 8 で聖霊は私たちに罪と義に気付かせてくれると教えています。咎めが来たら、神に助けてもらうようお願いします。これを自分で取り扱えると考えないでください。神に頼ってください。

私は究極的に否定的でしたが、もし私が神に信頼するなら神が私を全く肯定的にするということを教えてくれました。自分の思いを肯定的な状態に保つことは私には大変困難なことでした。今では、否定的な状態には我慢できませんが。それは人が煙草を吸うような感じです。喫煙者が煙草を吸うのをやめたら周りの人が煙草を吸うのに我慢ができない、ということが大抵起こります。私がおんなじな人です。私は長い年月煙草を吸っていましたが、しかし煙草をやめた後では、煙の匂いだけでも我慢できなくなったのです。

否定的な状態にも同じです。私は大変否定的でした。今では、否定的なことにはまったく我慢できません；私にとって不快なくらいです。私が否定的な思いから解放されて以来、たくさんの良い変化を見てきましたので今ではなんでもあっても否定的なことには抵抗してしまふのです。

私は現実に直面するようにしています、あなたがたも同じようにすることを励まします。もしあなたが病気なら、『私は病気ではないわ、』と言わないでください、何故ならそれは真実ではないからです：『神が癒してくれることを信じているの』と言うことができるでしょう。『ひどくなって入院することになるわ』などとは言う必要はないと思います；その代わりにこのように言えるでしょう、『神の癒しの力がたった今私のうちで働いている：私は大丈夫って信じているの。』

すべてバランスが必要です。あなたの肯定的なところが少しの否定的なこと
で軽減することを意味しているわけではありません、肯定的であれ否定的どちら
であったとしても何かがあなに起こったら、対処できるよう『心づもり』が
必要であることを意味しているのです

心づもり

このユダヤ人は、てさろにけにいる者たちよりも、良い人たちで、非常に熱心にみこ
とばを聞き、はたしてそのとおりにかどうかと毎日聖書を調べた。

使徒の働き 17 : 11

私たちは心づもりをするようにと聖書は教えています。それが何であったとし
ても私たちに對する神の御心にオープンな心づもりであるようにということ
です。

たとえば、最近私が知っている若い女性が婚約破棄という悲しい体験をした
ことを知りました。彼女と若者はたとえその時に結婚しないことを決断しても、
主が二人のデートを続けるかどうかについて祈っていました。その女性は二人
の関係が続き彼女の将来の婚約者が彼女と同じように感じていることを願ひ、
そして信じていました。

私は彼女の思ったように進まない場合を考え『心づもり』をしておくように
とアドバイスをしました。彼女は『それって、否定的ではないかしら？』と言
いました。

いいえ、そうではありません！

否定的であるなら『私の人生は終わりだわ；誰も私のことなんて望まないわ。
私は失敗したから、永遠にみじめなままだわ！』と、考えるでしょう。

肯定的な人は言うでしょう：『こんなことが起こって本当に悲しいわ、でも私
は神を信頼するわ。私のボーイフレンドとまだデートできることを望むけど。
私たちの関係が回復することをお願いし信じるつもりだけれど；何よりも、神
の完璧な御心を求めたいの。もし、状態が私の望むようにならないのなら、私
は耐えるわ、イエスが私のうちにおられるから。しばらくの間辛いかもしれな

いけれど、私は主を信頼するわ。最後には全てが上手く働くことを信じるの。』

これが事実面にしているのです、心積りをし、尚、肯定的でいることです。

これがバランスです。

希望の力

彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。

アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだ死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。

彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、

ローマ人への手紙 4 : 18-20

デイブと私はキリストの体の中でのミニストリーが年ごとに成長することを信じています。私たちはいつももっと多くの人々を助けたいのです。しかしもし神が違うご計画をもっておられ、もしある年何も成長しなかったとしても(私たちが始めた時とすべてが同じ) 私たちはその状況のために私たちの喜びをコントロールさせてはいけないということがわかるのです。

私たちはたくさんを信じています、しかしそれらすべてのことを超えて、ある方を信じているのです。その方はイエスです。私たちは何が起るかは分かりません。いつも私たちの益になることだけがわかるのです！

私たちがさらに肯定的になるなら、もっと神の流れの中にあることになるでしょう。神は間違いなく肯定的なので、神によって満ちるためには、もっと肯定的にならなければならないのです。

今本当に状況が敵対しているかもしれません。『ジョイス、もしあなたが私の現状がわかれば、私が肯定的であることを期待しないと思うわ。』と考えているかもしれないでしょう。

ローマ 4：18-20 をもう一度読んでみてください。そこには、アブラハムの状態を評価した後のことが伝えられています。(彼は事実を無視していません)、彼自身の体が全く不能であることとサラの胎が死んでいることを考えたうえで語られたことなのです。すべての人間的理由での希望は全くなかったけれど、彼は信仰による希望があったのです。

アブラハムは大変否定的な状況について大変肯定的だったのです！

ヘブル 6：19 で希望は魂の錨であることを教えています。希望は試練の間私たちが安定させる力なのです。決して希望することをやめないでください。もし、やめてしまうなら、あなたはみじめな人生を送ることになってしまうでしょう。あなたが何も希望をしないので既にもじめな生活を送っているのであれば、希望することをスタートしてください。恐れしないでください。あなたが望むとおりに物事がいつも変わらなうという約束はできないし、あなたが決してがっかりすることはないという約束も出来ませんが、たとえがっかりすることがあっても、あなたは希望を持って肯定的でいることができるのです。自分自身を神の奇跡の技の領域におくのです。

あなたの人生に奇跡を期待してください。

良いことを期待してください！

受け取ることを期待する！受け取るために期待する！

それゆえ、主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。主は正義の神であるからだ。幸いなことよ。主を待ち望むすべての者は。

イザヤ書 30：18

これは私のお気に入りの御言葉の一つです。これを黙想すれば、大きな希望をもたらしてくれるでしょう。この御言葉は、神はだれかを恵もうと探しておられると言っています、でもその人は気難しい態度で、否定的な思いの人ではないはずで。それは(神がその人に良いことをして下さることを恋求めている)誰かでなければならぬのです。

前兆

『前兆』とは何でしょうか？

私が御言葉を学び始めて間もない頃のある朝、洗面所で髪の毛を梳かしていると何か悪いことが始まるような感じの、はっきりしない雰囲気私の周りにあることに気づきました。実際そのような感じが私とずっとあったことに気づき始めました。

私は主に『私がいつも感じているこの感情は何なのでしょう？』と尋ねました。

『前兆』と答えられました。

私はその意味が分からなかったし、そのことについて聞いたこともありませんでした。それから少しして、箴言 15：15 の箇所を見つけました：**悩む者には毎日が不吉の日であるが、心に楽しみのある人には毎日が宴会である。**

その頃の私の人生は悪い考えと前兆でみじめであったことに気づきました。私の環境は大変難しかったのですが、そうでないときでも、私はみじめだったのです。私の考えが私の見解に毒されていて人生を楽しみ良い日を過ごそうという能力を奪っていたからなのです。

悪い言葉を遠ざける！

いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず。

ペテロの手紙第一 3：10

この箇所は人生を楽しみ良い日を味わうことと、肯定的な思いと言葉を持つことはつながっているということを平易に教えています。

あなたがどれだけ否定的であるということや、どれだけ長い間そのようであったとしても、私が変われたのですからあなたも変わることができます。時間はかかりましたが。聖霊の『助け積み重ねること』でしたが、価値のあること

でした。

あなたにとっても価値のあることになるでしょう。

何が起こっても、主に信頼するのです—そして肯定的でいてください！

第 6 章

心の思いを縛る霊

何も思い煩わないで、あらゆる場合に感謝を持ってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安があなたがたの心と思いをキリスト・イエスに会って守ってくれます。

ピリピ人への手紙 4 : 6, 7

私の神との歩みの中で、以前は信じていたあることを信じるのが困難になったというところに至ったことがあります。私には何が悪かったのかわからなかったもので、その結果、混乱してしまいました。苦境が長くなればなるほど、一層混乱するようになったのです。不信仰が飛び跳ねて大きくなったかのようでした。私は自分の召しに対し質問を始めたのです；私は神が私のミニストリーになってしまいました（不信仰はいつもみじめな思いを作ります）。

2 日続けて私の霊からこのような言葉がやってくるのを聞きました：『思いを縛る霊』最初の日にはそのことをあまり考えませんでした。しかし、2 日目に、私を取り成しを始めた時、その言葉を 4, 5 回聞いたのです：『思いを縛る霊』

私が働きをした全ての人をはじめ本当にたくさんの方々の信者たちは彼らの思いに問題があることを知っていました。私は聖霊がキリストの体に敵対する『思いを縛る』と呼ばれる霊のために祈るよう導いているのだと思いました。そこで私はイエスの御名によって思いを縛る霊に向かって祈り始めました。数分間祈っただけで、私は凄い解放感が私自身の思いにやってきたことを感じました。

心の思いを縛る霊からの解放

神が私にもたらしてくれた、ほとんどすべての解放は前進的で神の言葉を信じて告白することによって訪れます。ヨハネ 8 : 31, 32 と詩篇 107 : 20 は私の証です。ヨハネ 8 : 31, 32 でイエスは…もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。と言っています。詩篇 107 : 20 では主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを助け出された。と言っておられます。

しかし今回私は自分の思いの中で何かが起こったのが直ちにわかりました。数分のうちに祈るまで、葛藤してきた分野のことを再び信じることができました。

一つの例をお見せしましょう。霊を縛る悪霊に攻撃される前、御言葉に従って信じていました、私はミズーリー州フェントン出身の女性で、誰も私のことは知らないし、私の人生やミニストリーに何の違いももたらすことがないであろう、というのが事実なのです（ガラテヤ 3 : 28）。神の準備ができた時には、彼は誰も閉じることのできないドアを開かれるのです（黙示録 3 : 8）、そして私は神が与えてくださった実践的で自由をもたらせるメッセージを世界中で語ることになったのです。

私はラジオでアメリカ中を福音を分かち合う特権を得たことを信じています（私が故にではなく、また私に関わらず）。神は、知恵ある者を辱めるために、この世の愚かなものを選ばれた（（1 コリント 1 : 27））と言う御言葉によって、私は知っていました。主は私を病気の人をいやすために用いられたということ信じました。私たちの子供たちがミニストリーで用いられるであろうということ信じました。私は神が私の心に置かれたあらゆる種類の素晴らしいことを信じました。

しかし、思いを縛る霊が私を攻撃すると、何も信じられないようになったのです。『私は多分すべて自分で作ったことなんだ。私がそれを信じたのはそうしたかったからなんだ、でも、多分そんなことは起こるはずがない。』と言うように考えてしまったのです。しかし、霊が去ると、信じられるという思いが戻ってきたのです。

信じることを決断する

御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。

ローマ人への手紙 8 : 26

クリスチャンとして、私たちは信じようと決断することを学ぶ必要があります。神はしばしば私たちの思いがいつも同意できないような物事に対して信仰（霊

の産物) を与えられます。思いは全てを理解したいと思います—どうして、いつ、どのようにというすべて。しばしば、その理解が神によって与えられないと、思いは理解できないことを拒絶するのです。

信じる人は彼の心で(彼の内なる人) 何かがわかるのですが、彼の思いはそれに反対しているということがよくおこります。

私は御言葉が言うことをずっと前に決断しました、そして神が私に与えてくれたレマ(啓示された言葉; 神が私個人に与えられた約束や物事) を信じることは、どうしてとか、いつとか、どのようにということが理解できなかったとしても、私の人生でおこるのです。

しかし私が戦っているこのことは違うのです; それは決断を超えたものです。私はこれらの思いを縛る霊に縛られ、自分自身を信じさせることができなかったのです。

神に感謝するのは、聖霊によって神がどのように祈ればよいかを示してくれたので、私が祈り始めたこともわからなかったけれど、神の力が打ち勝ったのです。

あなたがこの本を今読んでいるのはそれを導かれたからだと思います。あなたもこの分野にたくさん問題があるのかもしれませんが。もしそうなら、イエスの御名によって祈ってください。彼の血潮の力が『思いを縛る霊』に立ち向かってくれます。ただ一度だけこのように祈るのではなく、あなたがこの分野で困難な体験をしたらいつでも祈ってください。

私たちが前進しようとする時に悪魔は私たちに激しい矢を投げつけることを絶対にやめません。あなたの信仰の盾を掲げヤコブ 1 : 2-8 を思い出してください。そこでは私たちは試練の時神の知恵を求めることができる、そして神は私たちに知恵を与え、どのようにすればよいかを示してくださいと教えています。

私は今までに出会ったことのない激しい矢の問題がありました。しかし、神はどのように祈ればよいかを示してくださいだったので、私は自由になりました。

あなたも自由になれるのです。

第7章

あなたが考えていることについて考える

あなたが考えていることについて考える

第7章

私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。

詩篇119：15

神の言葉は私たちが考える事について時間を取るべきであることを教えています。

詩篇の作者は彼が神の教えを考えたり黙想すると言っています。それは彼が神のやり方、神の指示、そして神の教えについて考えたり熟考することに長い時間を過ごすことを意味しています。詩篇1：3で、これをする人は…**水路のそばに植わった木のようにだ。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。**

神の言葉について考える事は大変有益なことです。人が御言葉をより長い時間黙想するなら、御言葉からより多くを刈り取れるのです。

考える事に注意して！

聞いていることによく注意しなさい。あなたがたは、人に量ってあげるその量りで、自分にも量り与えられ、さらにその上に増し加えられます。

マルコの福音書4：24

何と素晴らしい御言葉でしょう！私たちが読んで聞く御言葉について考える事にさらに時間をかけるなら、さらにそれを行う力と能力を持つようになると教えているのです—私たちが読んだり聞いたりしたことによるさらに啓示の知識を持つようになるのです。基本的にこれが教えていることとは私たちが吸収した神の言葉から得るといことなのです。

私たちが御言葉に捧げて学び考えた量が私たちに戻ってくる徳と知識の量を決めるという約束に特に注目をしてください。

バイン新約聖書用語解説辞典でキング・ジェームズ訳聖書の中のある御言葉のギリシャ語の『力』を意味するデュナミスは『徳』と翻訳されています。ニュー・ストロング・イグゾースティブ聖書コンコルダンスによると、デュナミ

スの他の訳は『能力』になっています。大半の人が神の言葉をそれほど深く探究しません。その結果、彼らはクリスチャンが勝利的な生きることになぜ御言葉が力強くないのかと、混乱をするのです。

真実は大抵の人が御言葉を学ぶために、あまり努力をしないからなのです。彼らは誰かの教えや説教を聞きに出かけるかもしれませんが。彼らはメッセージのテープを聞いたり、聖書を時々読むかもしれませんが、しかし彼らの生活の大半を御言葉に捧げることはしていません、御言葉について考えるために時間を過ごすということも、含めてです。

肉は本来怠慢です、多数の人が何の努力もなしに何かを得たいのです；しかし、そのような方法では何にもならないのです。もう一度申し上げます。人は自ら取得した御言葉から得ることになるのです。

御言葉を黙想する

幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。

まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。

詩篇 1 : 1, 2

ウェブスター辞書によれば、黙想という言葉の意味は『1. よく考える：じっくり考える。2. 計画する もしくは思いの中で意図する…熟考に関係する。』
バイン新約聖書用語解説辞典では黙想を『…主として、求める、…注意する、実行する、…勤勉に、…熟考する、ことを意味する言っています。

箴言 4 : 20 で、**わが子よ。私のことばをよく聞け。私の言うことに耳を傾けよ。**と、言っています。もし私たちが箴言 4 : 20 とこの『黙想する』と言う言葉の定義を一緒にするならば、私たちは神の言葉を黙想し、熟考し、私たちの考えの中で実践するようにするということがわかります。基本的アイデアはもし私たちが神の言葉が言うことを行いたいと思うのであれば、私たちは御言葉について考える事で時間を過ごさなければならないのです。

昔の言い回しを思い出してください、『実践することが完璧にする』私たちは人生の中で何であっても、たくさん実践することなしに熟練者になることは期待していません、それなのになぜクリスチャンには違ったことを期待するので

しょうか？

黙想が成功を生み出す

この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちに、しるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。

ヨシュア記 1 : 8

もしあなたがすべてあなたのかかわることで、成功、繁栄したいと思うのであれば、聖書が言う通り、神の言葉を昼も夜も口ずさまなければなりません。

神の言葉を考えるのにどれくらいの時間を使いますか？もしあなたの人生のどの分野であっても何か問題があるのであれば、この問いへの正直な答えがその理由を現しているかもしれないでしょうか。

私の人生の大半、私は自分が何について考えているかということを考えてことはありませんでした。何であれ私の頭に訪れることを単に考えていたのです。サタンが私の思いの中に考えを入れていたので何の啓示もなかったのです。私の頭の中にはサタンからの嘘か何も意味をなさないようなことのどちらかでした。一時間を取って考える価値のないことばかりだったのです。悪魔が私の思考生活をコントロールしていたので私の生活をコントロールしていたわけです。

あなたが考えていることについて考える

私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

エペソ人への手紙 2 : 3

パウロはここで私たちは肉の性質に支配されたり肉の衝動に従ったり、肉の思いで考えないようにと警告をしています。

私はクリスチャンでしたが、自分の考えをコントロールすることを学んでい

なかったので、問題をかかえていました。考える事で私の思いは忙しかったのですが、肯定的なことを生み出すことはありませんでした。

私は自分の考えを変える必要があったのです！

神が思考の場が戦場であることについて教え始められたときに言われた一つのこと私の人生の大きな方向転換となりました。神は『あなたが考えていることについて考えなさい。』と言われたのです。私が言われたとおりにし始めたら、直になぜ私がいろいろな問題を抱えてきたかがわかり始めました。

私の思いはごちゃごちゃだったのです！

私は全て間違えたことを考えていたのです。

私は教会へ長い間行っていましたが、私が聞いたことについて実際に考えたことは全くなかったのです。毎日数唱聖書を読んでいましたが、読んでいることについて決して考えたことはありませんでした。私が聞いていたことについて何も考えず学ぶこともなかったのです。それなので、何の徳や知識が私に戻ってくることも全くなかったのです。

神の働きを黙想する

神よ。私たちは、あなたの宮の中で、あなたの恵みを思い巡らしました。

詩篇 48 : 9

詩篇の作者ダビデは主のすべての素晴らしい働きを黙想することについて頻繁に語っています一神の力強い働きです。彼は主の御名について、神の憐みとその他の良いことについて考えたと言っています。

彼が落ち込んでいた時に、詩篇 143 : 4, 5 を書きました；**それゆえ、私の霊は私のうちで衰え果て、私の心は私のうちでこわばりました；私は昔の日々を思い出し、あなたのなされたすべてのことに思いを巡らし、あなたの御手のわざを静かに考えています。**

この御言葉から、彼の落ち込み憂鬱な思いへの応答は問題を黙想するという

ことではないことがわかります。そうではなく、彼は過去の良い時を思い出すことを選ぶことで問題に文字通り立ち向かったのです。一神のされたことと神の御手のわざを熟考しました。言い換えれば、彼は何か良いことを考えたのです、そしてそれによって彼の憂鬱な思いに打ち勝つことができたのです。

このことを是非覚えておいてください：あなたの思いはあなたに勝利をもたらすのに重要な役割があるのです。

神の言葉を通して働く聖霊の力が私たちの人生に勝利をもたらすのです。しかし、それがなされるために必要な大きな働きは私たちが私たちの考えが神の言葉と神についての思いと一致しないといけないのです。もし私たちがこれを行うことやこれを重要と考えないのであれば、決して勝利を体験することはないのです。

思いを新たにして変化する

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

ローマ人への手紙 12 : 2

この御言葉で使徒パウロは、もし私たちの人生のうちに神の良い完全な御心が実証されているのを見たいのであれば、見ることができると言っています。私たちが自分の心の思いを一新すればであれば、何を一新するって？神のように考える事で一新するのです。この新しい考えかたの過程によって私たちは神、が私たちに望まれる者へと変えられていくのです。イエスは彼の死とよみがえりによってこの変化を可能にしたのです。心のいっしんの過程によって私たちの人生の中でそれが現実になるのです。

混乱を避けるために、言うておくことにしますが、正しい考えと救いは何も関係がありません。救いはイエスの十字架上の死そしてよみがえりとイエスの血潮だけをもとにしたものです。人はイエスを自分の救い主として心から受け入れれば、天国に行けるでしょう、しかしこれらの中の多くの人たちは御言葉によって彼らの思いを一新していないので、神が用意された彼らの人生の良い計画を楽しんだり勝利の中を決して歩むことはありません。

長い間、私もこれらの人の一人でした。私は救われていました。天国に行けるのでした。教会に行き、宗教的規則に従っていましたが、私の人生には勝利はなかったのです。その理由は間違っただけを考えていたからです。

これらのことを考える

最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と賞られること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

ピリピ人への手紙 4:8

聖書は私たちがどんなことについて考えればよいかと言う詳しい指示をたくさん表しています。私たちをダメにするのではなく築き上げる良いことについて教えてくれるさまざまな御言葉を知ることができるのです。

私たちの考えは私たちの態度や気分確かに影響を与えます。神が私たちに語られるすべてのことは、私たちにとって良いことなのです。神は私たちを幸せにするものが何で、何がみじめにするかを知っています。悪いことばかり考える人は、みじめな人です、私は個人的な経験から、人がみじめだと、他の人をもみじめにしてしまうのです。

あなたも定期的に自分に問いかけ調べてみてください、『最近私は何のことに
ついて考えているだろうか？』自分の思考生活を調べる時間を取っててください。

あなたが考えていることについて考えることは大変価値のあることです、なぜならサタンはみじめさや問題の根源がその実際のこと以上の何かのように考えるように人をだますのが通常だからなのです。サタンは人々に起こっている（彼らの状況）ことが原因で不幸せだと考えさせたいのです、しかし人々がみじめなのは彼らのうちにあること（彼らの考え）によるのが事実なのです。

長い間私は他の人がしていることやしていないことが原因で、不幸せなんだと信じていました。自分がみじめなのを夫や子供たちのせいにしていました。もし、彼らがあんな風でなかったら、もし彼らが私の必要とすることを分かっ
ていてくれたら、もし彼らが家のことをもっと手伝ってくれたら、私はもっと

幸せなのに、と考えていました。そして、これらのことの何一つ私を不幸せにしているものではなくて、私が正しい態度を選んでいれば、と言う真実について面したのです。私の考えが私をみじめにしていたのです。

最後にもう一度言います：あなたが考えていることについて考えてください。あなたの問題を見つけ、大変素早く自分の道へと至ることでしょう。

水の上を歩き続ける

しかし、舟は、陸からもう何キロメートルも離れていたが、風が向かい風なので、波に悩まされていた。

すると、夜中の三時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。

弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「あれは幽霊だ」と言って、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。

しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」

イエスは、「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。

ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください」と言った。

そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」

そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。

マタイの福音書 14 : 24-32

私は最後の節を強調したいと思います、なぜならこの御言葉に敵が関わっているプログラムがあるということを注目して欲しいからです。ペテロは彼が今までしたことのない事をイエスの命令で一步踏み出しました。実際、イエス以外の誰も行ったことがありません。

それは信仰を要したのです！

ペテロは誤りをおかしました；彼はあまりにも長い間嵐を見つめてしまったの

です。彼は恐れてしまいました。疑いと不信仰が彼に押し寄せ、彼は沈み始めました。彼はイエスに助けを叫び求めたので、イエスは彼を助けられました。ペテロが舟に戻るや否や嵐が収まったことに注意してください！

ローマ 4：18-21 でアブラハムは彼の不可能な状態を考えた時彼は揺れ動かなかったことを思い出してください。アブラハムは状態を分かっていたのですが、ペテロのようではなかったのです、アブラハムはその問題についていつも考えたり話したりしていなかったと思います。私たちも自分たちの置かれた状況を知りながら、でも意図的に自分の信仰を高め意志を築き上げ続けることができます。

だからアブラハムは賛美を捧げ神に栄光を掲げ続けたのです。私たちはたとえ逆境の中であっても正しいことを行い続けることで神を褒め称えているのです。エペソ 6：14 が霊的戦いのとき、真理の帯を締めるようにと教えています。

あなたの人生の嵐が訪れた時、頑として、顔を火打石のように輝かせ、舟の中にはとどまっていないことを聖霊によって決断するのです！あなたが抵抗をやめて安全な場所に這い戻ったそのあとに嵐がやむことがよくあるからです。

悪魔はあなたを脅かすためにあなたの人生に嵐をもたらすのです。嵐の間、思考は戦場であることを覚えていてください。あなたの思考や感情をもとに決断をしないで、あなたの霊に確認をしてください。あなたがそれをする、最初にあったのと同じビジョンがあるのを見つけるでしょう。

パート 2 : 心の状態

序章

…ところが、私たちには、キリストの心があるのです。

コリント人への手紙第一 2 : 16

あなたの心の状態はどうでしょうか？

あなたは、心の状態が変わることがわかるでしょうか？ある時は冷静であり平安であるけれど、別の時には不安で心配かもしれません。あるいはある決断をしてそれについて確かであったけれど、後には先に大変はっきりと確信していたことに混乱してしまうのです。

これらのことを私自身の人生でも、体験してきました。何の問題もなく神を信じることができる時もあれば、疑いと不信仰が絶えず付きまとうような時もありました。

思考の状態があまりにもさまざまなようで、私の思考状態が普通なのは何時なのかと思い始めました。何が普通なのかを知りたいと思ったのです、それがわかれば異常な考えのパターンが起こったとき直ちにそれをどうにかすることを学べると思ったのです。

例えば、批判的で疑惑的な思いはクリスチャンにとって異常だとみなされるべきでしょう。しかし、私の人生の大半、それが私には普通だったのです。それがかつての私でした、私の考える事は大変悪く私の人生にたくさんの問題を起こす原因になっていたのです、私が考えていたことに何か間違いがあったことがわからなかったのです。

自分の思考生活を何とかできることがわからなかったのです。私はクリスチャンとして長く生きていましたが、自分の思考私生活についてとかクリスチャンの心の状態について学んだことは全くなかったのです。

私たちの心の思いは新生体験では生まれかわりません——新されなければならないのです。(ローマ 12 : 2)。私が何度か言ったように、心の一新は時間の要する過程なのです。あなたがこの本の次の部分を読んで、キリストを救い主と名乗る者でありながら、心の状態が異常であることがわかり、打ちのめされないでください。問題を認識することが回復に向かう第一のステップなのです。

私の場合は、数年前主との関係について今まで以上に真剣になり始め、その時神が私の問題の多くは悪い考えに基づいているということを明らかにし始められたのです。私の心は滅茶苦茶だったのです！

私は、どんなに悪い考え方をしていたかと言うことがわかり始め圧倒されてしまいました。私の心にやってくる悪い考えを投げ捨てようとするのですが、すぐに戻ってくるのです、しかし、少しずつ、自由と解放がやってきました。

サタンはあなたが心を一新しようとするのに対し、攻撃的に戦ってきますので、あなたは押し進み、そしてある程度評価できる勝利を得るまで祈り学び続けることが必須なのです。

いつあなたの思いは普通でしょうか？あらゆる場所をさまようのが常でしょうか？あるいは、あなたがしていることに集中し続けられるでしょうか？憤慨したり混乱しているものでしょうか？あなたの人生で進むべき確かな方向に納得し、平安でいるべきでしょうか？疑いや不信仰で満ちているべきなのでしょうか？恐れによって不安や心配で苦しんでいるべきなのでしょうか？あるいは神の子供として神にすべての心配を投げかけられることが特権になっているでしょうか（Iペテロ5：7）？

神の言葉は私たちには神の心があると教えています。キリストが地上で生きていた時—神の御子としてだけではなく、人の子として—の彼の思いがどのようなであったかと思えますか？

思考の戦いの次の箇所を祈りながら進んでください。イエスの弟子であり勝利の道を歩くことを決断した人にとって普通の考え方と異常な考え方に対し目が開かれることと信じています。

第8章

いつ私の思いは普通なの？

どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、

エペソ人への手紙 1：17, 18

私たちが啓発された『心の目』を持つことで知恵をえるようにとパウロが祈っていることに注目してください。私が学んだことのいくつかをもとに、『心の目』を思いと描いています。

クリスチャンとして、私たちの思いはどのような状態であるべきなのでしょう？ 言い換えるならば、クリスチャンの普通の思いの状態とは何なのでしょう？ この質問に答えるために、私たちは思いと霊の異なった機能を見ていかなければなりません。

神の言葉によると、思いと霊は一緒に働きます：これを私は『霊を助ける思い』の原理と呼びます。

この原理をよりよく理解するために、クリスチャンの生活の中でそれがどのように働くか見ることにしましょう。

心の思いと霊の原理

いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。

コリント人への手紙第一 2：11

人がキリストを救い主として受け入れると、聖霊がその人のうちに住むためにやってきます。聖霊が神の御心を知っていると聖書は教えています。人のうちにあるその人自身の霊だけがその人の考えを知っているように、神の御霊だけが神の思いを知っているのです。

聖霊が私たちのうちに住んでいることから、そして、聖霊が神の思いを知つ

ているということから、彼の目的の一つは神の知恵と啓示を私たちに表すことなのです。その知恵と啓示が私たちの霊に分け与えられ、そして私たちの霊が、私たちの思いである心の目にその意味を明らかにするのです。聖霊がこのように行い私たちは霊的になされた働きを実際的なレベルで理解することができるのです。

普通それとも異常？

クリスチャンとして、私たちは霊的であり、また生まれながらの者でもあるのです。生まれながらの者は霊的なことをいつも理解することができません；それゆえに、私たちの霊の中で何が起きているのかと言うことを啓発されることが必然的に必要なのです。聖霊はこの啓発へと私たちを導くことを望みます、しかし霊が明らかにしようとしていることを忙しすぎるために、思いはしばしば見失ってしまうのです。忙しすぎる思いは異常なのです。空っぽではなく、休息している思いが普通なのです。

思いは理由づけ、心配、不安、恐れなどで、満ちているのは良くありません。冷静、静かで、穏やかであるべきなのです。この本の第二のパートに進んできて、自分の思いの普通ではない状態をいくつか見始めているかもしれません、またあなたの思いで良く表れる状態であると気付いているかもしれないのです。

思いは、この章で表現された『普通』の状態で保たれることが必要であるということを理解することが重要なのです。普通の状態での私たちの思いを比較してみると、聖霊によってなぜほとんど明らかにされないのか、そして私たちがこれほど頻繁に知恵と啓示にかけているように感じるかがわかるでしょう。

思い出してください、聖霊はクリスチャンの思いを啓発しようとするのです。聖霊は神からの情報を人の霊に与えます、そしてもし、その人の霊と思いがお互いに助け合うなら、その人は神の知恵と啓示によって歩くことができるのです。しかしもし人の思いが忙しすぎるなら、主がその人の霊を通して明らかにしようとしていることを見逃してしまいますのです。

かすかな細い声

主は仰せられた。『外に出て、山の上で主の前に立て。』すると、そのとき、主が通り過ぎられ、主の前で、激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風のあとに地震が起こったが、地震の中にも主はおられなかった。地震のあとに火があったが、火の中にも主はおられなかった。火のあとに、かすかな細い声があった。

列王記第一 19 : 11, 12

何年もの間私は私のうちに住まわれる聖霊によって神が物事を明らかにしてくださることを求め、啓示のために祈りました。そのリクエストは御言葉にかなっていることがわかっていました。私は御言葉を信じそして求めていることが確かであり、それを確かに受け取れると思いました。しかし、大半の期間、『霊的間抜け』と言う風に感じました。その時私は聖霊が私に明らかにしたいことをほとんど受け取れなかったのは私の思いがあまりにも放蕩で忙しかったので与えられた情報を見失っていたからだということ学んだのでした。

二人の人が一緒に部屋にいることを想像してください。一人の人がもう一人の人に秘密を伝えるためにささやこうとしています。もし部屋が騒音で満ちていたら、メッセージが語られたとしても、部屋がうるさすぎて聞くことができないうために秘密の情報は受け取れないでしょう。聞く人が綿密な注意を払わない限り、その人は話がされていることにも気づかないかもしれないのです。

それが神の霊と私たちの霊との間でのコミュニケーションの方法なのです。聖霊の方法は優しいのです；大抵の場合、聖霊はこの箇所での預言者に語ったように『かすかな細い声で』私たちに語るのです。それ故に私たちは聞きやすい状態に自分を保つことを学ぶことが必然なのです。

霊と思い

ではどうすればよいのでしょうか。私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。霊において賛美し、また知性においても賛美しましょう。

コリント人への手紙第一 14 : 15

『思いを助ける霊』の原理を理解するより良い方法は祈りを考えれば良いでしょう。この箇所です使徒パウロは霊と知性の両方で祈ると言っています。

私はパウロが話していることが良くわかります、なぜなら私も同じことをするからです。私は頻繁に霊で（異言）祈ります；この方法でしばらく祈った後、何かの思いが私の思いに現れ、そこから英語（私の母語）で祈ります。この方法によって思いが霊を助けるのだと信じるのです。神の知識と知恵を私が理解できる方法で伝えるのに思いと霊と一緒に働くのです。

これはまた逆でも働きます。私が祈りたいとき、自分を神に祈れるような状態にします。もし私の霊に特別に掻き立てる者がなければ、私の思いから祈り始めます。私が気付いている問題や状況について祈ります。時々このような祈りは本当に退屈なようです—私の霊から何の助けも来ないのです。何か葛藤しているかのようです。それで、私が既に知っている何かほかのことへと進んでいくのです。

私は聖霊が何かの問題を掴んでくれるまでこの形を続けます。彼が掴んでくれた時、聖霊が祈りたいあることに出会ったことがわかります、それは単に私が祈ろうとしていた何かではありません。この方法で私の思いと私の霊は一緒に働いていて、神の意志を成就するのにお互いが助けているのです。

異言とその説きあかし

こういうわけですから、異言を語る者は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。

もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実を結ばないのです。

コリント人への手紙第一 14 : 13, 14

霊と知性が共に働く方法の別の例は異言の説きあかしのたまものです。

私が異言を語る時、神が私自身か他の人かに私の言っていることの理解を与えてくれるまで私の知性には実りがありません；それから私の知性が実りを見せるのです。

たまものが異言や説きあかしではないことを心に留めておいてください。説きあかしはメッセージの言葉そのままの説明をします、ほかの人が言ったことをある人が解釈を与えるのです、解釈する人自身の特別な個性によって表現させるので解釈者自身のスタイルによることになります。

例を一つ差し上げましょう：スミス姉妹が教会で立ち上がり異言でのメッセージをしたとします。それは彼女の霊から現れたものなので、彼女自身、また他の誰も彼女が言ったことがわかりません。神がそのメッセージが何か私にその意味の解釈を与えるかもしれませんが、それは多分一般的な方法ででしょう。私が信仰で踏み出して語られたことを通訳し始めると、そのメッセージを皆がわかるようにすることになります。しかしそれは私の特別な表現の方法で現されるのです。

異言での祈ること、そしてその説きあかし『霊を助ける思い』の原理を理解する素晴らしい方法の一つでしょう。霊が何かを語り、知性に理解が与えられるのです。

これを考えてみてください：スミス姉妹が異言で語ったとしましょう、そして神は説きあかしをする誰かを探しています、もし私の思いが放蕩し何も聞けない状態であったら、神は私をとおり過ぎなければならないでしょう。たとえ彼が私にその理解を与えようとしていても、私はそれを受け取れません。

私が主にあってまだ若く霊的賜物について学んでいた時、私は常に異言で祈っていました。かなりの時が過ぎて、お祈り生活を退屈に感じ始めました。私はそのことについて主と話す時、私が何について祈っているかわかってないので退屈であることを教えてくれました。霊によって祈るとき何を言っているのかいつも理解できないということはわかるけれども、このようなタイプの祈りはバランスが取れていなくて、もし何の理解も出来なければもっとも実りが無いということを学びました。

平安で、油断しない心

志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

イザヤ書 26 : 3

これらの例からあなたの心と霊と一緒に働くのがわかっていただけでしょ。そう言うわけで、あなたの心を普通の状態に維持することが大変重要なことです。それでなければ、あなたの霊を助けることができません。

サタンは、もちろんこの事を知っているのです。彼はあなたの思いのうちに戦いを仕掛けてくるのです。サタンはあなたをいろんな悪い考えでいっぱいにしてあなたが思考で忙しく、負担になることを望んでいます、それで聖霊があなたの霊を通して自由に働くことができなくなるのです。

心は平安を保たれるべきなのです。預言者イザヤが私たちに語る通り、心が正しい状態であれば、平安があるのです。

しかし油断をしてはいけません。担うことを意図しないことを抱えるとこれができなくなるのです。

良く考えてください：どれだけの時あなたの心は平静でしょうか？

第9章

さまよい思案する心

心を引き締め身を慎み、イエス・キリストの現れのと きあなたがたがにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。

ペテロの手紙第一 1 : 13

前の章で、私たちの思考が忙しすぎるのは通常ではないということを述べました。心があらゆるところをさまよっていることも普通の状態ではありません。集中できないというのは悪魔からの精神的な攻撃を示しています。

思考生活を鍛錬することが決してなかったので、心が何年もの間さまよったままの人がたくさんいます。

集中できないような人たちは自分が精神的に欠陥があるように考える事が多いからなのです。集中力欠乏はビタミン欠乏の症状でもあります。ビタミン B 群は集中力を高めるので、もしあなたが集中力にかけるのであれば、栄養を正しくとる食べ方をしているか自問してみてください。

究極な疲労も集中力に影響を与えます。私が過剰に疲れているときサタンに抵抗するのが難しいことを彼は知っているのです。悪魔は私たちが彼を困らせることがないように、私たちが精神的に欠陥があるように思わせたいのです。悪魔は彼の嘘を私たちが受身的に受け入れることを望んでいるのです。

私たちの娘の一人が子供時代集中力に困難がありました。集中力と解釈はともに働くので彼女には本を読むことが困難でした。多くの子供たち、大人でさえも本の解釈ができません。彼らの目はページ上の文字を眺めています、これらの心は読んでいることを理解していないのです。

集中力の欠如の結果が解釈の欠乏であるということが多いのです。自分でもそれが良くわかります。聖書や本の一章を読むことができて、突然今読んだことがわからないということがあるのです。今読んだところに戻ってまた読むことはできますが、すべて初めて読むかのようです。なぜなら、私の目は文字を眺めているのですが、私の心はどこかほかのところをさまよっていたからなのです。私が自分のしていることに集中していなかったため、私が読んだことを解釈できなかったのです。

解釈の欠如の背後にある実際の問題はさまよう心による注意力の欠乏なのです。

さまよう心

神の宮へ行くときには、自分の足に気をつけよ…

伝道者の書 5 : 1

『倒れない』と言うことは『バランスを崩さない、あるいは脱線しない』ことを意味しています。この言葉を拡大すると人が行っていることに対して心を保ち続けることを意図しています。

私は心がさまよっていたので、鍛錬が必要でした。それは簡単ではなくて、逆戻りすることが時々ありました。何かのプロジェクトをやり遂げようとする一方、今取りかかっていることとは何もかわりのないことに私の心がさまよっているのに、突然気付くのです。私はまだ完璧な集中力に至ってはいませんが、少なくとも自分の心の赴くままに思いを巡らせないことがどれだけ重要であるかがわかりました。

ウェブスターの辞書でさまようという言葉は『1. 目的なく動く：2. 遠回りや定まらない調子で行く。緩歩。3. 不規則なコースあるいは行動で進む：迂曲…5. 不明瞭あるいは支離滅裂に考える事や表現する。』

もしあなたが私のようなものであるなら、あなたは教会の礼拝の中でスピーカーの話聞き、語られている言葉を楽しんでいるのに、突然心がさまよい始めるのです。しばらくしてあなたは『目覚め』何が起こっていたかを思い出せないのです。あなたの体は教会にいたのに、あなたの心はショッピングセンターでお店をぶらぶらしていたか家の台所で夕食を作っていたのです。

霊的戦いの中で、心は戦場であることを思い出してください。そこで敵の攻撃がされるのです。人が教会に出席していても、もしメッセージに心を集中できなければ、そこで彼は何も得ることがないということを敵は良く知っています。人が行っている仕事に心を集中させることができないのであれば仕事を完了させるための鍛錬ができないということを悪魔はわかっているのです。

このような心のさまよい状態は会話の間にも起こります。私の夫、デイブが話しかけ、しばらくの間私は聞いています；そして突然彼の話聞いていなかったことに気づく時があるのです。どうして？私が心をさまようままにさせておいたからなのです。私の体はそこで立って聞いているのですが、私の心は何も聞いていなかったのです。

何年もの間、このようなことが起こると、デイブが話したことを全く分かっていないようなふりをしていました。今は『さっき言ったことをもう一度言ってもらえる？私の心がさまよっていたようで、あなたの言ったことを聞いていなかったの。』と、言うようにしています。

このようにして、私は少なくとも問題に対処していると思うのです。問題に直面することがこのような状況に勝利をもたらす唯一の方法なのです！

もし悪魔が私の心をさまよわせることで攻撃を仕掛けてきたのであれば、恐らく私が聞く必要のあることが語られたと決断しました。

この領域で敵と戦う一つの方法として大半の教会でカセットテープが支給されるようになったことです。もし教会で話されていることに心を集中させることができないようであれば、その週のメッセージテープを買ってその内容を自分のモノにするまで何回でも聞くようにしてみてください。

悪魔はあなたが彼に譲ることがないのがわかると諦めるでしょう。

覚えておいてください、サタンはあなたが精神的に欠陥—あなたの何かが悪い—があるように思わせたいのです。しかし、真実はあなたは心の鍛錬を始める必要があるだけなのです。心の向くまま、町中を走り回らないでください。今日から『転ばない』ように、あなたがしていることに心を集中させるようにしてください。しばらくの間練習が必要でしょう。古い習慣をやめて新しい習慣を始めるのには時間がかかります、しかし最後には価値があるのです。

思案する心

まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとお

りになります。

だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。

マルコの福音書 11 : 23, 24

一つのことであれそれ以上のことに直面すると、私は自分が『どうかしら』とよく言っていることに気づくのです。たとえば：

『明日の天気はどうかしら。』

『パーティーに何を着ていこうかしら。』

『ダニー（私の息子）の成績表はどうかしら。』

『セミナーには何人くらいの人があるかしら。』

不思議がるという言葉の辞書での定義は『困惑するあるいは疑う思い、好奇心や疑わしい思いに満ちる』となっています。

私は何でも想像できることをいつもただ不思議に思うより肯定的に考える事を学ぶようになりました。ダニーがどんな成績を取ってくるかと思えばぐねるより、彼は良い成績を取ってくると信じていることができるし、パーティーに何を着ていくかと思案するより何を着るかを決断できるのです。天気のことやミーティングに何人来るかと思案するより、その気がかりになっていることを主にゆだね、神が何が起こってもすべてを良いものへとしてくれると信頼できるのです。

思案することで人は決断ができないままにし、未決断は混乱のもとになるのです。思案、未決断と混乱は人が神からの祈りの答えや必要を信仰によって受けることを妨げるのです。

マルコ 11 : 23, 24 でイエスは『あなたが祈りで求めるものを、あなたが受け取るかどうか』とは言っていません。彼は『祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい—あなたは受け取るのです！』と、言っています。

クリスチャンとして、信じる者として、私たちは信じるのです—疑いはなし！

第 10 章

混乱した思い

あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

そういう人は、主から何かをいただけるとってはなりません。

そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。

ヤコブの手紙 1 : 5-8

思案することと混乱する思いには関連があることがわかりました。思考がはっきりしないで思案することが疑いや混乱させることになるのです。

ヤコブ 1 : 5-8 は思案すること、疑いや混乱にいかにか打ち勝ち、神から何を受け取る必要があるかを理解するのを助けてくれる素晴らしい御言葉です。私にとって、『二心の人』とは混乱を絵にしたようでその人は絶えず行ったり来たりして、決して何も決断することはありません。その人が決断したと思うや否や、思案することや、疑いと混乱する思いがやってきて、再び二心に戻ってしまうのです。その人は全てのことがはっきりしません。

私はそのような人生を生きてきたのです、悪魔が私に宣戦布告をし私の思考が戦場になっていたのがわからなかったのです。私は全てのことに全く混乱をしていて、それがなぜか理解できていなかったのです。

推論することが混乱に至らせる

…あなたがた、信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか？

マタイの福音書 16 : 8

ここまで、思案することについて話し合ってきました、次の章で疑いについて話し合うことにしましょう。ここでは混乱についてあと少し詳細に述べることにします。

神を信じる人の大多数が混乱していることを自認しています。なぜでしょう

か？今まで見てきたように、その理由の一つは思案することです。それ以外では推論があります。推論を辞書では『起こるということを前提にした論理的感覚を与える基礎となる事実や動機』と言う定義が一部あります。

それを簡単な方法で言うなら、人が物事の背景の『なぜ』を算出しようとするときに推論が起こるのです。状況や問題の入り組んだ要素を理解しようと心の思いがぐるぐる回って推論することになるのです。状態や教えが論理的であるか、論理的でなければ無視するかを分析するとき、私たちは推論をします。

サタンは私たちに推論するようにして神の御心をしばしば盗むのです。主は私たちがあることをするようにと導かれます、しかしそれが納得できないことであるなら—もしそれが論理的でなければ—私たちはそれを無視してしまおうとするかもしれないのです。神が人にするようにと導かれることはいつも論理絶するかもしれませんが、特にそれが一般的にはないことであつたり、気が進まないことであつたり、個人的な犠牲を払うことや不快さを要することがあるのです。

心の中で推論しないで霊によって従いなさい

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。

コリント人への手紙第一 2 : 14

次に、実践的、個人的な例がありますので、心の中での推論に対し霊による従順についての問題をもっと理解することができますでしょう。

ある朝私が毎週奉仕する地元での集会に行くための着換えをしていた時に、そこで私たちを手伝ってくれる女性について、彼女が何と誠実であるかと考え始めたのです。私の心の中に何か彼女を祝福してあげたいという思いが起こってきたのです。

『天のお父様、ルツ アンはずっと私たちにとって大変祝福でした、』『彼女を何で祝福してあげれば良いでしょうか？』と、私はお祈りをしました。

直ぐに、私の目はクロゼットにかけてあった新しい赤いドレスに止まったので、主がそのドレスをルツ アンに上げるように示されたことがわかりました。私はそのドレスを 3 か月前に買ったのですが、一度も着たことがありませんでした。実際、お店から買って来たままでビニールの袋が掛かったままだったのです。私はそのドレスを本当に気に入っていたのですが、それを着ようと考える度に、何かの理由で着る気がなくなるのでした。

覚えていますか、私の目が赤いドレスに留まったとき、それをルツ アンに上げるべきであることがわかっていたと言ったことを。しかし、それを諦めたくなかったので、すぐに心の中で理由づけをし始めたのです。それは真っ新で一回も着たことがない上に、結構高かったので、神様がそれを上げるように言うはずはないは—それに合うように赤とシルバーのイアリングまで買ったのだから！

その問題に肉の思いを持ったまま霊では神に敏感でいようとしていたかのようになります。すべてが上手くいっていたかのようですが、私たち人間は神様が語っておられることをしたくない時自分に言い訳をして自分を欺くことができるのです。数分の間、すべてのことを忘れて自分の仕事に出かけました。結果はそのドレスが新しく気に入っていたので上げたくなかったのです。私の心が、私が感じた願いは神様からではないと言い訳したのです、しかしそれは悪魔が私が楽しむことを奪おうとしたからなのです。

数週間後に、私は同じ場所でのミーティングに行く準備をしていました、前と同じように、ルツ アンの名前が心に訪れたので、彼女のために祈り始めました。私は同じ場面を繰り返して、言いました。『天のお父様、ルツ アンは私たちにとって本当に祝福です、彼女を何で祝福してあげたらよいでしょうか？』直ちに、また赤いドレスに目が留まり、私の気分が沈んでいきました、以前の出来事を思い出したからなのです（完全に忘れてしまっていたのです）。

このときはそのことでもがくことがありませんでした；神様が私に示されたことを行うか、『主よ、あなたが示されていることはわかりますが、それだけは致しません』と、言ってその問題に直面する必要がありました。私は主のことを大変愛しているので、故意にわかりつつ彼に従わないということはできないのです。それでその赤いドレスについて主と話し始めました。

数分のうちに、前の状況で私は神の御心に対して私の方法が正しいと理由づ

けをしたことに気づきました。それは瞬間のことで、ドレスが新しかったので主から聞いたのではないと考えたのでした。しかし古いものだけを上げるようにと聖書は教えていないことが今わかったのです！新しいドレスを上げることは私にとって一層の犠牲だけど、ルツアンには更なる祝福になるのです。

私が心を主に開き始めた時、彼は私とそのドレスをルツアンのために買ったということから示し始められました；そういう理由から私はそれを全く着ることがなかったのです。主は私を彼の代理人としていつも彼女を祝福するようにされたのです。しかし、ドレスに対する私自身の思いがあって、それを進んで横に置くまで私は神の霊に導かれることはできなかったのです。

この出来事から私はたくさんのことを学びました。私たちは自分の思考に簡単に導かれ理由づけの中にとどまることで神の御心から離れさせるということが私には理由づけに対する恐れを起こすことになったのです。

思い出してください、コリント第一 2：14 によれば、生まれながらの人は霊の人を理解しないのです。私の肉の思い（生まれながらの私）は私が着たことのない新しいドレスを上げることを理解できません、しかし私の霊（霊の人）はそれが良くわかるのです。

この例がこの分野の理解を助け神の御心の中を歩むのに役立つことを望んでいます。

（ところで、あなたは私がルツアンに赤いドレスを上げたかどうかと思っているかと思います。はい、上げましたよ、彼女は今私たちのオフィスでフルタイムで働いていて時々あの赤いドレスを着て働いています。）

御言葉を行う者！

また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。

ヤコブの手紙 1：22

私たちが御言葉が言うことを見ても行わない時は、理由づけが何か関わっていて真実以外のものを信じようと自分を欺いているのです。御言葉が言うすべ

てのことを理解するために過剰な時間を費やすことはできません。もし霊によって証言できるなら、それを進んでやってみればよいのです。

神様は、私が好む好まないのどちらであっても、またしたいかしたくないアイデアであっても、神様に従うことを望んでおられることがわかりました。

神様の御言葉に通して、もしくは私たちの内なる人によって神様が語られるとき、彼が言ったことが論理的であってもなくても理由づけや論争や自問をしてはいけません。

神様が語られるとき、私たちは理屈を言うのではなく一行動するのです。

人間の理由ではなく、神を信頼する

心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。

箴言 3 : 5

言い換えれば、理由づけに頼ってはいけません。理由づけは欺きへのドアを開き更なる混乱をもたらします。

私は主になぜこれほど多くの人が混乱しているのかを聞いたことがあります、神様は『すべてのことを解決しようとするのをやめるように彼らに教えてあげなさい、そうすれば彼らは混乱しなくなるだろう。』と語られました。それは全く本当だということがわかったのです。理由づけと混乱は一緒に働くのです。

私たちは心であることを思い巡らせることができます、それを主の前で握り彼がその解釈を与えたいかがどうかわかります、しかし混乱をした気分になったなら、私たちは考えすぎているのです。

理由づけはたくさん理由で危険です、そのうちの一つはこれです：理由づけをして自分で何か納得できることで解決するのです。しかし私たちが正しいと理由づけたことが間違っているかもしれないのです。

人間の思いは論理と秩序と推論が好きです。理解できることを扱うことを好みます。それなので、私たちの心の各部屋の小さな瓶に入れようとしがちで、『これはこの方法に違いない、ここにこんなうまく収まるんだから。』と、考える

のです。私たちの心が見つけてとっても快適であっても全く間違っているということがあるのです。

使徒パウロはローマ 9：1 で私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。と、言いました。パウロは彼の理由づけが正しいからではなく、彼の霊によって証言しているのです、彼は正しいことを行っているということがわかるのです。

私たちが見てきたように、時々心の思いが霊を助けます。心の思いと霊は一緒に働きます、しかし霊はより高潔な器官で心の思いよりいつも尊敬されるべきなのです。

もし私たちの霊で、あることが悪いことだとわかるなら、私たちに理由づけをさせないようにするべきなのです。また、もし正しいことがわかれば、そこから理由づけをさせないようにしなければいけません。

神は多くの問題に対する理解を与えてくれますが、私たちは主と歩み彼の御心に従うためにすべてのことを理解しなければならないことはないのです。神が私たちの信仰を引き延ばすための道具として大きな問いかけを残されることがあります。人間は理由づけを諦め単に神を信じるということは難しいのです、しかしいったんその過程ができれば、心は休息に入れるのです。

理由づけは霊を見分けたり啓示の知識を妨げるように私たちの思いと関わっている『忙しい活動』の一つなのです。頭の知識と啓示の知識の間には大きな違いがあります。

私の思いの中に表されたことは正しいということを経験によって知るというような方法で神が明らかにされることを望むのです。私は理由づけや論理的にわかろうと混乱して疲れ果てるまで、ある問題を思い巡らしたいとは思いません。私は自分の人間的洞察や理解ではなく、神への信頼からくる心の平安を味わいたいのです。

私たちはたとえ自分自身ではわからなくてもすべてを知っておられる方を知っているという満足に至るところまで成長しなければならないのです。

キリスト以外は知らないと決心する

さて兄弟たち。私があなたがたのところへ行ったとき、私は、すぐれたことば、すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。

コリント人への手紙第一 2 : 1, 2

これがパウロの知識と推論への対処だったのです、私はこれを理解し感謝しています。長い時間がかかりましたが、たくさんの例によってやっとわかったのです、あまりわからないほうがより幸せだということです。時々あまりたくさんの方のことを分かろうとしてみじめにすることがあります。

私はいつも大変好奇心が強く、詮索好きだったのです。満足するためにすべてのことを納得しなければならなかったのです。この理由づけが私の混乱の元で神が私に与えようとしておられることを受け取ることへの妨げになっていることを示されました。神は、『ジョイス、もし霊を見分けられるようになりたいのであれば、肉による理由づけを横に置かなければならない。』と仰られました。

もし物事を納得することができたらもっと安心だということが今はわかるのです。自分の生活の中でどうなるかがわからないということは望まないのです。私はあらゆることをコントロールしたかったです—理解できなかったとき、どうしたらよいのがわからなくなるのです—ぎょとなるからです。しかし何が欠けていました。心に平安がなく、理由づけから肉体的に疲れ切っていました。

このように継続する間違った精神的活動はあなたの肉体をも疲れさせるのです。疲れ切らせるのです！

神は私に理由づけを諦めるように要求されました、そして私は理由づけが悪習になっている人には同じことを強く言いたいと思います。そうです、私は理由づけが悪習になっていたのです。ドラッグ、アルコールやニコチンが悪習になっているのと同じように悪い精神的活動も悪習になるのです。私は理由づけが悪習になっていたのも、それを諦めた時禁断症状になったのです。私は何かを失ったような驚きを感じました、なぜなら何がどうなっているかが、わから

なかったからなのです。退屈にさえ感じたのです。

私はあまりにも多くの時間を理由づけで過ごしていたので、それをやめた時には、このような平安に慣れなければならなかったのです。しばらくの間、しかし今はこれが気に入っています。かつてはいつも全てのことへの思いを追いかけていましたが、今では理由づけの労力と痛みに耐えられません。

理由づけは神が私たちの思いの中に住まうのに普通の状態ではないのです。

心が理由づけで満ちているとき、それは普通ではないということを知ってください。少なくとも、勝利的なクリスチャン—思考の中での戦いに勝つことを望む信者ではありません。

第 11 章

疑いそして不信仰な思い

…信仰の薄い人だな、なぜ疑うのか？ マタイの福音書 14 : 31

イエスは彼らの不信仰に驚かれた。 マルコの福音書 6 : 6

私たちは通常、疑いと不信仰について同じことであるかのように話します。実際には、これらは関連しているかのようですが、この二つは大変異なったものです。

ヴァイン新約聖書解説辞書は疑いを動詞の形で『二つの方法に立つ…どちらをとるか不確かであることを示す…信じる者の信仰が小さいことを言う…不安である、迷った心の状態による、希望と恐れのない揺れ動いている…』と言うように定義をしています。

同じ辞書が二つのギリシャ語のうちの一つの言葉を『キング・ジェームズ改訂版訳で不信仰をいつも「不従順」による』と訳しています。

私たちがこれら二つを敵の力強い道具であるとみるなら、疑いは人を二つの意見の間で揺れ動かし、不信仰は不従順に導くものであることがわかるのです。

悪魔が私たちが何を攻撃しようとしているかがはっきりわかると思うのです。私たちが取り扱うのは疑いか、それとも不信仰なのでしょうか？

疑 い

…あなたがたは、いつまでどっちつかずによるめいているのか？…

列王記第一 18 : 21

私が疑いについて光を放つ話をお分かちしましょう。

ある病気の男性がいて癒しについての御言葉を彼の体に対して告白をし、癒しが現れることを信じていました。そのようにしている間、彼に周期的に疑いの思いの攻撃がありました。

彼が困難な時を通り抜けた後、失望し始めました。神が彼の目を開き霊の世界をみせました：これが彼が見たことでした：悪魔が彼に嘘を語っていて、彼が癒されることはない、そして御言葉を告白しても役に立たないと彼に語っているのです。しかし毎回彼が御言葉を告白したときに、光が彼の口からまるで剣のように出てきて、悪魔は怖がって後ろに下がっていることをも見ました。

神がこのビジョンを彼に示したので、その人は御言葉を話し続けることがなぜ重要であるかがわかりました。彼には信仰があるのを見ました、それで悪魔が彼を疑いを持って攻撃していたのです。

疑いは神が私たちに与えられるものではありません。聖書では神は全ての人に信仰の量りによって与えられる（ローマ 12：3）。神は私たちの心に信仰を備えられました、しかし悪魔は私たちの信仰を打ち壊そうと疑いを持って攻撃をするのです。

疑いは神の御言葉と反対の形を持って私たちの考えの内にやってきます。こういうわけで私たちが神の御言葉を知ることが大変重要なのです。もし私たちが御言葉を知っていれば、私たちは悪魔が私たちに嘘をついていることがわかるのです。確かに彼はイエスが彼の死と復活によって私たちを購われたモノを盗むために嘘をつくのです。

疑いと不信仰

彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこうになる」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。

アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだ死んだも同然であることと、サラの胎がしんでいることを認めても、その信仰は弱りませんでした。

彼は不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、

神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。

ローマ人への手紙 4：18-21

私は、神が約束されたことを知っていて、しかも疑いと不信仰で攻撃をされているという戦いの中にいるときに、この御言葉を読んだり熟考するのが好きです。

アブラハムは彼自身のからだからの相続人を得ることになるという約束を神から与えられました。長い年月が過ぎましたがアブラハムとセラの間には子供は与えられました。アブラハムはしかし、神が言ったことは起こるといふ信仰に立っていました。彼が信じていた間、疑いや神に従わせないような不信仰の霊で攻撃をされていました。

神が私たちに突き進むように促されても、このような状況の中で不従順が諦めさせようとしめます。不従順は主の御声を無視したり、神が何であっても私たちに個人的に語っておられることや十戒を破ったりすることです。

アブラハムは確固としたままでした。彼は神に賛美と栄光をたたえ続けました。聖書は彼がそのようにしたので、信仰が強くなったと述べています。

神が私たちに何かをするようにと語られるとき、神からの言葉として行くか信じるのが信仰です。神が私たちに何かを行うように期待して、それができるように私たちに能力を与えないのは神にとって愚かしいことです。サタンは私たちが信仰に心が満ちていることがいかに危険であるかを知っているので、私たちに疑いと不信仰で攻撃をするのです。

それは私たちに信仰がないというわけではありません、ただサタンが嘘で私たちの信仰を潰そうといっているのです。

一つ例があります。私がミニストリーの召しを受けた時の時間に関することです。それはいつも通りの朝でした、例外は 3 週間前から聖霊に満たされていたということです。私の初めての教えのテープを聞き終えたところでした。それはレイ モスショルダー牧師による『向こう岸に渡ろう』というメッセージでした。私は誰でも一つの御言葉で一時間の教えができるんだということに驚き、彼の教えのすべてに興味深く思ったのでした。

私が自分のベッドを整えていた時、神の言葉を教えたいという激しい思いを突然感じました。そして『あなたはあらゆる場所に行って私の言葉を教える、あなたは大きな教えのためのテープミニストリーを持つようになるであろう。』と主の御声がやってきました。

神が実際に私に語ったということを知る理由や、私が聞いたと思ったこと

にも何の根拠がありませんでした。私自身たくさん問題がありました。私は『ミニストリー教材』のように見えなかったでしょうが、神は世の智者を困惑させるために弱者や愚か者を選ばれるのです。(コリント第一 1 : 27) 神は人の外側ではなく心を見られます。(サムエル第一 16 : 7)。もし心が正しかったら、神はその肉を変えることができるのです。

何も肉的に信じられることはなかったのですが、その思いがやってきたとき、私は主が私に願われたことができるという信仰で満ちたのです。神が召される時、願いを与え、その仕事ができるという信仰と能力を与えられます。しかし、私が訓練と働きに出るのを待っている間、悪魔は定期的に疑いと不信仰で攻撃してきました。

神は神の民の心に夢とビジョンを置かれます；それは小さい『種』として始まります。女性が妊娠した時子宮に種が植えられたかのようにです、私たちは神が語り約束されたことで、いわゆる『妊娠』をするのです。『妊娠』の期間、サタンは私たちの夢を『流す』ために一生懸命働きます。彼が使う道具の一つが疑いです；もう一つが不信仰です。これらのどちらもが私たちの思いに対して働くのです。

信仰は霊の産物です；それは霊的な力です。敵は私たちの霊と思いが同意してほしくないのです。もし神が私たちに何かをするための信仰を与え、私たちが肯定的になって、それができると信じはじめたなら、私たちが彼の王国を間違いなく破壊するようになるのです。

水の上を歩き続ける！

しかし、舟は、陸からもう何キロメートルも離れていたが、風が向かい風なので、波に悩まされていた。

すると、夜中の三時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。

弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「あれは幽霊だ」と言って、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。

しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

すると、ペテロは答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」

イエスは、「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。

ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください」と言った。

そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」

そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。

マタイの福音書 14 : 24-32

私は最後の節を強調したいと思います、それはこの御言葉の中に敵が備えたプログラムがあるということです。ペテロは彼が一度もしたことの無い事をイエスの命令によって一歩踏み出しました。実際、イエス以外誰も行ったことがありません。

それは信仰を要するのです！

ペテロは間違いをおかしました；彼は嵐をあまりにも長い間見すぎたのです。疑いと不信仰が彼に迫ったので、彼は沈み始めたのです。彼はイエスに助けを叫び求めて、助けられました。注目したいのはペテロが舟に戻るや否や嵐が止んだということです。

ローマ 4 : 18-21 でアブラハムは彼の不可能な状況を考えて時揺れ動かなかったということを思い出してください。アブラハムは状態がわかっていました、しかしペテロのようではありませんでした、アブラハムはその問題をいつも考えたり話し合ったりはしなかったと思います。私たちも置かれた状況がわかっていても、意図的に信仰を高め自分たちを立て上げることができるのです。

だからアブラハムは神をたたえ賛美を捧げ続けたのでしょう。逆境の中でも私たちは正しいことを行い続けるとき神をたたえるのです。エペソ 6 : 14 では霊的戦いのとき、真理の帯を締めるべきであることを教えています。

あなたの人生に嵐がやってきたとき、しっかり立ち、顔を火打石のように輝かせ舟にはとどまらなさと聖霊にあつて決断をします。あなたが止めて安全で安心な場所に這って戻ったとたんに嵐が止むことが多いのです。

悪魔はあなたを脅かすためにあなたの人生に嵐をもたらします。嵐の間、思

考は戦場であることを覚えておいてください。あなたの考えや感情をもとに決断をするのではなく、あなたの霊に確認をしてください。あなたがそのようにすると、最初にあったのと同じビジョンがそこにあるのがわかるでしょう。

揺れ動き厳禁！

あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

そういう人は、主から何かをいただけたらと思っはなりません。

ヤコブの手紙 1：5-7

私の牧師、リック シェルトンがバイブルカレッジを卒業したとき何をするかを決断しようとして大変混乱をした話をしてくれました。神は彼が卒業後ミズーリ州セントルイスに戻ってきて地域教会を始めるということを強く彼の心におかれまして、それは彼の思いでもありました。しかし、彼がスタートをしようとしたとき、彼のポケットには約 50 ドル、彼の妻、一人の子供と生まれてくる子供がいました。明らかに、彼の状況はあまり良いという物ではありませんでした。

彼が決断をしようとしていた最中に、彼は既に立ち上げられた大きなミニストリーのスタッフへの良い話を 2 件受け取りました。彼のお給料は良かったと思います。ミニストリーの機会は魅力的で、たとえ何もなくともいづれかのミニストリーで働くことは彼の自我を満足させたことでしょう。長く考えれば考えるほど、彼のさらに混乱をしたのです。(ミスター疑惑が彼を訪れたかのようですよ?)

一時、彼は何がしたいかはっきり知っていたのですが、今ではオプションの間に揺れ動いているのです。彼の状況がセントルイスに戻るのに好ましくなかったのも、どちらかの一つを受諾しなかったけれど、どちらであっても彼には平安がありませんでした。彼はついに彼に仕事を提供してくれた牧師の一人に

アドバイスを求めました、その牧師は賢明に言いました、『どこかに行って、静まり、頭のスイッチを切るんだ。そして自分の心を見る、そこに何かがあるか、それを行うんだ！』

彼がその牧師のアドバイスに従って、彼の心がセントルイスの教会にあることにすぐに気がきました。彼が手にしているもので何ができるかわかりませんが、彼は従順に動き出したので、その結果は素晴らしいものでした。

今日、リック シェルトンはミズーリ州セントルイスのライフクリスチャンセンターの創始者であり主任牧師です。最近では、ライフクリスチャンセンターは世間広くアウトリーチをする約 3000 人の教会です。何千人もの人々がそのミニストリーによって祝福され生き方を変えられたと思います。私はそこで 5 年間協力牧師をし、私のミニストリー、ライフ イン ザ ワード（御言葉にある命）がその期間に生まれました。どれだけ悪魔は疑いと不信仰で私たちから盗もうとしているか、もしシェルトン牧師が心の代わりに頭によって導かれていたらどうだったかということです。

疑うことは選択

翌朝、イエスは都に帰る途中、空腹を覚えられた。

道ばたにいちじくの木が見えたので、近づいて行かれたが、葉のほかは何もないのに気づかれた。それで、イエスはその木に「おまえの実は、もういつまでも、ならないように」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。

弟子たちは、これを見て、驚いて言った。「どうして、こうすぐにいちじくの木が枯れたのでしょうか。」

イエスは答えて言われた。「まことに、あなたがたに告げます。もし、あなたがたが、信仰を持ち、疑うことがなければ、いちじくの木になされたようなことができるだけでなく、たとい、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになります。

あなたがたが信じて祈りもとめるものなら、何でも与えられます。

イエスの弟子たちが驚いて彼がどのようにいちじくの木を言葉だけで枯らすことができたのかを尋ねた時、イエスは彼らに『もしあなたたちに信仰があつて疑わなければ、私がいちじくの木にしたことと同じことが出来ます—これよりもさらに偉大なことさえもできる（ヨハネ 14：12）とすることを言われました。

信仰が神からの賜物であることは既に学びました、だから、私たちには信仰があることがわかっています（ローマ 12：3）。しかし、疑いは選択です。私たちの思いへの悪魔の戦いの戦術なのです。

あなたは自分の考えを選べるのですから、疑いがやってきたことがわかったら、『要らない』—と言って、信じ続けるのです！

選択はあなたのモノなのです！

不信仰は不従順

彼らが群衆のところに来たとき、ひとりの人がイエスのそば近くに来て、御前にひざまずいて言った。

「主よ。私の息子をあわれんでください。てんかんで、たいへん苦しんでおります。何度も何度も火の中に落ちたり、水の中に落ちたりいたします。

そこで、その子をお弟子たちのところに連れて来たのですが、直すことができませんでした。」

イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまであなたがたといっしょにいななければならないのでしょうか。いつまであなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」

そして、イエスがその子をおしかりになると、悪霊は彼から出て行き、その子はその時から直った。

そのとき、弟子たちはそつとイエスのもつと来て、言った。「なぜ、私たちには悪霊を追い出せなかったのですか。」

不信仰が不従順を導くということを思い出してください。

おそらくイエスはこれらの状態によってあることを教えたのでしょう、そして彼らの不信仰がイエスへの不従順を起こしたのでしょう；それゆえ、彼らは上手くできなかったのです。

どんな場合でも、不信仰や、疑いは神が私たちが召して油を注ぎ達成させようとするのを妨げるのです。また彼にあつての魂の休息を見つけ平安を楽しむことから遠ざけてしまうのです（マタイ 11 : 28, 29）

安息日の休息

ですから、私たちは、この安息に入るよう力を尽くして務め、あの不従順の例にならって落伍する者が、ひとりもいないようにしようではありませんか。

ヘブル人への手紙 4 : 11

ヘブル人への手紙の 4 章全部を読んだなら、安息日の休息が神の民すべてに可能であるということについて語っていることがわかるでしょう。旧約のもとで、安息日は休息のひとしてみなされていました。新約のもとでは、この安息日の休息は霊的な休息として語られています。心配や不安を拒絶することは全ての信じる者の特権です。信じるものとして、私たちは神の休息に入ることができるのです。

ヘブル 4 : 11 を注意深く見ると私たちが信じることに以外にその休息には決して入れないということがわかります、私たちは不信仰と不従順によってそれを失ってしまうのです。不信仰が私たちに『荒野の生き方』に留めさせることとなります、しかしイエスは永遠の休息場所を与えてくれたので、信仰によって生きるものだけがそこで住まうことができるのです。

信仰から信仰によって生きる

なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進

ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

ローマ人への手紙 1 : 17

このポイントを大変明確に示すある出来事を思い出すのです。ある夜、私は自分の家のためにすることがあり家の周りを歩いていました、その時私は大変みじめでした。何の喜びもなかったのです—私の心には平安が全くありませんでした。私は主に尋ね続けていました、『私の何が問題なのでしょう？』私はそのように良く感じたので、私の何が問題なのか心底知りたかったのです。イエスとの歩みの中で学んできたことすべてに従うようにしてきましたが、何かが確かに欠けていたようだったのです。

その時電話が鳴って、私は話をする一方、傍らに会った御言葉カードに目をやりました。どれをも真剣に見ていたわけではなく、電話での話の合間に、ただ単にカードをめくっていたという状態でした。電話を切ったとき、どれか一枚を引いてみることにしました、何か励ましを得られるかもと考えたのです。

ローマ 15 : 13 を抜き出しました、**どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。**

私はそれを見ました！

私のすべての問題は疑いと不信仰だったのです。私は悪魔の嘘を信じて不幸せになっていたのです。私は否定的になっていました。私は信じていなかったもので、喜びや平安を持つことができなかったのです。不信仰の中で喜びと平安を持って生きることは不可能なのです。

悪魔ではなく神を信じる決断をしてください！

信仰から信仰へと生きることを学んでください。ローマ 1 : 17 によれば、そのようにして神の義が表されるのです。主は私が信仰から疑い、不信仰へと言う生き方をしていたので、信仰から信仰に生きなければならないことを現されたのでした。そしてしばらくの間信仰に戻り、そのあと、疑いと不信仰に戻ってしまいました。この二つの間を行ったり来たりしていたのです。そのような訳で私はたくさんの問題を抱え、みじめだったのです。

思い出してください、ヤコブ 1 : 7, 8 によれば、二心の人は全てのことで安定を欠いていてその人が望むことを決して主から受け取ることはない、のです。二心ではないように心に決めてください；疑いによっては生きないというように！

神はあなたのために偉大な人生をご計画されています。悪魔の嘘でそれを盗まれないように！その代り、…私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ（コリント二 10 : 5）

第 12 章

不安と心配する思い

怒ることをやめ、憤りを捨てよ。腹を立てるな、それはただ悪への道だ。

詩篇 37 : 8

不安や心配する思いは主に使えることを妨げようとする攻撃です。敵はこれらの苦しみを私たちの信仰を抑圧するために使います、それで、私たちは勝利の中を生きられないようにするのです。

そのように心配することが癖になっているという人もいます。もし彼ら自身に心配することがないと、他の人の状態を心配するのです。私にはこの問題があったので、このような状態を上手く説明できると思います。

私は絶えず何かについて心配していたので、イエスが死んで与えてくれた平安を決して楽しむことがありませんでした。

心配しながら同時に平安に生きるということは全く不可能なことです。

平安は人が身に着ける事の出来るものではありません；それは御霊の実です（ガラテヤ 5 : 22）、そして実は枝に留まっていた結果できるものです。（ヨハネ 15 : 4）留まるということはヘブル人の手紙 4 章やその他の聖書の箇所でも語られている『神の休息』に入ることに関連しています。

聖書には心配を参照するいくつかの言葉があります、どの翻訳を読むかに拠りますが。キング・ジェームズ訳は『心配』と言う言葉を使っていません。『腹を立てるな』（詩篇 37 : 8）に加え、その他の節で心配に対して警告として使われているのは『考えないように』（マタイ 6 : 25）『何事に対しても用心することなく』（ピリピ 4 : 6）そして『すべての気がかりを投げかける』（ペテロー 5 : 7）。私は大抵アンプリファイ訳を使います、それはこの課題に対して異なった訳や他の節を含んでいます。この章の残りの教えをシンプルにするため、『心配』について参照することにします。

心配の定義

ウェブスター辞書は心配という言葉を次のように定義しています：『自動詞 1. 不安や問題に感じる… 他動詞 1. 心配、苦難や問題に感じるようになる… 名詞… 2. 気がかりになることをうるさく言う原因』人を思い煩わせる思いと言う定義を聞いたこともあります。

自分の思考を妨げて苦しめる部分についてわかったとき、私はそのことより賢いんだと思うことにしました。すべてのクリスチャンがそうであると信じています。クリスチャンはただ座ったまま心配して苦しむよりもっと知恵があると思うのです。

心配が何も良くすることは決してないわけですから、心配はやめたらどうでしょうか？

別の部分の定義も啓蒙を与えてくれました：『ある動物が他の動物にするように、喉を歯で啞え振り回したりずたずたに裂くこと、あるいは繰り返し咬んだりかみついたりして攻撃すること。』

この定義を良く考えてみてください。私は以下のように思うのです—悪魔は心配を使って上で述べたことを確かに私たちに仕掛けてきます。私たちがたとえ数時間でも心配をするなら、『それがまさに私たちが感じることで—まるで誰かが私たちの喉に咬みつき完全に疲れ果てずたずたになるまで振り回すようなのです。この定義にあるように繰り返し咬みつき啞えまわすように思考の反復が起こり弱まることはないのです。

心配は明らかにサタンによる思考への攻撃です。クリスチャンは自分の思考についてどうすれば良いかと言うことがあるのですが、敵はそれを絶対にさせないようにするのです。悪魔は神様の目的のためにデザインされたことに使われないよう思考面を忙しくさせようとするのです。

後の章で思考を正しくすることについて話し合つつもりですが、ここでは心配がいかにか無駄なことであるかと言う完全な啓示を得るまで続けて学んでいこうと思います。

マタイ 6：25-34 は『心配の攻撃』がやってきたと感じるときに読むのに素晴らしい御言葉です。この課題について主が何を言っておられるかをこれらの御言葉をそれぞれ見ていきましょう。

いのちはものより大切なものではありませんか？

だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、またからだのことで何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べものよりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。

マタイの福音書 6 : 25

いのちは私たちが大いに楽しむべきものです。ヨハネ 10 : 10 でイエスは**盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。**サタンはいろんな方法によって私たちからいのちを盗もうとしています—その内の一つが心配なのです。

マタイ 6 : 25 で私たちはいのちについて心配することは何もないということが教えられています。神が私たちに与えてくださったいのちには、あらゆるものを含んでいます、しかしもし私たちが物事について心配するなら、神が私たちに与えようとするいのちと同じように失ってしまうでしょう。

あなたは鳥よりももっとすぐれたものではありませんか？

空の鳥を見なさい。種まきもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか？

マタイの福音書 6 : 26

時には鳥を見て時間を過ごしてみるのも良いかもしれません。主がそのようにすることを言っています。

もし毎日でなくても、鳥がいかに世話されているかを時々観察するように心がける必要があるかと思います。鳥は彼らの次の食事がどこから次の食事に来るのか知りません；しかし、木の枝の上で心配のため神経がダメになったという鳥を私は一度も見たことがありません。

ここでの主のポイントは大変シンプルです、『あなたは鳥以上のものではありませんか？』

たとえあなたが自己イメージの貧しさと戦っていたとしても、あなたは鳥より優れたものであるということは信じられるはずです、そして天の父がその鳥たちをいかに良く世話をされておられることを見てください。

心配して何を得るのですか？

あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

マタイの福音書 6：27

ポイントは明らかです、心配は無駄だということです。何も良いことはなりません。もしそうであるなら、なぜそれほどまで心配するのでしょうか？

なぜそれほど心配するのですか？

なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。

きょうあつても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。

マタイの福音書 6：28-30

神の創造物の例を使って、主は自分で何もすることのできない花でさえ、良く世話がなされソロモンの栄華以上に輝かせられているのですから、私たちを神は気かけ必要を満たして下さるということを信じることができるというように示しておられます。

そういうわけだから、心配するのはやめなさい！

そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。

マタイの福音書 6 : 31

この節を少し拡大し、もう一つ質問を加えたいと思います、『何するのですか?』

サタンは終日クリスチャンの耳元でその言葉だけを語り続ける悪魔を送り出すのです。悪魔は難しい質問を放ち、クリスチャンはそれに答えようと貴重な時間を無駄使いしてしまうのです。悪魔はいろんなことを考え続けさせるように戦いを仕掛け、クリスチャンを長い、高い代価のかかった戦いに関わらせようとするのです。

31 節で主が私たちに心配をしないようにと教えられている部分に注目してください。心に満ちていることを口が話す（マタイ 12 : 34）を思い出してください。悪いことが私たちの思考に十分すぎるほど浸透すれば、それがいつか私たちの口から出るようになるということを敵は知っているのです。私たちの言葉は大変重要で、それが私たちの信仰を確認することになるから—あるいは、信仰の欠如にもなります。

贈り物ではなく、神を求めなさい

こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

マタイの福音書 6 : 32, 33

神の子どもは世の子どもたちとは違うということが明らかです！世は物を追い求めますが、私たちは主を求めるのです。もし私たちがそのようにするなら、私たちに必要なすべての物を与えてくれるということを神は約束されています。

私たちは神の手ではなく神の御顔を求めることを学ばなければいけません。

私たちの天の父は子どもたちに良いものを与えることをよろこばれます、しかし、もし私たちが物を求めない場合だけです。

神は私たちの必要を私たちが求める前から知っておられます、もし私たちが神に私たちの願い事をするなら（ピリピ 4：6）、神はご自身の時にそれをかなえてくださいます。心配は何にもならないのです。それは、実際私たちの前進を妨げることになるのです。

日々少しずつ

だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

マタイの福音書 6：34

心配や不安がることは今日の時間を使ってあしたのことを知ろうとするようなものだと申し上げたいと思います。だから神が意図されたことに与えられた時間を使うことを学ぶようにしましょう。

いのちは生きるためのものです—ここで今を！

悲しいことに、ほとんどの人は一日一日を満足して生きる生き方を知りません。あなたもそのような一人かもしれません。イエスは敵であるサタンは、あなたのいのちを盗むために来たと言いました。（ヨハネ 10：10）敵にそれをこれ以上許してはいけません！今日の日を明日の心配で無駄使いするのはやめましょう。今日のことだけで十分することはあると思います；今日のこと集中が必要です。神の恵みは今日の必要に対するものです、明日の恵みは明日になるまで与えられません—だから、今日を無駄使いしないでください！

何も思い煩わないで

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

ピリピ人への手紙 4：6

これもまた1『心配の攻撃』が来たときに考えると良い御言葉です。私は御言葉を声に出して語ることを大いにお勧めします。御言葉は敵に対して巧みに使う両刃の剣です。(ヘブル4:12; エペソ6:17) 鞘に入ったままの剣は攻撃に対して何も役に立ちません。

神は神の言葉を私たちに与えてくれました、それを使うのです！このような御言葉を学び敵が攻撃したときに、イエスが使った同じ武器、御言葉によって反撃するのです。

想像を投げ倒す

私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

コリント人への手紙第二 10:5

思考があなたに与えられ神の言葉に同意しないとき、悪魔を黙らせる最善の方法は御言葉を語ることです。信仰をバックアップする、クリスチャンの口から出る御言葉は、心配や不安に対する戦いに勝つために用いられるもっとも効果的な武器です。

思い煩いを神にゆだねる

ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

ペテロの手紙第一 5:6, 7

敵が私たちに問題をもたらすとき、私たちにはそれを神にゆだねられる特権があります。『投げる』と言う言葉の実際の意味は放り出す、振り落とすという意味があります。私たちは私たちの問題を神に放り出し、振り落せるのです、そうすれば神はそれを受け取ってくれます。神はそれをどうすれば良いかを知っています。

この御言葉でへりくだるということは心配することではありません。心配する人はそれでも問題をどうにか自分で解決できると考えるのです。心配はその状況に対する解決を探そうと心が追い掛け回すことです。謙虚な人は神で満ちているが、かたやおごった人はその人の思いでいっぱいなのです。プライドの高い人は心配し；謙虚な人は待つのです。

神だけが私たちが解放することができるのです、そして神はあらゆる状況において私たちの最初の応答が神に頼り、神の休息に入るということを私たちに知ってほしいのです。

神の休息

私たちの神よ。あなたは彼らをさばいてくださらないのですか。私たちに立ち向かって来たこのおびただしい大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいのかわかりません。ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。

歴代誌第二 20 : 12

私はこの御言葉が好きです！ここに書かれた人々は 3 つのことを認識しなければなりませんでした。

1. 彼らには敵に対する力が全くなかった。
2. 彼らは何をすればよいかわからなかった。
3. 彼らの目を神に集中させる必要があった。

同じ章の 15 - 17 節で、主が彼らに神を認識するようと言われていることがわかります：

…この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから。
この戦いではあなたがたが戦うのではない。しっかり立って動かずにいよ。あなたがたとともにいる主の救いを見よ…

私たちは何をすればよいのでしょうか？イエスにとどまり、神の休息に入ることなのです。私たちの目を神に集中し、絶えず神を待つことです、神が私たちにするようと言われたことを行い、肉によってうごくのに『畏敬の念』を持つことです。

神の休息に入ること、このことを申し上げたいと思います：敵対する物なしに『神の休息』に入ることには決してありません。

例として、2人の芸術家が平和の絵を描くように依頼された時の話を分かち合いたいと思います。一人は山の奥深くにある、静まった湖を描きました。もう一人は荒れ狂った滝の横に一羽の鳥が樺の木の枝に巣を作ってそこにいるという絵を描きました。

どちらが本当の平和を描いたのでしょうか？二人目のほうです、なぜなら敵対する物がなければ平和はないからです。最初の絵はよどみを現しています。その風景は穏やかなものかもしれませんが；ある人は回復するためにそこに行きたいと思うかもしれません。それはきれいな絵かもしれませんが、しかしそれは『神の休息』を描いてはいません。

イエスは、わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います…（ヨハネ 14：27）。彼の平安は霊的な平安で、彼の休息は嵐の中で働くものです一嵐のない所ではなく。イエスは私たちの人生からすべて敵対する物を取り除きに来たのではなく、嵐の中の人生への異なった接し方を与えに来たのです。私たちは彼のくびきを負って、彼から学ぶのです。（マタイ 11：29）。私たちは彼が生きた方法で生きるといふ、彼の方法を学ばなければならないということの意味しているのです。

イエスは心配しなかったので、私たちも心配はいらないのです！

もしあなたが心配することをやめる前に心配することがなくなることを待っているのであれば、大変長い時間待たないといけません、なぜならそのような時は決して来ないからです。私は否定的ではありません。正直なのです！

マタイ 6：34 は私たちには毎日それぞれの問題があるので明日のことを心配しないようにと教えています。イエス自身がそのように言ったのです、彼が否定的だったわけではありません。平安で、嵐の真ただ中で神の休息を楽しみ、主に栄光を帰すこと、何故なら神の方法が働くことを証明するからです。

心配、心配、心配！

私は心配してもどうにもできないことで長年人生を無駄使いしていました。その時間を取り戻し、違った方法でやり直せたらと思います。しかし、神があなたに与えてくれた時を使ってしまったなら、それを取り戻してやり直すのは不可能です。

私の夫は、一方、決して心配したことがありません。彼が私と一緒に心配をしない—もし神がやってきて私たちの必要を満たさなかったらという陰鬱な可能性について私と話し合わないということで彼に腹を立てた時もあります。私がキッチンに座って、例えば請求書に没頭していたとします、そして現金より請求書の額のほうが多いことで一層腹が立ってることがあります。デイブは隣の部屋で子どもたちと遊んでいて、子供たちが彼の背中ジャンプしたりしている間テレビを見ているのです。

私は不快な声の調子で彼に言ったことを思い出します、『私がこの問題を解決しようとしているんだから遊んでいる代わりにここに来て何とかしたらどうなの！』彼が『僕に何をしてほしいの？』と答えた時、何も考える事ができませんでした；私たちが絶望的な経済的状況に面しているのに彼が楽しんでいるということが私を立腹させたのです。

デイブは神がいつも私たちの必要を満たしてくれているということを私に思い出させることで私を冷静にしてくれるのでした、私たちは自分たちの行うべきこと（十一献金や献金を捧げ、お祈りをし信頼すること）を行っていたし神は神の役割をしておられました。（デイブは信頼していたけど私は心配していたと言えるのです。）私は彼と子どもたちのいる部屋に行くのですが、少しすると思いが心に這い戻ってくるのでした、『しかし一体どうするの？ どうしてこの請求書を支払うの？ もし…』

そしてそれから私の想像の壊滅状態の映像が現れるのです—抵当権の差し押さえ、車の回収、もし親族や友人に経済的支援を求めたら恥となることなどです。そのような『映像』やそのような考えがあなたの頭の中を駆け巡ったことはあるでしょうか？ 多分あると思います、そうでなければこの本を読んでいることはないはずでしょうから。

悪魔からの思案のもてなしの後、私はキッチンに戻り、請求書、計算機と帳

簿を出してまた混乱の中に戻るのです。そうすればするほど、私は一層腹が立ってくるのです。そして私たちは同じ場面を繰り返すことになるのです！私がすべての『責任』を取っているので楽しんでいるデイクと子どもたちに叫んでしまうのです！

実際私が行っていたことは責任ではなく、気遣いでした一神にゆだねなさいと私が神から特に語られていたことでした。

私は今振り返ってみて気付くのは神が与えてくれた私の初期の結婚生活をこのように無駄遣いしていたということです。神が私たちに与えてくれる時間は貴重な贈り物です。しかし私はそれを悪魔に与えていたのです。あなたの時間はあなた自身のものです。賢くつかうのです；この道を再び通ることはありません。

神は私たちのすべての必要を満たしてくれました、それは様々な方法ででした。神は決して私たちを失望させることはありません—一度たりともです。神は誠実な方です！

心配しないで—神を信頼してください

金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

へブル人への手紙 13：5

これは神があなたの必要を満たしてくれるかどうかを気兼ねしているときにあなたを励ましてくれる素晴らしい御言葉です。

この箇所では、主は私たちがお金に心を集中させる必要はない、どのように自分を管理すれば良いかを教えています、何故なら、神がこれらのことを私たちに代わって世話してくれるからなのです。神は私たちを決して離れず、捨てないと約束をされています。

あなたのなすべき部分を行うのです、神の働かれる部分をするのはいりません。重荷は重すぎます—そして、もしあなたが注意しなければ、重さのためにあなたは潰れてしまうかもしれないのです。

心配しないでください。主に信頼して善を行え。地に住み、誠実を養え（詩篇 37 : 3）。

それは約束なのです！

第 13 章

批判的，非難的そして疑い深い思い

さばいてはいけません。さばかれないためです。

マタイの福音書 7 : 1

人々の人生に苦悩がよく起こるのは非難的で疑い深さによる批判的な態度によると言っても良いでしょう。これらの敵によって人々の関係がダメになっています。もう一度言います、思考は戦場なのです。

思考—『私が考える』と言うことだけを—悪魔は人を孤独にさせる道具として使うのです。あらゆることについて意見を言う人の周りにいるのが楽しいという人はいません。

私はある豊かなビジネスマンを夫とする婦人の知り合いがいました。彼は通常大変静かで、彼女は彼にもっと話して欲しいと思っていました。彼はいろいろなことを知っていました。彼らが人の集まりにいて彼女の夫が多くのことを知っているような課題の会話が始めると彼に腹を立てるのです。彼は知っていることすべて話すことが出来たのですが、彼は何も言わないのです。

ある夕方、二人がパーティから戻った後、彼女は夫を叱って言いました、『どうしてあなたは自分が知っていることについて皆に話さなかったの？あなたはただそこに座ってまるで何も知らないかのようだったわ！』

『僕は自分が知っていることはわかっているよ、』と彼は答えました。『僕は黙って聞くようにしているんだ、それで他の人が知っていることがわかるから。』

彼が豊かなのはこれだと想像することが出来ます。彼はまた賢い人です！知恵なくては豊かにはなれません。そして関係において知恵を使わないで友達を持ってないでしょう。

批判的、独断的で非難的であるというのは人間関係を間違いなくダメにする方法だと思います。サタンは、もちろん私たちが孤独で誰からも受け入れられないようであってほしいのです、だから、彼はこれらの領域で私たちの思考を攻撃するのです。この章で、悪い考えのパターンを認識し、疑惑をどのように扱うかを学べたらと思います。

裁くということの定義

バイブル新約聖書用語解説辞典では、ギリシャ語の裁くという言葉が『他人の欠点に判定を与える』と定義している箇所があります、そして『非難』と言う言葉の相互参照があります。この同じ資料によると、裁くという言葉は『意見を形作る』と言うギリシャ語の訳で、『判決を下す』という相互参照になっています。

神だけが非難したり判決を下す権利があるのです、したがって、私たちが他人を裁くとき、ある意味、自分を神と同じところに置いていることになるのです。

あなたのことはわかりませんが、それが『神への恐れ』を私に与えるのです。私はかなり気丈夫なほうですが、神のようになろうとは思いません！これらはかつては私の性格の中の主な問題の分野だったので、神が私に教えてくれたことを分かち合うことであなたの役に立つことと信じています。

非難、意見や裁き等すべて関わりあう物のようなので、一つの大きな問題として一緒に論じて行こうとおもいます。

私は批判的でした、何故なら、いつも何が良いかと言う見方ではなく何が悪いかと言うような見方をしていたからなのです。もっと陽気な性格の人は『幸せなこととか楽しいこと』以外のことは見たくはないという風なので、彼らの楽しみをダメにすることにはまったく注目をしようとしません。もっと憂鬱な性格や支配的な性格は何が悪いかを通常先に見てしまうのです；一般的に、このようなタイプの性格は彼らの否定的な意見や他人の意見を分かち合うのに寛大なのです。

私たちそれぞれに独自の物の見方があることを知る必要があります。私たちは人に自分がどのように思うかを伝えたいのです、そしてそれがまだにポイントなのです—私が思うことは私には正しいかもしれませんが、しかしあなたにとっては正しいとは限らないのです、反対も同様です。私たちは『盗んではいけない』と言うことが誰にとっても正しいことであることを皆が知っています、しかし私がここで話していることで、私たちが日々出会うことが正しいかどうかは各人の選択になります。それに付け加えるなら、人は外部の影響なしに自

分で選択をする権利があるのです。

私の夫と私のやり方は大抵かなり異なります。家をどのように飾るかがその一つです。相手の選択が好きではないというわけではありません、しかし私たちが家のための買い物に出かけると、デイブがいつも好む物と、私が好む物は異なるのです。なぜでしょうか？単に私たちは異なった二人の間だからなのです。彼の意見が私のと同じように良いように、私の意見も彼と同じように良いのです；それは単に違うだけなのです。

デイブが私に同意しないというだけで彼が何か間違えているというのではないということを理解するのに何年もかかりました。そして、もちろん、私は彼が私の意見を分かち合えないので彼には何か間違いがあると思ったことを大抵彼に伝えました。明らかに、私の態度は私たちの間に多くの摩擦を起し、私たちの関係を傷つけてしまいました。

プライド：『私』という問題

…私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。

ローマ人への手紙 12：3

裁きと批判は深い問題の実ですープライド。『私』が私たちのうちであるべき状態より大きくなったとき、私たちが話し合っている問題の原因といつもなるのです。聖書は高潔であるということについて繰り返し警告をあたえています。

私たちが一つの分野でまさるときはいつも、神がそれに対する恵みを与えてくれているからだけなのです。もし私たちが高潔であったり、自分に対して過大評価するようであれば、それが元で他人を見下ろしたり自分たちより『劣る』と言う見方をするものになってしまいます。このような態度や考えは神が非常に嫌われます、そして敵にたくさんの機会を与える事になるのです。

聖なる恐れ

兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。

互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。

ガラテヤ人への手紙 6 : 1-3

これらの御言葉を注意深く調べてみたなら私たちが他人のうちに見る弱さに対してどのように応答すればよいかとすぐに明らかになると思います。私たちが自分のうちに保つ心の態度を説明しています。私たちはプライドに対して『聖なる恐れ』を持ち、他人を裁いたり批判的であることに十分に注意する必要があります。

人を裁くあなたは一体だれなのですか？

あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべが立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。なぜなら、主には、彼を立てることができるからです。

ローマ人への手紙 14 : 4

このことを考えてみてください；あなたの隣人が訪ねてきて、あなたの子どもが学校で何を着るべきだとか、どの科目を学ばよいかをあなたに指導士に来たとします。あなたはそれに何と答えますか？あるいは、隣人があなたの家政婦（あなたは全く気に入っている人）の掃除の仕方が良くないと言いに來たとします。あなたは隣人に対して何と言いますか？

この御言葉はこのことに対する答えを宣べています。私たちそれぞれが神に属する者です、そしてたとえ私たちに弱点があったとしても、神は私たちを立て許すことができるのです。私たちは神に答えるのです、お互いに対してではありません；従って、私たちはお互いが批判的に裁いてはいけません。

悪魔は人の思いの中に批判的な思いを置くことに大変忙しいのです。私は公園やショッピングモールの中で、通り行く人の服装や、髪型や同伴者について心の中で意見をして楽しんだことを思い出します。私たちが何に対しても意見

を持たないようにはできませんが、それらを表現する必要はありません。私たちはたくさんの意見を持たないというところまで成長できるし、批判的でない意見を持つことができると信じています。

私は頻繁に自分にこう言うのです『ジョイス、それはあなたに関係のないことでしょ。』あなたの意見が批判になるまで考え続けるときあなたの中で問題が発酵させているのです。あなたがそれを人に表現し始めるまで、さらにそれを考え続ければ、問題はさらに大きくなり、あなたは人を裁くようになるのです。ついには爆発して霊的領域と同じように関係を傷つけることになるのです。『これは私には関係ない事』と言うことを単に学ぶことで、あなた自身の将来を扱うことができるかもしれないのです。

批判や裁くことが私の家庭では普通だったので、『その中で私は育った』と言えるのです。そのような場合—あなたにも当てはまるかもしれません—一足が折れた状態で野球をしようとするようなことになります。私は神と『野球』をしようとしていました；神の方法で考え、やろうとしたかったのですが、私にはそのようにはできませんでした。私の思考の中に取り扱われるべき要塞があることを学ぶまで私の振る舞いは変わらないので、長い年月をみじめなまま過ごしたのです。

あなたの思考が変わるまであなたの行いは変わらないということを覚えておいてください。

マタイ 7：1-6 は裁くことについての典型的な御言葉です。この領域で問題があるのであれば、これらの御言葉を読んでみてください。何度も声に出して読み、悪魔があなたの思考に要塞を築こうとすることに対する武器として使うのです。悪魔は長年そこにある要塞で働こうとするかもしれないのです。

この御言葉を一つ一つ見ていきましょう。

裁きを蒔いて刈り取る

さばいてはいけません。さばかれたいからです。

あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。

マタイの福音書 7 : 1, 2

この御言葉は私たちが蒔くものを刈り取る（ガラテヤ 6 : 7）と言うことを平易に述べています。蒔くことと刈り取ることは農業や経済的な領域だけではなく、精神的な領域にも当てはまるのです。私たちは穀物や投資と同じように蒔くことと刈り取ることができるのです。

私の良く知っている牧師がよく言うことがあります、彼のことを悪く言ったり裁いていることを聞くと、『彼らが蒔いているのか、私が刈り取っているのだろうか？』と自分に問いかけると言うのです。大抵の場合、私たちがかつて人の人生に蒔いたことを自分の人生の中で刈り取っているのです。

医者たち、自分を癒しなさい！

また、まぜあなたがたは、兄弟の目のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁は気がつかないのですか。

兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください』などとどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。

偽善者よ。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。

マタイの福音書 7 : 3-5

悪魔は私たちが他人の欠点を裁くことに忙しくさせることを喜びます。そうすれば、私たちは自分の何が悪いかを決して気づき直そうとはしなくなるからです。

私たちは誰も変えることができません：神だけができるのです。私たちは自分自身をも変えることができません、聖霊に協力して彼が働くのに任せるのです。自由への第一歩ですが、主が私たちに示される真実に直面しないといけません。

私たちの考えや会話で他の人を悪く思うときは、自分自身の趣向が大抵、欺かれているからなのです。そこから、イエスは自分自身にたくさん問題があるのに他の人のことを気兼ねすることはないと命じているのです。まずあなた自身を神に取り扱ってもらってください、それからあなたの兄弟のクリスチャンとしての歩みの成長を助ける聖書的方法がわかるようになるでしょう。

互いに愛し合いなさい

聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。

マタイの福音書 7:6

この御言葉は互いに愛し合うという神から与えられた能力について語られていると信じています。

もし私たちが互いに愛するようにと命じられその能力を与えられているのに、それを行う代わりに人を裁き批判するなら、私たちは聖なるもの（愛）を犬や豚（悪霊）に投げることになります。私たちは悪霊に聖なるものを踏みにじり、引き裂く機会を与えているのです。

私たちは『愛による歩み』が悪魔の攻撃に対する守りであることを分かる必要があります。私は、悪魔が愛によって歩んでいる人を傷つけることはあまりできないと信じているのです。

私が四番目の子どもを妊娠した時、私はクリスチャンで、聖霊に満たされ、ミニストリーに召されていて、熱心に聖書を学んでいました。信仰を癒しのために使うことを学びました。しかし、妊娠の最初の3か月間、私の体調が大変悪かったです。体重とエネルギーがなくなりました。吐き気と疲れのためほとんど動くことができなかったので、大半の時間をソファで横になっていました。

他の3人の子どもの妊娠の時は快調だったのでこのような状況には混乱するばかりでした。教会に行っていました。その頃の私は神の言葉をそれほど知らなかったので、信仰を何かの活動に使うことはありませんでした、とにかく、私は病気だったので一神に祈り、悪魔を叱りつけても問題を取り除くことにはならなかったのです！

ある日ベッドで横になりながら夫と子どもたちが裏庭で楽しんでいるの聞きながら、神に挑戦的に尋ねました、『私は一体何が悪いのでしょうか？なぜ私はこんなに具合が悪いのでしょうか？どうしてよくなるらないのですか？』

聖霊がマタイ7章を読むようにと促しました。その御言葉と私の健康に何の関わりがるのかを主に聞きましたが、そこを何度も読むべきだという思いが続ききました。ついに、神は2年前に起こった出来事を私に思い出させられました。

私は家でバイブルスタデイを行っていてジェーンと言う若い女性が参加していました。ジェーンは妊娠するまで誠実に出席をしていたのですが、気分が悪く疲れがちになり定期的に出席するのが難しくなりました。

私がベッドに横になっていると、他の『クリスチャンの姉妹』と私がジェーンを『困難な状況を乗り越え』でバイブルスタディーに来ようとしないと言って裁き批判したことが思い出されました。私たちは全く彼女を助けようとはしませんでした。私たちは彼女が弱虫で妊娠を言い訳にして怠けているという意見で裁いただけでした。

今回、私がジェーンに2年前に起こったのと同じ状況の中にいるのです。私の先の3人の子どもの妊娠が健康だったけれど、私の裁きと批判によって悪魔に大きなドアを開ける機会を与えたことを神が示されました。私は私の聖なる真珠（ジェーンを愛するという能力）を犬や豚の前に投げつけたので、今は私を引き裂くものになってしまったのです。私は素早く悔い改めました。私が悔い改めるや否や、私のからだはもとに戻り、残りの妊娠期間を健やかに過ごすことができたのです。

この出来事から、人を裁いたり批判することの危険についての重要性を学びました。この経験の後、同じような誤りを二度と起こしたことがないと申し上げることができれば良いのですが、残念ながら、それ以来も同じような誤りを何度もおかしてしまったのです。毎回、神が私を取り扱われ、そのことを感謝しています。

私たち皆間違いを犯します。私たち皆弱いところがあります。聖書はお互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださいるように、互いに赦しあいなさい（エペソ4：32）と教えています。

裁くことが非難をもたらす

ですから、すべて他人をさばく人よ。あなたに弁解の余地はありません。あなたは、他

人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。さばくあなたが、それと同じことを行っているからです。

ローマ人への手紙 2 : 1

言い換えれば、私たちは他人をさばく全く同じ方法で自分自身をさばっているのです。

主がこの原理がよくわかるように大変良い例を与えてくれました。私たちは自分が行うことは全く問題がないと思うのに、他の人が同じことをすると裁くのはなぜなのかと思案していました。『ジョイス、人は自分をバラ色のめがねで見られるけれど、他の人は拡大鏡で見られるからだ』と神は言われました。

私たちは自分の行いに言い訳をしますが、他の人が同じことを行うと、私たちは憐みがなくなってしまうがちなのです。何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい（マタイ 7 : 12）と言うことが裁いたり批判することを防ぐのに良い人生の原理なのです。

批判的な思いは否定的な思いによって生まれるものです一人に対して良いことを考える代わりに、悪いことについて考えるからです。

ですから、否定的ではなく肯定的でいるようにしましょう！

他の人に益になりますが、それ以上あなたに益をもたらすことになるのです。

あなたの心を見守れ

力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。

箴言 4 : 23

いのちがあなたから、そしてあなたに流れることを望むなら、あなたの心を見守ってください。

あるクリスチャンにとって『信じられない』タイプの思考があります一裁きや批判がそのうちにあります。神が私たちに教えようとされるすべてのことは、私たちにとって良いことであり幸せなことです。神の方法に従うことが実りを

もたらします；悪魔の方法に従うことは墮落をもたらすのです。

疑い深い思い

すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。

コリント人への手紙第一 13：7

正直に言うと、この御言葉に従うことは私にとっていつもチャレンジです。私は実際、誰も信じないようにと教えられてきました、特に善良そうにふるまっているなら、それは何かを求めているからだということです。

他の人の動機を疑うようにと言うことを教えられたことに加え、人に失望させられた経験が何度もあります、クリスチャンとして活動する前だけではなく、活動するようになってからもあるのです。愛の要素について黙想すると愛はいつも他の人の最善を信じる事だということがわかるのです、そしてそれによって私は新しい心の持ち方を大いに育てることができたのです。

あなたの心が毒されているとき、あるいはサタンがあなたの心に要塞を作ったときには、あなたの心を神の言葉によって新たにする必要があります。これは神の言葉を学びそれを黙想（熟考し、自分に語ったり、思いめぐらせる）することによってできます。

私たちのうちには素晴らしい聖霊がいるので、私たちの思いが間違った方向に向かうと思わせてくれます。私が愛すべき思いの代わりに疑いの思いを持ったとき、神は私を助けてくれました。肉の人は、『もし私が人を信じたら、その人に利用される。』と考えます。恐らく、その利点は否定的な経験よりはるかにまさることでしょう。

信頼と信仰が人生に喜びをもたらす人間関係を可能な限りまで成長させてくれるでしょう。

疑いは関係を損ない、大抵壊してしまいます。

結論はこうです一人の方法ではなく、神の方法が功を奏するのです。神は批判、裁くことや疑いを咎めます、私もそうするべきなのです。神が愛することを愛し、神が嫌うことを嫌うのです。神が認めることを認め、神が受け入れな

いものは退けるのです。

バランスの取れた態度がいつも最善です。私たちが他の人に関わる時、知恵や分別を使わないということではありません。私たちが会える人すべてに自分を明け渡すということでも、すべての人に自分をぶつからせるということでもありません。一方、私たちが会える人すべてを否定的に、疑いを持って見る必要もないし、いつも人に利用されるという思いで見る必要はありません。

神を完全に信頼し人には慎重に

イエスが、過越しの祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行われたしるしを見て、御名を信じた。

しかし、イエスのご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、

また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。

ヨハネの福音書 2 : 23-25

私が教会の状況に失望したとき、神はヨハネ 2 : 23-25 を示されました。

この箇所はイエスと弟子たちとの関係を話しています。イエスは弟子たちにご自身を任せられなかったと平易に述べられています。それは彼が弟子たちを疑っていたとか彼らを全く信じておられなかったとは言っていません；イエスは人間の性質（私たち皆が持っている）を理解しておられたのでと言うことをただ説明しているのです、彼は偏った方法で弟子たちにご自身をゆだねられなかったのです。

ここから良いことを学びました。私は教会で大変ひどく傷をうけました、なぜならある婦人のグループに深くかかりすぎ、バランスを壊していたからなのです。私たちがバランスを壊したら、それが悪魔が立ち入るドアを開けることになるのです。

ペテロ第一 5 : 8 は、**身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。**と言っています。

私はこのグループの婦人たちに寄りかかり、神にだけ向けるべき信頼を彼女たちに置きすぎたことを学びました。人間関係はそこまで行くことができるのです。もし私たちが知恵を超えるなら、問題が起こり私たちは傷つくことになるのです。

いつも究極の信頼を神に置くのです。そのようにすることであなたがバランスを超えてしまったときに、聖霊が働いてくれるのです。

自分では霊を見分けられると思っているのですが、実際は疑いを持っているだけなのです。霊を見分けると呼ばれる霊の賜物があります(コリント第一 12 : 10)。それは悪いものだけではなく、善、悪を見分けます。心が新たにされていないと疑いがやってきます；新たにされた霊から、霊を見分けることができるのです。

本当の賜物のために祈ってください—霊の賜物と偽る肉のためにではなく。真の霊を見分ける賜物はゴシップではなく、祈りを引き起こします。純粋な賜物によって純粋な問題が見分けられたなら、それを扱う御言葉のパターンがそれに続きます、問題を広げ悪化させるだけの肉的方法ではありません。

親切なことばは甘く、健やかにする

知恵のある者の心はその口をさとし、そのことばに理解を増し加える。

親切なことばは蜂蜜、たましいに甘く、骨を健やかにする。

箴言 16 : 23, 24

ことばと思考は骨と髄のようなものです—大変近くて、それらを切り離すのは難しいことです (ヘブル 4 : 12)。

私たちの思考は静かなことばで私たちと主だけに聞こえるものですが、その言葉は私たちの内なる人、私たちの健康、私たちの喜びと態度に影響を与えます。私たちがよく考える事が言葉として口から発せられるのです。そして、悲しいことに、時には私たちをおろかに見せることがあるのです。裁きや批判、疑いは決して喜びをもたらしません。

イエスは私たちが豊かないのちをもつために来たと教えています（ヨハネ 10：10）。キリストの思いの中で機能しはじめると、あなたはまったく新しい領域に踏み出すことになるのです。

第 14 章

受身的な思い

わたしの民は知識がないので滅ぼされる…

ホセア書 4 : 6

この言葉は受身の領域に関して全く本当です。このことは大半のクリスチャンは良くわかっていません、またこのその兆候をどのように認識するのかもわかっていないのです。

受身的は活動的の反対です。これは危険な問題です、何故なら私たちは身を慎み、目を覚ましているように（ペテロ第一 5 : 8）と御言葉でははっきりとそのことが教えられているからです—私たちは私たちのうちにある賜物を掻き立て燃え立たせないといけないのです（テモテ第二 1 : 6）。

私は『受動的』と言う言葉のさまざまな定義を読んだことがあります、私はそれを感情の欠如、無関心、なまぬるさ、そして怠慢などと言えると思います。悪霊が受動的であることの背後にあるのです。無関心で、意志を働かせない事によってクリスチャンを絶対的に打ちのめすことができることを知っているのです。人が自分の意志を使って悪魔を拒絶する限り、敵は戦いに勝つことはできません。しかし、その人が受身状態になるなら、深刻な問題に陥るのです。

クリスチャンの多くが感情によって支配されていて、それまでに教えられてきたことをやめないといけないようになってしまうのです。彼らは賛美をする気分であれば賛美をし、与える気分であれば与え、御言葉を守る気分であれば守ると言った風なのです—そして、何の気分も起こらなければ、何もしないのです。

空っぽの空間もある場所である！

悪魔に機会を与えないようにしなさい。

エペソ人への手紙 4 : 27

私たちが悪魔に与える場所はしばしば空っぽになっています。空っぽの、受け身の思いはあらゆる種類の悪い思いで簡単に一杯になってしまいます。

受身的な考えを持ち、これらの悪い考えを拒絶しないクリスチャンはその思いを自分自身の考えと誤ってしまうことがよくあります。悪魔がその人の考え

の中に思いを吹き込んだということに気づかないのです、何故ならそこに何も
ない空っぽの場所があるからです。

あなたの心から悪い思いを取り入れない一つの方法はあなたの心を正しい考
えで満たしておくことです。悪魔は追い出すことができます、しかし彼は出て
行きある時期乾いた場所をさまよいます。彼が彼の古い家に戻ると空っぽにな
っているのを見つけます、ルカ 11：24-26 で、彼が戻ってくるとき、他の霊を
連れてくるのでその人の状態は前より一層悪くなると述べられています。この
理由から、人が『空っぽの場所をいかに満たす』かということを学ぶまで、そ
の人から悪霊を追い出そうとしてはいけないのです。

悪い考えをする人が皆悪霊を持っていると言っているのではありません。し
かし、悪霊はしばしば悪い考えの背後にいます。人は想像することを繰り返し
投げ出すことができます、しかしその人が空っぽになった場所を正しい考えで
満たすことを学ぶまでその像はいつも戻ってくるのです。敵が戻ってきて、
その時、その人のところには居場所がない事を知るのです。

強引な罪、命令による罪、そして受身的な罪、いわゆる怠慢の罪があります。
言い換えれば、私たちが行う悪いことと、私たちが行わない正しいことがある
のです。たとえば、考えの足りない言葉によって関係がダメになることがあり
ます、あるいは感謝を表す親切なことばが語られなかったということでダメに
なることがあるのです。

受身的な人は自分は何も悪いことをしていないと思いがちです、何故ならそ
の人は何もしていないからです。その人の誤りに直面したなら、その人は『私
は何も悪いことをしていない！』と言うでしょう。その人の分析は正しいでし
ょう、しかし行いは正しくありません。その人は何もしなかったので問題が正
確に起こったのです。

受動的に打ち勝つ

私の夫デイブが受身的であるということの問題を数年前に持ったことがあり
ます。ある事柄に彼は活動的です。彼は毎日仕事に出かけ、土曜日にはゴルフ
をし、日曜日はフットボールを見ます。それ以外のことで、彼に何かをさせる
というのは大変困難なことでした。もし私が壁に絵をかけたと思ったら、彼

がそれをするのに 3, 4 週間かかることもありました。これが私たちの間には大きな摩擦となったのです。わたしから見ると、彼は自分がしたい事だけをして、それ以外は何もしないという風だったのです。

デイブは神を愛していてこの問題について神に求めました、神は受身についてそしてその危険性についての情報を導かれました。彼の無活動の背後に悪い霊がいることを知りました。彼の意志を保っていたので全く問題のない領域と、無活動のため彼の意志を敵に渡してしまった領域を持っていたのです。これらの領域で彼は抑圧されていて何かをやり遂げるのに彼を助けようとしても、何がしたいという思いが全くなかったのです。

神の言葉を学ぶこととお祈りに対して彼は受身になっていました。彼が神の方向を求めている事がわかっていたので、彼から聞くのは困難なことでした。私には反抗的と言う問題があったので、悪魔が私たちの弱さをお互いに対して使ってきたことがわかるかと思います。そのような問題だけでたくさんの人が離婚してしまうのです。そのような人々は何が悪いのか本当にわからないのです。

私は実際大変挑戦的でした。いつも神の先を、『自分自身のことをする』ためにと、肉の思いのまま走っていましたが、そして神の祝福を期待していたのです。デイブは神を待つこと以外にはあまり何もしようとはせず、それが私を大変苛立たせたのです。今では私たちはかつてのことを笑えますが、当時は面白いということはなく神からの注目を得ることもなかったかと思います、私たちは離婚の統計項目の状態と同じだったかもしれないのです。

デイブは私がいつも神の前にいたと言い、それに対して彼は神の 10 マイル後ろにいたと言って応答するのです。私は大変積極的で、デイブはあまりにも受身だったのです。

クリスチャンが自分に能力や才能のある分野で無活発になると、その特定の分野は退化したり働かなくなってしまうのです。長い間その人が何もしないと、何がしたいとは更に思わなくなってしまうのです。肉体の運動がこの事のもっともよい例の一つだと思います。

私は最近適度なエクササイズのプロگرامをしています、運動をさらにすれば、より簡単になってきます。私が最初に始めた時は大変でした。プログラム

に従うたびに痛みがありました、なぜなら私はまったくと言うほど体を動かしたことがなく、エクササイズについては長い間受身だったからです。長い間何もしないと、私のからだの状態はさらに悪くなりました。自分の筋肉を全く使わないので、どんどん弱くなっていたのです。

デイズは彼の問題が何であるかがわかり始めました！彼を抑圧してきた悪い霊に立ち向かうようになりました、何故なら長い間彼を無活動にしてきたからです。聖霊がこの真理を彼に現したので、デイズは怠慢でぐずぐず先に延ばすのではなく、活動的で積極的になることを決断しました。

決断をすることは簡単な部分です；それを行動に移すのが難しい部分なのです。彼が受身だった部分が再び強くなるまで『実行する』ことなので、大変だったと思います。

彼は朝 5 時に起きて御言葉を読み仕事に行くまでお祈りをするようになりました。戦いははじめたのです！悪魔は自分が得た場所を諦めたくはありません、そして彼は戦うことなく諦めることはないのです。デイズは早起きして神と過ごす代わりにソファで居眠りをすることもありました。彼が居眠りした朝もありましたが、それでも彼は前進していました、何故なら彼はとにかくベッドから出てお祈りの生活を築こうとしたからです。

彼が退屈した時もありました。全く前進していないと思った時や読んでいることが理解できなかつたり祈り通せなかつたりと言うときもありました。しかし彼は断固として貫きました、何故ならこの状態について聖霊の啓示は『受身』と言うことだったからです。

私がデイズに絵をかけてもらおうとしたり家の周りで何かの修理をお願いすると、彼は直ちに応答するようになったことに気づき始めました。彼は自分で考えるようになり、自分の決断をするようになりました。彼はそのようにする気分にならないことがよくあり、肉に置いてはしたくはなかったのです。しかし彼は自分の感情や肉の欲望を超えるようになりました。彼が正しいとわかることをもとに行動をすればするほど、彼は自由を楽しんだのです。

正直に言うなら、それは彼には簡単なことではなかったはずですが。数日、あるいは数週間彼は自由ではありませんでした。受身に打ち勝つのは大変難しい状態だと言えます、何故なら先にも言ったように、励まそうという感情が全く

ないからです。

デイクは神の助けに固執しました、そして今や彼は受身ではありません。彼はライフ・イン・ザ・ワールドの管理者でラジオ、テレビのアウトリーチを管理し、ミニストリーの経済面のすべての責任を負っています。彼はいつも私と一緒に旅をし私たちの海外でのスケジュールに関する決断をしています。彼はまた良き家庭人です。彼は祈り神の言葉に決まった時間を過ごしています。要するに、彼は人として尊敬され称賛される人なのです。

彼は今もゴルフをしスポーツ番組を見ますが、他の必要なことも行います。今の彼を知り彼が行ってきたことのすべてを見ると、彼がかつて受身であったということは誰も信じられないでしょう。

受身の状態は打ち勝つことができます。しかし行動による受身に打ち勝つ最初の一步は受身的な思いに打ち勝つことです。デイクは彼の考え方を変えることを決断するまで前進することができなかったのです。

正しい行動は正しい考えに続く

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

ローマ人への手紙 12 : 2

神の言葉全体には力強い原理があります、そして御言葉を理解しそれによって生きないならば、勝利の中を歩める人は誰もいないでしょう：正しい行いは正しい考えに続く。

他の言い方をしてみましょう：あなたの思考が変わらない限りあなたの振る舞いは変わらないということです。

神の順序では、正しい考えが先で、正しい行動がそれに続きます。私は正しい行動や正しい振る舞いは正しい考えの『実』であると信じています。クリスチャンの多くが正しく振舞おうと葛藤をしますが、実は葛藤による産物ではありません。実は木にとどまっていた結果生まれます。(ヨハネ 15 : 4)

木にとどまるということは、従順であるということが必要です。(ヨハネ 15:10)。

私はこの原理を教えるときエペソ 4:22-24 をいつも使います。22 節は、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、とっています。

24 節はそれに続き、**真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきこと**でした。と教えています。

22 節で、私たちは正しくない行いをやめるように、そして 24 節で、私たちは正しく行い始めるようにと教えているのがわかります。しかし、23 節は『橋渡しの御言葉』と呼ぶように、22 節（正しくない行い）から 24 節（正しい行い）にどのように進むかを教えているのです：**またあなたがたが心の霊において新しくされ。**

初めに思考を変えることなく悪い考えから正しい考えをするようになるということは不可能です。受身的な考えをする人が正しいことをしたいと思うかもしれませんが、その人が意図的に思考を働かせ、神の御言葉と意志と一致するようにしない限り、それは起こらないでしょう。

私のセミナーの時にお祈りの列に並んだある男性のことを例としてお話ししましょう。彼には肉欲の問題がありました。彼は妻のことを大変愛していて彼らの結婚生活がダメにならないことを望んでいました、しかし彼の問題が解決しなければ彼の結婚生活は確実に崩壊する状態だったのです。

『ジョイス、僕には肉欲の問題があるんだ、』と彼は言いました。『僕は他の女性から会慣れていることができないようなんだ。その解放のために祈ってもらえるだろうか？僕自身何回も祈ってきたんだけど、何も改善したようには思えないので。』

これは聖霊が彼に何と言うか私に与えた言葉です、『わかりました、お祈りしましょう、しかしあなたの思考に現れる絵に対してあなたは責任を持たないといけません。あなたは自分の考えの中にポルノの画像を描いたり、他の女性と自分を一緒に想像してはいけません。もし、あなたが本当に自由を楽しみたいのであればね。』

この男性のように、なぜ皆自由になりたいと思っているのに打ち破れないのかと言うことを知らなければなりません：彼らは行いを変えたいけれど—思考は変えようとはしていないのです。

思考はしばしば人が『罪と遊び回る』領域です。イエスがマタイ 5：27, 28 で、『姦淫してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。と言いました。罪深い行動は罪深い考えに覆われているのです。

私の初代の家庭バイブルスタディに出席した女性が神を信じて、彼女の結婚生活を正しくしたいと願いました。彼女の人生のすべてが乱れていました—家庭、子供たち、結婚、経済、健康状態など。彼女は公に夫を愛してはいないと言いました；実際、彼女は夫を軽蔑していました。彼女の態度が神を敬う物ではないことがわかり、彼女は夫を愛そうとしました、しかし彼女は彼の周りにいることに我慢が出来ないようでした。

私たちは祈りました、彼女も祈り、皆が祈りました！私たちは彼女に御言葉を教え、聞くためのテープをあげました。私たちはできることを全部して、彼女も私たちのアドバイスに従っているようでした、しかし彼女はまったく前進してはいませんでした。何が悪いのかしら？カウンセリングのセッションで、彼女は人生を通して、空想に耽っていたことがわかりました。彼女はいつもおとぎ話の中にいて彼女がプリンセスでチャームキング王子が花束とキャンディを持って仕事から帰り、彼女への献身でたちまち夢中になるという物でした。

彼女はこのように考え日々を過ごしたので、彼女の、肥満で、汗臭く汚れて疲れた夫が仕事から戻ったとき（歯が一本抜けて）、彼女は彼を軽蔑したのです。

この状況について少し考えてみてください。女性は救われていたのですが、彼女の生活は乱雑状態でした。彼女は神に従い、神のために行きたいと願っていました、そして彼女の夫も愛したいと望んでいました、何故ならそれが神の御心であることを知っていたからです。彼女は人生と結婚生活の中で勝利を得たかったのですが、彼女は自分の思考に負かされていたのです。彼女が『健全な思い』によって機能するまで彼女の夫を嫌う思いに打ち勝つことはできなかったのです。

彼女は実在しない世界の中に心だけ暮らしていたのです。したがって、現実に対して全く準備ができていなかったのです。彼女は受身で、神の御言葉によって自分の考えを選ぶということがなかったので、悪魔が彼女の心に思うを注入したのです。

それらが彼女自身の思いだと思い、その中で楽しんでいた間、彼女は決して勝利を体験することがありませんでした。彼女は考えを変えました、それで彼女の人生が変わり始めました。彼女は夫に対する心の態度を変えました、それで彼は外観が変わり彼女に対する態度も変わり始めたのです。

天にあるものを思いなさい

こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

コロサイ人への 3 : 1, 2

もう一度同じ原理を見てみましょう：イエスが与えてくれたよみがえりの人生を生きたいのであれば、地上のものを思わず、天にあるものを思うことによる新しい力強い人生を求ることです。

使徒パウロはもし私たちが良い人生を生きたいのであれば、私たちは良いことを思わなければならないということを平易に述べています。

良い人生を望むクリスチャンはたくさんいますが、大抵の人が何か良いことが起これば良いのだが、とじっと座ったままの受身状態なのです。大抵、そのような人々は勝利的に生きている人に嫉妬し彼ら自身の人生が困難であることに憤慨しています。

もしあなたの問題に打ち勝つことを願うなら、もしよみがえりの人生を本当に願うなら、ただ願うだけではなく、気骨がなければなりません！受身ではなく一行動的であるべきです。正しい行動は正しい考えから始まります。受身的な考えは止めましょう。今日から正しく考える事を選ぶようにしてください。

第 15 章

キリストの思い

いったい、「だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちに、キリストの心があるのです。

コリント人への手紙第一 2 : 16

あなたが今正しい考えを選ぶという堅い決断をされたと信じています、そこで主に従って正しく考える方法を見る事にしましょう。イエスが地上におられたとき彼にも信じられないようなさまざまな考え方があったと思います。もし私たちがイエスの足跡に従いたいのであれば、彼が考えたように私たちは考え始めなければなりません。

直ちにあなたは、『それは不可能だ、ジョイス、イエスは完璧だったんだから。自分の考えを改善することは出来るかもしれないけど、イエスが考えたように

さて、聖書は私たちにはキリストの思いがあると教えています—新しい心と霊です。

新しい心と霊

あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。
わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。

エゼキエル書 36 : 26, 27

クリスチャンとして、私たちには新しい性質があります、それは実際神の性質が新生の際に私たちに与えられたものです。

もし私たちが神の命令を大切にし神の規則に従って歩むなら神が私たちに聖霊と新しい心（そして思い）を与えてくれるということをこの御言葉からわかるでしょう。ローマ 8 : 6 は肉の思いと霊の思いを語っていて肉の思いに従った結果は死である、いのちは霊の思いに従った結果であることを教えています。

私たちはいのちと死を見分けることを学ぶことで素晴らしく前進できるでし

よう。

もしあなたに死をもたらすものがあるなら、それは直ちにやめるべきです。あなたを満たすある一連の考えが死に満ちたものであれば、それは霊の思いではない事が直ちにわかるでしょう。

例を申し上げます、ある人のせいで私が受けた不公について考えていたので、腹が立ち始めたとします。私はその人が大嫌いだと考え始めます。もし私がよく見分けるなら、自分が死に満ちていることに気づくことでしょう。私は腹が立ち、緊張し、イライラするようになるでしょう—頭痛や、胃痛、過労などの肉体の不快を悪い考えの実として持つようになるかもしれません。一方、もし私がどれだけ祝福され神がどれだけ素晴らしいことをしてくださったかと考えるなら、私はいのちに満ちていることがわかるかと思えます。

クリスチャンが自分のうちにあるいのちと死を見分けることを学ぶことは大変有益なことです。イエスは彼の思いを私たちのうちに与え私たちがいのちに満ちるように備えてくれました。私たちはキリストの思いに従うことを選ぶことができるのです。

この章の残りのページにはキリストの思いに従うために行うべきことのリストを上げておきます。

1. 肯定的に考える。

ふたりの者は、仲がよくないのに、いっしょに歩くだろうか。

アモス書 3:3

もし人がキリストの思いに従って考えるなら、その人の思いはどのようなものでしょうか？それが肯定的であるということは、確かです。先の章で既に話してきたように肯定的な考えは絶対に必要なものです。ここで 5 章に戻って肯定的であることの重要性についてのあなたの記憶を新たにしても良いかもしれません。私自身が書いたのですが、私もその箇所をまた読んで、祝福を受けました。

肯定的であるということの力については語りきれないかもしれません。神は肯定的です、そして私たちが神に従っていきたくいのであれば、私たちは同じ長

さの波に乗り肯定的に考え始めなければならないのです。私はマインドコントロールを行うことを言っているわけではありません、単に肯定的な人であることについて話しているだけなのです。

肯定的な見方と態度を持ってください。肯定的な考えと期待を維持してください、肯定的な会話に関わるようにしましょう。

イエスは確かに肯定的な見方と態度を現してでしょう。彼は個人的攻撃を含むたくさんの方の困難に耐えました一嘘を語られ、彼がもっとも必要とするとき弟子たちに見捨てられ、からかわれ、孤独であり、誤解され、その他がっかりするようなことを耐えたのです。これら全ての肯定的な中でも、彼は肯定的でした。いつも人を高め、励ます言葉を話しました；彼は彼の近くに来るすべての人々にいつも希望を与えました。

私たちのうちにあるキリストの思いは肯定的です；従って、私たちが否定的になるときはいつでも、キリストの思いで動いていないのです。何百万もの人々が意気消沈で苦しんでいます、否定的であることが意気消沈になる可能性が高いと思うのです—原因が病気によるのでなければ。そのような場合でも、否定的であることは問題とその症状を増加させるだけなのです。

詩篇 3：3 によると、神は私たちの栄光で私たちの頭を高く上げてくださる方です。神は全てを掲げてくれます：私たちの希望、私たちの態度、私たちの態度、私たちの頭そして手と心を一私たちのすべてのいのちを。彼は私たちを高くあげられる方です！

神は私たちを高く上げたいのですが、悪魔は私たちを押さえつけたいのです。サタンは私たちの人生の否定的な出来事や状況を使って私たちを押さえつけようとするのです。辞書で意気消沈と言う言葉の定義は『霊において低くする：悲しくする。』ウェブスター辞書によると、意気消沈するということは置かれた領域の下に沈められるということ：うつろな。』意気消沈するということは沈める、押さえつけるあるいは地面のレベル以下にとどまることを意味します。私たちがいつも否定的に考えることは、私たちをさらに意気消沈されるだけです。否定的であることは私たちの問題を解決することはありません；さらに問題を加えることになるのです。

意気消沈に打ち勝つ

詩篇 143:3 - 10 は意気消沈とそれにどのように打ち勝つかを描写をしています。この節一つ一つから敵のこの攻撃に打ち勝つためにとるステップを詳しく見ていきましょう：

1. その性質と問題の原因を突き止める。

敵は私のたましいを追い詰め、私のいのちを地に打ち砕き、長く死んでいる者のように、私を暗い所に住ませたからです。

詩篇 143 : 3

『長く死んでいる者のように、私を暗い所に住ませた』は私には意気消沈した人の描写のようです。

この意気消沈の原因に注目してみると、これは魂に対するサタンの攻撃です。

2. 意気消沈がいのちと光を盗むことを認識する。

それゆえ、私の霊は私のうちで衰え果て、私の心は私のうちでこぼれました。

詩篇 143 : 4

意気消沈は人の霊的自由と力を抑圧します。

私たちの霊（神の霊によって力と励ましを受ける）は力強く自由です。したがって、サタンは私たちの思いを暗さと憂鬱で満たしその力と自由を圧迫しようとするのです。『意気消沈』と呼ばれる感情が起こったことを感じたら直ちにそれを拒絶するようにしてください。

3. 良い時を思い出す。

私は昔の日々を思い出し、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたの御手のわざを静かに考えています。

詩篇 143 : 5

この説明で私たちは詩篇の作者が彼の状態に応答しているのがわかります。思

い出すこと、黙想することそして熟考することは思考のすべての機能です。彼は自分の考えが感情に影響することを明らかに知っています、それで彼は自分の思いへの攻撃に打ち勝つためのことについて忙しく考えるのです。

4. 問題の真ただ中で主を賛美する。

あなたに向かって、私は手を差し伸べ、私のたましいは、かわききった地のように、あなたを慕います。

詩篇 143 : 6

詩篇の作家は賛美の重要性を知っています：彼は礼拝の中で手を掲げます。彼は彼の必要が本当に何であるかを宣言します—彼は神が必要なのです。神だけが彼を満足させることができるのです。

あまりにも多くの人が意気消沈しています、それは彼らに必要なからです、彼らはそれを間違った場所でさがしているのです、それが彼らに問題を加えるだけなのです。

エレミヤ 2 : 13 で主はわたしの民は二つの悪を行った。湧水の泉であるわたしを捨てて、多くの水ためを、水をためることのできない、こわれた水ためを、自分たちのために掘ったのだ。と、言われました。

神だけが乾いた魂に水を与えることができます。あなたを完全に満足させることができるのは他の何ものでもないということを考え騙されなくてください。間違ったものを追い求めることがいつもあなたをがっかりさせます、そして失望が意気消沈のドアを開くのです。

5. 神の助けを求める。

主よ。早く私に答えてください。私の霊は滅びてしまいます。どうか、御顔を私に隠さないでください。私が穴に下る者と等しくならぬため。

詩篇 143 : 7

詩篇の作家は助けを求めています。彼が言っていることは、『急いでください、主よ、私はあなたなしに耐えることができそうにないから。』

6. 主に聞く。

朝にあなたの恵みを聞かせてください。私はあなたに信頼していますから。私に行くべき道を知らせてください。私のたましいはあなたを仰いでいますから。

詩篇 143 : 8

詩篇の作者は神から聞く必要があることを知っています。彼は神の愛と優しさを確信しています。彼は神の注目と方向が必要なのです。

7. 解放のために祈る。

主よ。私を敵から救い出してください。私はあなたの中に、身を隠します。

詩篇 143 : 9

再び詩篇の作者は神だけが彼を助けることができるということを宣言しています。

この説教を通して彼は問題ではなく神に思いを置き続けているということに注目してください。

8. 神の知恵、知識と導きを求める。

あなたのみこころを行うことを教えてください。あなたこそ私の神であられますから。あなたのいつくしみ深い霊が、平らな地に私を導いてくださるように。

詩篇 143 : 10

恐らく、詩篇の作者は神の御心から出てしまい、彼の魂への攻撃のドアを開いてしまったことを示しているのでしょうか。彼は神の御心の中だけが安全な場所であるということを今知って、そこにいたいのです。

それで彼は神に彼が平安の中に入れるようにと求めているのです。彼の言葉で『平らな地に私を導いてください』は、彼の落ち着かない感情を宣べているのだと信じています。彼は平たい地 - 上がったたり下がったりすることのない—にいたいのです。

あなたの武器を使う

私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

コリント人への手紙第二 10 : 4, 5

サタンは意気消沈を使って何百万人もの人々を暗闇と失望の穴へと引っ張るのです。自殺は意気消沈の結果であることが多いのです。自殺願望の人は通常大変否定的で自分の将来に全く希望がないように思うのです。

覚えておいてください：否定的な感情は否定的な考えからくる。

考える事は戦場です、勝つか負けるかと言う場所なのです。肯定的であることを選んでください—すべての否定的な想像を捨ててください—そしてあなたの考えをイエスキリストに従うようにするのです。(コリント第二 10 : 5)

2. 神のように思う。

志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

イザヤ書 26 : 3

イエスは天の父と絶えず交わりを持っていました。その人のことを思わないで完全な交わりを持つことは不可能です。もし私が夫と一緒に車に乗っていて、彼が私に話しているとき、私が他のことを考えていたとしたら、私たちは真の交わりをしているとは言えません。なぜなら私が彼に完全に集中していないからです。したがって、キリストの思いの中で働く人の思いは神にそしてすべての神の力強い働きにあると信じているのです。

神と神の働きを黙想する

私のたましいが脂肪と髄に満ち足りるかのよう、私のくちびるは喜びにあふれて賛美します。

ああ、私は床の上であなたを思い出し、夜ふけて私はあなたを思います。

詩篇 63 : 5, 6

私は、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたのみわざを、静かに考えよう。

詩篇 77 : 12

私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。

詩篇 119 : 15

私は昔の日々を思い出し、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたの御手のわざを静かに考えています。

詩篇 143 : 5

詩篇を書いたダビデは神のこと、神が良い方であること、そして神の働きと方法について黙想するというをしばしば語っています。神が良い方であるということや神の御手のすべての素晴らしい働きについて思うことは大変高揚させることです。

私は自然、動物、海の生き物などについてのテレビ番組を見るのが好きです、なぜならこれらの物は神の偉大さ、素晴らしさである、神の無限の創造性といかに神がすべての物を神の御力で掲げておられるかと言うことを描写しているのです。(ヘブル 1 : 3)

もしあなたが勝利を体験したいのであれば神についてそして神の方法や働きを黙想することがあなたの日々の生活の一部になる必要があるでしょう。

私のお気に入りの御言葉の一つは詩篇 17 : 15 で、そこで詩篇の作者は主のことを…私は、正しい訴えで、御顔を仰ぎ見、目ざめるとき、あなたの御姿に満ち足りるでしょう。と言っています。

私は不幸せな日々を長い間過ごしました、なぜなら毎朝起きる度に悪いことを考えて一日を始めていたからです。聖霊が私のうちにあるキリストの思い(霊の思い)によって機能できるよう助けてくれて以来私はまったく満足できるようになりました。早朝に神と交わることが人生を楽しめる確かな方法の一つだと思います。

主との交わり

…もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。

ヨハネの福音書 16 : 7

これらの言葉はイエスが天に戻り栄光の父の御手の右の座に座る前に語られた物です。私たちが神と親しい交わりの中にあることが神の御心であることはこの御言葉から明らかです。

私たち自身の思い以上に自分に近いものはありません。したがって、もし私たちの思いを主で満たすなら、それによって神を私たちの意識に主を導き私たちは神との交わりを楽しむようになるでしょう、そしてそれが私たちの日々の生活に喜び、平安そして勝利をもたらすことになるのです。

神は神ご自身が約束されたとおりにいつも私たちと一緒におられます。(マタイ 28 : 20 ; ヘブル 13 : 5) しかし私たちは神について考えるまで神の隣在を意識することはありません。私が部屋に誰かとして、もし私がたくさんのことを考えていたなら、そこに誰かがいたことを知らないで部屋から出て行くかもしれません。これが私たちの主との交わりの特権に対する状態なのです。神はいつも私たちと一緒にいますが私たちは神のことを思い、神の隣在に気づく必要があるのです。

3. 『神が私を愛してくれている』という思い。

私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。

ヨハネの手紙第一 4 : 16

私は神の愛の真実と神の隣在の真実とは同じであるということを学びました。もし私たちが私たちに対する神の愛について黙想しなければ、私たちは神の愛を体験することはないでしょう。

パウロはエペソ 3 章で人が自分たち自身で神の愛を体験するようにと祈りました。聖書で神が私たちを愛していると語っています。しかし神の愛についての啓示を見失った神の子どもたちがどれだけいるのでしょうか？

私がライフ・イン・ザ・ワード・ミニストリーを始めた時のことを思い出します。初めの週私がミーティングを導くために、神が私に何を教えることを望んでおられるかを尋ねたところ、神は『私の民に私が彼らを愛していることを教えなさい』と応えられました。

『彼らはそれを知っていますよ、』と私は言いました。『私は彼らに何か本当に力強いことを教えたいのです、ヨハネ 3：16 からの日曜学校のレッスンではなくて。』

主は私に、『私が彼らをどれだけ愛しているかを知っているのはわずかしかない、もし彼らが知っているなら、異なった行いをするだろう。』

私が神の愛を受け取るという課題を学び始めると、私自身が絶対的に必要としていることがわかりました。私たちは神の愛に気づくべきであるということ述べているヨハネ第一 4：16 の学びへと主が私を導かれました。それは私たちが積極的に気付く何かであるべきことを意味しています。

私には神が愛しているということへの無意識的、漠然とした理解はありましたが、しかし神の愛が私たちの人生で力強い働きをするもので、もっとも困難な試練にあっても勝利へと私たちを導くことができます。

ローマ 8：35 で使徒パウロは**私たちがキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか。苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。**と私たちを励ましています。それから 37 節で彼は続けてしかし、**私たちは、私たちを愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。**と述べています。

私はこの領域について長い間学びました、そして神の愛について考えまた神の愛について声に出して告白することで私に対する神の愛を気付くようになりました。私は神の愛についての御言葉を学びました、そしてそれらの言葉を黙想し声に出して告白をしました。私はこれを何か月も行いました、そして神の私への無条件の愛の啓示が一層現実的になったのです。

今や、神の愛は私にとって本当に現実的で困難な時でさえも、神が愛してくれている、私は恐れの中に生きることはないというように『意識して知る』こ

とで、慰められるのです。

恐れるな

愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します…

ヨハネの手紙第一 4：18

神は私たちのそのままを完璧に愛するのです。ローマ5：8は…**私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。**と私たちに教えています。

キリストの思いで考えるクリスチャンは彼らはどれだけひどいものかとは考えません。彼らは義をもとにして考えるでしょう。あなたは義の意識を持つべきです、あなたが『キリストにおいて』いつも黙想するべきなのです。

罪の意識ではなく義の意識でいる

神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

コリント人への手紙第二 5：21

多くのクリスチャンが彼ら自身についての否定的な思いで苦しめられています。彼らの弱さと欠点のために神が彼らのことを喜ぶことはないという考えです。

あなたは罪悪感や咎めによって人生をどれだけ無駄使いしたのでしょうか？あなたがどれだけの時間を無駄使いしたかと私が言った言葉に注意してください、なぜなら正にあらゆる種類の考えが、時間の無駄使いなのです！

キリストのもとに来る前のあなたがどれだけひどいものだったかとは考えないでください。その代わりに、彼にあってあなたは神の義とされたということについて考えてください。思い出してください：思考が行動に変わります。もしあなたの行いをよくしたいのであれば、まず、あなたの考えを変えなければいけません。自分がどれだけひどいかと考え続けるなら、あなたの行動はさ

らにひどいものになるでしょう。否定的で、とがめる思いがやってきたらいつでも、神があなたを愛していて、あなたはキリストにあって神の義とされたことを自分に思い出させてください。

あなたはいつも良いほうに代わっているのです。毎日霊的に成長しているのです。神はあなたの人生に素晴らしい計画をされています。ここのようなことはあなたが考えなければならない真実です。

これこそがあなたの思いの中でおこなうことなのです！

神の御言葉によって意図的に考えてください；あなたの頭に訪れることを何もかもあなた自身の思いだと思って、考えないようにしましょう。

悪魔を叱りつけ正しい考えをすることで前進し始めましょう。

4. 勧告的な思いを持つ。

勧めをする人であれば勧め…

ローマ人への手紙 12 : 8

キリストの思いを持つ人は自分自身のことや自分の状況についてと同じように他の人についても肯定的に考えます。

勧めのミニストリーは今日世界中で大変必要なミニストリーです。もし人がある人に対して励まそうという思いがなければあなたの言葉で誰も励ますことは決してないでしょう。あなたの心にあることがあなたの口から出るということをお出ししてください。何か『愛による思い』を目的をもって行ってください。

周りの人に愛の心を送りましょう。励ましの言葉を語るようにしてください。

勧めるという言葉に訳されたギリシャ語のパラカレオをバイン新約聖書用語解説辞書では、『主として、人を呼ぶ（パラは側に、カレオは呼ぶ）…訓戒する、励ます、ある行いを追及するように勧める…』と定義しています。私はこの定義のある人のそばに来てある行動をやり続けるようにと勧めることと解釈

するのです。ローマ 12：8 で教えられている勧めの賜物の持っている人は直にわかります。彼らはいつも誰かを何か励ますことや高めることを言うからです。一人の気分を良くさせ、その人たちを前進させるのです。

私たち皆が勧めの賜物を持っていないかもしれませんが、誰でも励ますことを学ぶことはできます。簡単なルールは：もし良くなければ、それを考えないもしくは言わないことです。

誰もが既に十分に問題を持っています、私たちは人をダメにするような問題を増し加える必要はありません。私たちは互いを愛によって立て上げるべきです。(エペソ 4：29) 忘れないでください：愛はいつもすべての人の最善を信じます (コリント第一 13：7)。

あなたが人について愛すべきことを思いはじめると、その人はさらに愛すべき態度で応じるようになるのがわかるでしょう。考えと言葉は創造的あるいは破壊的な力を持つ器であり武器なのです。それらがサタンと彼の働きに対して使われるか、あるいはサタンの破壊の計画を実際に助けるために使われるかなのです。

あなたの子どもに態度の問題があつて絶対に帰る必要があるとします。あなたはその子のために祈り、神が必要な変化がなされるように働かれることをと求めましょう。さてあなたは待っている間その子どもに対する思いと言葉をどうしますか？多くの人が彼らの祈りの答えを決して見ることがないのです、何故なら神が彼らのために働かれる前に、彼ら自身の思いと言葉で求めたことを否定するのです。

あなたは子どもが変わるように祈り、それからその子について否定的な思いを心に抱くのでしょうか？あるいは、変わるようにと祈るけれど、『この子は決して変わらない！』と考え、また他の人に言うでしょうか。勝利の中を生きるには、あなたの考えと神の言葉が一致し始めなければならないのです。

もし私たちの思いが話すことと反対であるなら、私たちは御言葉の中を句ではいません。もし私たちが御言葉によって考えていないなら、御言葉の中を歩んでいないのです。

あなたが誰かのために祈るとき、あなたの思いと言葉をあなたが祈ったこと

と一致させることで、打ち破りを見始めるでしょう。

私はあなたがバランスを壊すように提案しているではありません。もしあなたの子どもが学校で態度に問題があって、誰か友達が子供の様子を聞いたなら、あなたはそうすべきでしょうか、実際にはまったく変化があらわれていないとしたら？『打ち破りはまだ見ていないけれど、神が働いていてこの子は主の原動力だと信じているから。私たちはこの子が栄光から栄光へと、少しずつ、日ごとに代わると思うから。』と言えば良いのです。

5. 感謝する思いを育てる。

感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。

詩篇 100 : 4

キリストの思いで動く人は賛美と感謝に満ちた思いがわかるでしょう。

不平不満によって敵へのドアがたくさん開かれます。人々への思いや会話を攻撃する不平不満と呼ばれるこの病気のために、弱弱しくて、力なく生き肉体的に病気の人がいます。

感謝なしに力強い人生を生きることはできません。聖書は私たちに何度も感謝の原理を教えています。考えや言葉での不平不満は死の原理ですが、感謝しそれを言うことはいのちの原理です。

もし人に感謝する心（思い）がなければ、その人の口から感謝は出て来ません。私たちが感謝するとき、それを声にして言いましょう。

いつも感謝する

ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。

私たちはいつ感謝を捧げるのでしょうか？いつもです—あらゆる状況、すべて

のことに一そのようにすることで私たちは悪魔が私たちをコントロールできない勝利的な人生の中に入ります。

もし私たちがどんな状況でも感謝と喜びにみちているなら、悪魔はどのように私たちをコントロールすることができるのでしょうか？このようなライフスタイルは間違いなく、賛美や感謝のいけにえを必要とするでしょう、しかし私は私の喜びをサタンに捧げるより神に感謝のいけにえをむしろ捧げるでしょう。もし私がしかめっ面をして感謝を捧げることを拒むなら、私の喜びも諦めることになるということを知り（難しい方法で）ました。言い換えれば、私は不平不満の霊によって、なくすことになるのです。

詩篇 34:1 で詩篇の作者は**私はあらゆる時に主をほめたたえる。私の口には、いつも、主への賛美がある。**と教えています。私たちはどのように主への祝福となれるのでしょうか？私たちの思いと口による神への賛美を絶えず行うことです。

いつも感謝している人でいてください—神に対してだけでなく、人に対してとも感謝で満ちた人であるように。あなたに良くしてくれた人がいたなら、その人にあなたの感謝の心を伝えてください。

家族の中でもそれぞれのメンバーに感謝を示しましょう。大抵、私たちは神が私たちを祝福してくれたことを当たり前のことと忘れてしまいます。何かを失ってしまうのは、それを感謝しないからです。

私は夫を感謝しています；私たちは結婚して長くなりますが、私は彼に感謝していることを今でも彼に言います。彼はあらゆることに大変忍耐強く、たくさんの良い性質を備えています。私たちは人と良い関係を築きそれを保つのにその人のことを感謝していることを知らせたり、特に感謝することを言うことが大切です。

私はたくさんの人を取り扱います、ある人は本当に小さいことにも大変感謝しますが、ある人はその人たちのためにどれだけのことをしてもらっても決して満足しないということに驚いています。この問題はプライドに関わっていると信じています。ある人たちは自分のことでいっぱいなので、周りの人がどれだけのことをしてあげても、彼らはそれに値するものだと思いそれ以上を要求しますが、彼らはめったに感謝を現さないのです。

感謝を表すことは周りに対してだけでなく自分自身にもよいことなので、何故ならそれによって私たちのうちにある喜びを解き放つからです。

あなたが感謝するすべてのことを日々黙想してください。祈りの中で主にそれらを言い表してください、あなたがそれをする事であなたの心がいのちと光で満ちていることがわかるでしょう。

全てのことにいつも感謝を捧げる

また、酒に酔ってはけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美なさい。

いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。

エペソ人への手紙 5：18-20

神の言葉は神の考えを神に書いたもので私たちの、学びと考えるためのものです。神の言葉は全ての状況と課題についてどのように神が考えるかという物です。

ヨハネ 5：38 でイエスはある未信者を厳しく非難されています。この訳から神の言葉は神の考えを現すために書かれたもので信じたいと思う人たちのためのもので、信じる事による良い結果を体験するものは神の言葉が彼らの心への生きたメッセージとならなければならないのです。これは神の言葉を黙想することでできるのです。このように神の考えが私たちの考えになることができるのです—キリストの思いを私たちのうちに育てる唯一の方法です。

ヨハネ 1：14 でイエスは人となった言葉であると教えています。それは神の言葉で神の思いを絶えず満たされることがなければ不可能なことです。

神の言葉を黙想することは私たちが学べるもっとも重要ないのちの原理の一つです。パイン新約聖書用語解説辞書は黙想するという二つのギリシャ語を次のように定義しています：『…好む』『努力する、常に行う』『勤勉に』『常に行う』ということは広く行き渡った意味の言葉』『思い耽る、想像する』『前もって

考慮する』他には『ぶつぶつ言う』あるいは『つぶやく』を定義に加えられません。

この原理がどれだけ重要であるかをいくら強調しても十分でない位です。私はそれをいのちの原理と呼びます、何故なら神の言葉を黙想することはあなたにいのちをもたらす、究極的にはあなたの周りの人にも働くことになるからです。

多くのクリスチャンたちは『黙想する』と言う言葉を恐れてしまいます。異教徒やカルト信者が黙想をよく行うからです。しかしサタンには本来のアイデアは決してなかったということを思い出してください。彼は光の王国に属する者を取りそれを暗闇の王国へと悪用するのです。もし黙想が悪に対してそのような力を作り出すのであるなら、良いことのための力も生み出すということを知り知らなければなりません。黙想の原理は神の言葉からまっすぐにやってきます；それについて聖書が何と言っているかみてみましょう。

黙想と繁栄

この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。

ヨシュア記 1：8

私たちが御言葉をまず精神的に実践しないのであれば肉体的に実践することは決してないということを主は私たちに平易に教えています。

詩篇 1：2, 3 は神を敬う人のことを語っています：まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

黙想するそして癒される

わが子よ。私のことばをよく聞け。私の言うことに耳を傾けよ。

それをあなたの目から離さず、あなたの心のうちに保て。
見いだす者には、それはいのちとなり、その全身を健やかにする。

箴言 4：20-22

『黙想』を定義する言葉の一つは気を付けるということであることを思い出し、この御言葉は主の言葉は健康と体の癒しの元であるということをよく考えてください。

私たちの思いの中にある神の言葉を黙想（熟考する、考える）することは実際に私たちの肉体に影響します。私の外観は過去 18 年間で変わりました。私が御言葉を熱心に学び私の人生全体の中心にし始めた時より今のほうが少なくとも 15 歳若く見えると人々は言うのです。

聞くことそして収穫

また彼らに言われた。『聞いていることによく注意しなさい。あなたがたは、人に量ってあげるその量りで、自分にも量り与えられ、さらにその上に増し加えられます。

マルコの福音書 4：24

これは蒔くことと刈り取ることの原理のようです。私たちがより多く蒔けば、収穫の時にさらに多く刈り取ることになります。マルコ 4：24 で私たちが聞く御言葉を学びそれについて考えることに個人的に多くの時間を費やせば、私たちはそこからたくさんのごとを得ることになると主は教えています。

読んで刈り取る

隠れているのは、必ず現れるためであり、おおい隠されているのは、明らかにされるためです。

マルコの福音書 4：22

これら二つの御言葉が確かに教えているのは、私たちのうちに隠された御言葉には素晴らしい宝、いのちを与える力強い秘密があってそれを神は私たちに明らかにしたいのです。それらは神の御言葉を黙想し、熟考し、学び、考え、実践し口で何度も言うことによって現れます。

私は、神の言葉の教師として、この原理の真理を個人的に知っています。一つの御言葉から神が示されることは果てしないようです。私が一度学び一つのことを得たら、次には今までに気付かなかった何かがわかるのです。

主は御言葉について熱心なものに神の秘密を現し続けられます。いつも他の人の啓示に寄生して生きるような人であってはけません。自分自身で御言葉を勉強し聖霊があなたの人生を真理で祝福するようにしてください。

私は神の御言葉を黙想するという課題についていくらでも話し続けることができます。以前にも言ったように、それは私たちが学ぶことのできるもっとも重要なことの一つです。一日中、あなたが日々の用事を行っていくのに、聖霊に思い出すべき御言葉を尋ねるのです、そうすることで、あなたは御言葉を黙想することができます。これを実践することでどれだけの力があなたのいのちに解放されるか驚くことでしょう。あなたが神の御言葉を黙想すればするほど、困難な時に役立つ力を引き出すことができるようになります。覚えてください：御言葉を行う力はそれを黙想するところからやってくるのです。

御言葉を受け取り歓迎する

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

ヤコブの手紙 1 : 21

御言葉には私たちが罪の生活から救う力があるということがこの御言葉からわかります、ただし私たちは、それを受け入れ、歓迎し私たちの心（思い）に植え付け根付かせるときだけです。この植え付け根付させる過程は御言葉に傾倒することによって起こります—他の何よりも私たちの思いを神の御言葉で満たすことによります。

もし私たちが私たちの問題を常に黙想していたら、私たちは問題の中により深く根付くことになるでしょう。もし私たちが自分自身や周りの人の悪いことをいつも黙想するなら、私たちは問題についてさらに咎めを受け、決して解決を見ることはないでしょう。それはまるで海に生き物がいっぱいいて私たちはそれを得ることができ、それをつかむための道具が与えられているかのように、

私たちには、神の御言葉を熱心に学び黙想する力が与えられているのです。

私たちのミニストリーはライフ・イン・ザ・ワード（御言葉にあるいのち）と呼ばれています、本当に御言葉には命があるということを私の経験から言えるのです。

いのちを選びなさい！

肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。

ローマ人への手紙 8：6

この章を終わるのにあたりピリピ 4：8 を再び注目してみたいと思います：すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判のよいこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

あなたの心の状態はこの御言葉に述べられているようであるべきです。あなたにはキリストの思いがあり、それを使い始めるのです。

それは、あなたのすべての思いをイエス・キリストに従わせる（コリント第二 10：5）ために絶えず自分の思いを『見守り続ける』ことです。

もしあなたの思いが間違った方向に向かい始めたら聖霊がすぐに思い出させてくれます、そして決断はあなたのものであるのです。あなたは肉の思いによって生きるのでしょうか、それとも御霊の思いによって生きますか？一つは死に至らせ、もう一方はいのちに至らせます。選択はあなたのものであります。

いのちを選びなさい！

パート 3 :
荒野的な心の態度

序章

ホレブから、セイル山を経てカデシュ・バルネアに至るのには十一日かかる。

申命記 1 : 2

イスラエルの民は実際には 11 日間のできる旅を 40 年間かけて荒野をさまよったのでした。なぜでしょうか？それは敵や彼らの状況やその行程での試練だったのでしょうか？あるいは彼らの目的地に到達することを妨げるための全く異なった何かだったのでしょうか？

私がこの状況について深く思いを巡らしていた時、神が力強い啓示を与えてくれました、それは私個人に対してではなくたくさんの人を助ける物です。主は私に『イスラエルの民が 11 日のできる荒野での旅に 40 年かかったのは彼らに荒野的な心の態度があったからだ。』と教えてくれました。

あなたがたはこの山に長くどまっていた

私たちの神、主はホレブで私たちに告げて仰せられた。「あなたがたはこの山に長くどまっていた。」

申命記 1 : 6

私たちはイスラエルの民にあきれ返ってみるべきではありません、何故なら大抵の人は彼らと同じことをしたと思うのです。私たちは前進する代わりに同じ山を何度も何度もまわり続けます。その結果、私たちが短時間でできたことを何年もかけて勝利を得ているということです。

主が私たちにイスラエルの民に言ったことと同じことを言っていると思いません：

『あなたがたはこの山に長くどまっていた；さあ、前進しなさい。』

あなたの心を定めそれを保つ

あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

コロサイ人への手紙 3 : 2

神はイスラエルの民が荒野の中にとどまることになった10の荒野的心の態度を私に示されました。荒野的心の態度は悪い心の態度です。

私たちには正しいあるいは悪い心の態度を持つことができます。正しいものは私たちにプラスになりますが、悪いものは私たちを傷つけ私たちの前進を妨げるのです。コロサイ3:2は私たちに心を定め保つことを教えています。私たちは正しい方向に私たちの心を定める必要があります。悪い心の態度は私たちの状況に影響するだけでなく、私たちの内面生活に影響します。

私の状況がそれ程悪くない時でも、私の内側に『荒野』があったので自分の人生をあまり楽しむことができませんでした。デイブと私は立派な家を持ち、3人の愛すべき子どもがいて、良い仕事があり十分お金があるので快適に暮らしていました。私は私たちの祝福を楽しむことができませんでした、何故ならいろいろな荒野的な心の態度があったからです。私の人生は荒野のように見えたのは私がすべてのことをそのように見ていたからです。

ある人は物事をいつも否定的に見て生きているのですが、それは彼らの人生のすべてを不幸な状況の中で生き、何も良いことが起こるということを想像することができないためなのです。そしてすべてを悪く否定的に見る人たちは単に彼らの内側がそのような状態だからです。何であってその原因となっている否定的な見方が人を見じめにし約束の地に向かわせないのです。

神はイスラエルの民をエジプトの束縛から彼らに与えると約束された永遠の相続地へと召し出されました—父と蜜が流れる彼らが想像できるすべての良いもので満ちた—彼らの必要に何もかける事のない地—彼らの存在のすべての領域で繁栄する地へとです。

主がエジプトから召された大半の世代は約束の地に決して入れませんでした；その代わりに彼らは荒野で死にました。私にとって、これは神の子どもに起こる悲しいことの一つです—たくさんの物を持つことができるのにそれを決して楽しむことができないということです。

私も長い間このような人の一人でした。私は約束の地（天国）への途中にいましたが、その旅を楽しんでいなかったのです。私は荒野で死にかけていたのです。しかし、神に感謝します、神の憐みのおかげで、私の暗闇に光が輝き、

神は私を導き出してくれました。

この章があなたに光となりあなたを暗闇から神の輝かしい王国の光へと導き出される助けとなることをお祈りします。

第 16 章

『私の将来は過去と現在によって決まる』

荒野的心の態度 #1

『私の将来は過去と現在で決まる』

荒野的心の態度 #1

第 16 章

幻がなければ、民はほしいままにふるまう…

箴言 29 : 18

イスラエルの民は彼らの人生に何も肯定的なビジョンがありませんでした—夢も全くなかったのです。彼らはどこからやってきたかは知っていましたが、どこに行くかがわかっていなかったのです。全て彼らが見てきたことと見ることができるところを元にしていました。彼らは『信仰の目』での見方がわからなかったのです。

解放をもたらすために油注がれる

「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。」

ルカの福音書 4 : 18, 19

私は虐待された背景からやってきました；私は機能障害の家族によって育てられました。子供時代は恐れと苦悩でいっぱいでした。子どもの人格は最初の 5 年のうちに形作られると専門家は言っています。私の性格はめっちゃめっちゃでした！私を傷つける人から守るために壁を築き守りの壁の後ろでふりをして生きていました。私は他の人を締め出していたのですが、私自身も閉じこもっていたのです。私は支配者で、恐れに満ちていたので私が人生に直面することができたのは人をコントロールし、誰も私を傷つけないと感じるときだけでした。

キリストのために生きようとする青年でありクリスチャンの生き方に従うのに、私は自分がどこから来たかを分かっていたのですが、どこに行くかを知りませんでした。私の将来は過去によっていつも傷つけられたと思っていました。私は、『私が過ごしたような過去を持つ人がどうして本当に大丈夫でいられるのでしょうか？そんなことは不可能だわ！』と思っていました。しかし、イエスは病気の者、心の壊れた者、傷ついた者や災禍のために打ち砕かれた人を良くするために来たと言いました。

イエスは刑務所のドアを開き捕らわれた人々を自由にするために来ました。私が自由になれるということを信じるまで何の進展もありませんでした。私は自分の人生に肯定的なビジョンを持たなければならなかったのです；私の将来は私の過去や現在で決まるのではないと信じなければなりませんでした。

あなたにははじめな過去があるかもしれないし、現在の状況も大変否定的で失望的かもしれません。あなたが直面している状況があまりにひどくて希望など持つことができないような状態かもしれません。しかし、私はそのようなあなたに大胆に言います、あなたの将来はあなたの過去や現在によっては決まらないのです！

新しい心の態度を作ってください。神と一緒にならすべてのことが可能である（ルカ 18：27）とすることを信じてください；人となら不可能なことでも、何もないものからすべてを作られた神（ヘブル 11：3）に私たちは仕えているのです。あなたの何もないものを神に与えて神が働かれるのを見てください。神が必要とされることは神に置く私たちの信仰なのです。神はあなたが信じる必要があるのです、そして神はその残りをしてくれるのです。

見るための目、聞くための耳

エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。
その上に、主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。
この方は主を恐れることを喜び、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、

イザヤ書 11：1-3

私たちは自分の目で見ることによって物事を正確に判断することは出来ません。私たちは霊的に『見るための目』と『聞くための耳』を持たなければならないのです。私たちは世の中が言うことではなく、御霊が言うことを聞く必要があるのです。あなたの将来について神があなたに語るようにしてください—他の誰でもなく。

イスラエルの民は絶えずその物の状態を見、話し合っていました。神は彼らをモーセの手を使ってエジプトから導き出され、モーセを通して約束の地について話されました。神は彼らが向かうところに目を置き続けることを望まれました—そして彼らがどこにいたかから目を離すことを望まれたのです。彼らの悪い態度を明確に表すいくつかの御言葉を見てみましょう。

何が問題なのか？

イスラエル人はみな、モーセとアロンにつぶやき、全会衆は彼らに言った。「私たちはエジプトの地で死んでいたらよかったのに。できれば、この荒野で死んだほうがしました。なぜ主は、私たちをこの地に導いて来て、剣で倒そうとされるのか。私たちの妻子は、さらわれてしまうのに。エジプトに帰ったほうが、私たちにとって良くはないか。」

民数記 14 : 2, 3

この御言葉を注意深く調べてみてください。彼らがいかに否定的であるかと言うことに注目してください—不平不満、簡単に諦めようとしている、荒野を突き進んで約束の地に行くことより束縛に戻ろうとしていること。

実際、彼らに問題はなかったのです、彼らが問題だったのです。

悪い考えが悪い態度を生み出す

ところが会衆のためには水がなかったので、彼らは集まってモーセとアロンに逆らった。民はモーセと争って言った。「ああ、私たちの兄弟たちが主の前で死んだとき、私たちも死んでいたのなら。なぜ、あなたがたは主の集會をこの荒野に引き入れて、私たちと、私たちの家畜をここで死なせようとするのか。」

民数記 20 : 2-4

イスラエルの民は神を信頼していなかったということが彼ら自身の言葉で簡単にわかります。彼らには否定的で、落伍者の態度がありました。彼らは実際に始める前に失敗するだろうと決めていたのです。なぜなら単にすべての状況

は完璧ではなかったからです。彼らは悪い心の態度からくる態度を現したので
す。しかし態度は悪い考えの実なのです。

感謝の態度の不足

彼らはホル山から、エドムの地を迂回して、葦の海の道に旅立った。しかし民は、途中
でがまんができなくなり、
民は神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたは私たちをエジプトから連れ上
って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはkのみじめ
な食物に飽き飽きました。」

民数記 21 : 4, 5

先に見た御言葉に伴うすべての悪い態度と、この御言葉で私たちはイスラエルの
民の恐ろしいほどの感謝の不足を見ることができます。イスラエルの民は彼
らがやってきたところについて考える事を単にやめることができず彼らが向か
っていくところが遠すぎたのです。

彼らの先祖であるアブラムについて考えるのに役立つことでしょう。彼
は彼の人生でがっかりすることを体験しました、しかし彼の将来に否定的な影
響を与えないようにしたのです。

争いのない人生

そのうえ、アブラムの家畜の牧者たちとロトの家畜の牧者たちとの間に、争いが起こつ
た。またそのころ、その地にはカナン人とペリジ人が住んでいた。

そこで、アブラムはロトに言った。「どうか私とあなたとの間、また私の牧者たちとあ
なたの牧者たちとの間に、争いがないようにしてくれ。私たちは、親類同士なのだから。
全地はあなたの前にあるではないか。私から別れてくれないか。もしあなたが左に行け
ば、私は右に行こう。もしあなたが右に行けば、私は左に行こう。」

ロトが目を見てヨルダンの低地全体を見渡すと、主がソドムとゴモラを滅ぼされる以
前であったので、その地はツォアルのほうに至るまで、主の園のように、またエジプト
の地のように、どこもよく潤っていた。

それで、ロトはそのヨルダンの低地全体を選び取り、その後、東のほうに移動した。こうして、彼らは互いに別れた。

創世記 13 : 7-11

アブラハムは争った状態で生きる事の危険を知っていたのです；それで、彼はロトに別れる必要があることを伝えたのです。愛によって歩むために、そして将来お互いの間に争いがない事を確かにするため、アブラハムは彼の甥に先に望む土地を選ばせたのです。ロトは良いほうを選びました—ヨルダンの低地—そして彼らは別れました。

アブラハムが祝福するまでロトには何もなかったということを覚えておいてください。アブラハムが振舞ってもおかしくない態度がありましたが、彼はそのようには振舞わなかったのです！彼が正しく行ったなら神が彼の世話をしてくれるということを彼は知っていたのです。

目を上げて見なさい

ロトがアブラムと別れて後、主はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。

わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。

創世記 13 : 14, 15

この御言葉がはっきり現していることはアブラハムが彼の甥と別れた後彼の状況はあまり好ましいものではなかったかもしれないけれど、神が彼を導こうとされる場所を見上げさせられました。

アブラハムは彼の状況に対して良い態度だったので、その結果悪魔は彼への神からの祝福を奪うことができなかったのです。神はアブラハムがロトと別れる以前持っていた物以上のものを与えられ、彼をあらゆる方法で祝福されました。

将来の可能性を肯定的に見てください、そして『無いものを有るもののように呼ぶ。』（ローマ 4 : 17）ことを始めるようにしてください。神があなたの心に置かれたことに従って、あなたの将来について肯定的に考え語るようにしまし

よう、あなたが過去に見たことや、現在有ることによるのではなくです。

第 17 章

『誰かが私のためにするから；私には責任がないの』

荒野的心の態度 #2

『誰かが私のためにするから；

私には責任がない。』

第 17 章

荒野の心の態度 # 2

テラは、その息子アブラムと、ハランの子で自分の孫のロトと、息子のアブラムの妻である嫁のサライとを伴い、彼らはカナンの地に行くために、カルデア人のウルからいっしょに出かけた。しかし、彼らはハランまで来て、そこに住みついた。

創世記 11 : 31

責任は神の能力への私たちの応答としてしばしば定義されます。神が私たちの前に置かれた機会に応答することが責任なのです。

神はアブラムの父親に責任を与えられました、神の能力に応える機会です。神はテラにカナンに行く機会を彼の前に置かれました。しかしすべての道のりを主と進む代わりに、彼は途中で止まりハランで留まることを選びました。

神が最初私たちに語り何かをする機会を与えられたら、何も問題なくわくわくすることでしょう。しかし、テラのように、私たちは始めたことを決して終えないことが多々あります。それを始めるとわくわくして鳥肌ができる以上のことがあるということがわかるからです。

大抵新しい冒険はそれが新しいという理由だけでわくわくします。興奮が少しの間は人を駆り立てるでしょうが、終了線を越えさせることはありません。

クリスチャンの多くがテラがしたことを行っています。彼らは始めることは始めるのですが、その途中のどこかで落ち着いてしまうのです。彼らは疲れてしまうのです；それぞれのコースを終えたいのですが、それに伴う、責任は取りたくないのです。もし誰か他の人が彼らのためにしてくれるのであれば、喜んで栄光だけを刈り取ろうとするでしょうが、そのようにはできないのです。

個人の責任は委任できない

翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は主のところに行って行く。たぶんあなたがたの罪のためにあがなうことができるでしょう。」

そこでモーセは主のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。」

今、もし、彼らの罪をお赦しくださるものなら—。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

出エジプト記 32 : 30-32

私が御言葉を読み学んで、イスラエル人は何に対しても責任を取りたくないということに気づきました。モーセは彼らのために祈りました；彼は彼らのために神に求め、彼ら自身が問題に持ち言ったとき彼らの悔い改めまでも彼がしたのです。(出エジプト記 32 : 1-14)。

赤ちゃんには何も責任がありません、しかし子どもが大きくなれば、その子はどんどん責任をとることが期待されます。親の責任の一つの役割は彼の子どもにも責任を持つことを教えることです。神も彼の子どもにも同じことを教えられます。

主は私にフルタイムミニストリーの機会を与えられました—神の御言葉をラジオとテレビで教える事—アメリカ中そして他の国々で福音の説教をすることです。しかしその召しには誰も知らない責任の側があります。多くの人がミニストリーの中にいたいと言います、それは継続した霊的イベントだからです。

たくさんの方が私たちのミニストリーに仕事を応募します、それはクリスチャンミニストリーで働けば素晴らしいことが起こるであろうと思うからです。後日、彼らは他で働くのと同じように働かなければならないことがわかるのです；彼らは起きて時間通りにやってきて、権威の元で、日常の決まりの仕事を行うのです。人々が私たちのところで働きたいというとき、私たちは雲の上で流れて一日中『ハレルヤコーラス』を歌ってはいないことを私は彼らに言います—私たちは一生懸命働くのです。私たちは高潔の中を歩み行ふべきことを憂愁に行うのです。

もちろん、ミニストリーの中で働くことは特権です、しかし鳥肌ができるわくわく感が静まると、私たちから高いレベルの責任を期待されていることがわかるようになるということを新規志願者に伝えるようにするのです。

蟻のところに行きなさい！

なまけ者よ。蟻のところへ行き、そのやり方を見て、知恵を得よ。

蟻には首領もつかさも支配者もないが、

夏のうちに食物を確保し、刈り入れ時に食糧を集める。

なまけ者よ。いつまで寝ているのか。いつ目をさまして起きるのか。

しばらく眠り、しばらくまどろみ、しばらく手をこまねいて、また休む。

だから、あなたの乏しさは横着者のようにやって来る。

箴言 6 : 6-11

この怠慢な心の態度がイスラエルの民を 11 日間のできる旅を 40 年間荒野にとどまらせたことの一つでした。

私は、首領も支配者もない蟻に注目するようにと教えるこの箴言の御言葉を読むのが好きです。

誰かにいつも押されなければいけない人は決して何も素晴らしいことができません。誰か人が見ているときだけ正しいことをする人もあまり変わりません。私たちは外からではなく、内から動機づけられなければならないのです。神はすべてを見ていて、もし私たちが神がするようにと言われたことをやり続けるなら報いは神からくるということを知り、神の前で生きなければならないのです。

招待される者は多いが、選ばれる者は少ない

招待される者は多いが、選ばれる者は少ないのです。

マタイの福音書 22 : 14

この御言葉の意味は多くの者は召される、または主のために何かをする機会が与えられるけれど、その召しに応えるための責任を喜んで取る人がほとんどいないと聖書の教師から聞いたことがあります。

先の章で話したように、望みを持つ人はたくさんいますが、気骨を持っている人はほとんどいません。『荒野的心の態度』を持つ人は何でも欲しいのですが何もしたくないのです。

立っていきなさい！

さて、主のしもべモーセが死んで後、主はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに告げて仰せられた。

「わたしのしもべモーセは死んだ。今あなたとこのすべての民は立って、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地に行け。

あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたに与えている。

ヨシュア記 1 : 1-3

神がモーセは死んだのでヨシュアがモーセに代わって民を導いてヨルダン川を渡り約束の地に向かうようにとヨシュアに言われました、それはヨシュアにとってたくさんの新しい責任でした。

私たちが私たちの霊的遺産を公言するため前進するのに同じことが言えます。もし私たちが与えられた責任を真剣に取ろうとしないのであれば神の油注ぎの元で立ち上がりミニストリーをする特権は決してないでしょう。

見よ、今が絶好の時だ！

風を警戒している人は種を蒔かない。雲を見ている者は刈り入れをしない。

伝道者の書 11 : 4

1993年、神は私たちにテレビの働きに向かうことを望まれていることをデИБと私に示されました、神は『私はあなたたちにテレビでの働きのお機会を与えよう；しかしもしあなたたちがその機会を今取らなければ、その機会は二度と来ないであろう。』と言われました。もし神がその機会がある特定の時だけであるということを私たちに知らせられなかったなら、私たちはぐずぐず先に延ば

していたかもしれません。結局、私たちは居心地の良い立場にいたかったのです。

9年間、私たちはライフ・イン・ザ・ワードミニストリーを『生み出す』過程の中にいました。突然神がもっと多くの人々に働く機会を与えてくれました、それは私たち全員の願いだったのです。しかし、それをするためには、私たちの快適な立場を離れ新しい責任を取る必要があったのです。

主が彼の民に何かをすることを求められる時、『都合の良い時。』を待とうという誘惑があります。(使徒 24 : 25) 代価を払いたくないとか困難でなければと後ろに引き下がってしまう傾向があるのです。

責任を取るのを恐れない人であってください。抵抗に出会うことであなたは強さを築けるでしょう。もしあなたが簡単なことだけをするなら、あなたはいつも弱いままでしょう。

神は私たちに与えられたことすべてを私たちが責任を持って行うことを期待されています—それを行うことで良い実を生み出すことです。もし神が私たちに与えてくれた賜物や才能を使わないのであれば、私たちは神が私たちにゆだねられたことへの責任を果たしていないのです。

備えていなさい！

だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。
マタイの福音書 25 : 13

聖書の中でマタイ 25 章は主が戻られるのを待つ間私たちが何をするのかを教えてくださいます。

最初の 12 節は 5 人は愚かで、5 人は賢い 10 人の娘たちについての話です。愚かな娘たちは花婿が戻って来て彼に会うための備えを特別にするつもりはまったくありませんでした。彼女たちはどうにか行けるという状態でした；彼女たちは余分に行くつもりが全くなかったため、自分たちのランプに必要な油しか持っていませんでした。しかし、賢い娘たちは彼女たちがなるべくことを超

えていたので、長い時間の待ち時間にも備えて余分な油を持っていました。

花婿が来たとき、愚かな娘たちは自分たちのランプが消えていきそうだったので、もちろん、賢い娘たちから少し油をもらおうとしました。これが通常おこることです。怠慢でぐずぐず先に延ばす人たちはいつも一生懸命働きなすべき責任を持つ人たちにしてもらおうとあてにするのです。

あなたの与えられたものを使う

…悪いなまけ者のしもべだ…

マタイの福音書 25 : 26

マタイ 25 章はそれからイエスが主人からタラントを与えられた 3 人のしもべについて教えられたたとえ話があります。そして主人が遠い国へ出かけ、彼が留守の間しもべたちが与えられたタラントを上手く扱っていることを期待していたのです。

5 タラント与えられたしもべはそれを使ってさらに 5 タラント儲けました。2 タラント与えられて人も同じようでした。しかし 1 タラント与えられたしもべは恐れのためそれを地面に埋めてしまいました。彼は踏み出して何かをすることが怖かったのです。彼は責任を恐れたのです。

主人が戻ったとき、彼は彼が与えたタラントで働いた二人のしもべを褒めました。しかし与えられたタラントを埋めて何もしなかったしもべには『悪いなまけ者のしもべだ！』と言いました。主人は 1 タラントを彼から取返し 10 タラント持っている人に上げました、そしてそのなまけ者のしもべは厳しく罰せられました。

神があなたに与えられた能力を使うことによって神に応答してください、それによって主人が戻ったとき彼があなたに与えた物以上に返すことができます。

聖書は私たちが良い実を实らせるのが神の御心であるということをはっきりと教えています。(ヨハネ 15 : 16)

責任ではなく、思い煩いをゆだねなさい

ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

ペテロの手紙第一 5 : 6, 7

責任を恐れてはいけません。責任ではなく、あなたの思い煩いをゆだねることを学んでください。何も心配しない人がいます；『思い煩いをゆだねる』の熟練者になって、それが快適なので責任もゆだねてしまうのです。

あなたの前にあることに心を定めるようにするのは、ただそれが穴に挑戦的だからというだけで逃げてはいけません。

もし神が何であってもあなたにすることを与えられたなら、それには責任がありそれに伴う祝福があることをいつも覚えておいてください。もしあなたが家や車を持っているのであれば、神はあなたがそれらを大事にすることを期待されています。なまけものの悪魔があなたの思いや感情を攻撃するかもしれませんが、あなたにはキリストの思いがあるのです。悪魔の欺きやあなたの感情への圧迫に確かに気付いて何をすれば良いかがわかるでしょう。求めることは簡単です…責任を持つことで人格を育てるのです。

私が夫に湖の家を買おうと話し続けていた時のことを思い出します—私たちが休養や、お祈り、そして学ぶために行くことができる場所です。『すべての物から離れられる』場所です。それがどれだけ素晴らしいか、子どもたちや孫たちがどれだけ楽しめ、私たちのリーダー達がビジネスミーティングをしたり一緒にお祈りをするのに最適だと夫に言いました。

すべてに良さそうで、私の気分も良かったのですが、デイブは全て私たちがその世話をしないといけないと言い続けました。彼は私たちが既に忙しくて別の家のための責任の持つ時間はないと私に思い出させてくれました。彼は芝の世話、支払等についてさらに言いました。私たちは全てのものから離れる必要

のあるときはそのような家を借りるほうが良い、維持するための責任を取らなくても良いからと彼は言ったのです。

私は感情面の課題を見ていましたが、彼は実践的な面を見ていたのです。私たちが決断をするときはいつでも、両方の面を見るべきなのです—楽しみの部分だけではなく、要求される責任の両面です。湖の家はそれに時間を費やせる人には良いでしょう、しかし私たちにはまったくその時間がありませんでした。心の奥底で私はそれがわかっていたのですが、約一年間それを買うようにとデイクに話していたのです。

彼が堅実だったことをうれしく思います。もし彼がそうでなかったなら私たちはその場所を買っていたでしょう、しばらくの間それを維持したでしょうが仕事の多さのために結局は売ることになったと思うのです。結局のところ、私たちの友達が湖の家を買ったので私たちのスケジュールと彼らの許可によって私たちはその家を使えることになったのです。

もしあなたが知恵を使えば、神があなたの必要を満たしてくれることがわかるでしょう。キリストの思いの中で動けばだれでも感情ではなく、知恵の中を歩むのです。

責任ある態度で！

第 18 章

『どうかすべて簡単にしてください；

もしあまり難しすぎたら、私にはできないから！』

荒野的心の態度 # 3

『どうかすべて簡単にしてください；

もしあまり難しすぎたら私にはできないから！』

荒野の心の態度 #3

第 18 章

まことに、私が、きょう、あなたに命じるこの命令は、あなたにとってむずかしすぎるものではなく、遠くかけ離れたものでもない。

申命記 30 : 11

この悪い心の態度は先に話し合ったものとよく似ていますが、この章でも話し合う価値があると思います。

お祈りの列で最もよく出てくる言い訳の一つだと思います。頻繁に、私の元にお祈りとアドバイスを求めてくるので、私はそれに対して神の御言葉が何と言っているか、あるいは聖霊が何を言っているかと私が思うことを伝えます、彼らの応答は『その通りだと思う；神が同じことを示し続けているから。でもジョイス、それはあまりにも難しすぎるの。』なのです。

敵がこの言葉を人々の心に注入して彼らに諦めさせようとしているということを神が私に示されました。数年前に神がこの真実を私に現されたとき、私にすべてが困難だと言うのをやめるように教えてくれました、もし私が止めたら、もっと簡単に行えるようになることを確証されたのです。

たとえ私たちがやり通すと決断して何かをやったとしても、私たちは『それがどれだけ困難であるか』と言うことについて考えたり話し合ったりするのにたくさんの時間を費やしてしまうのです、それはその仕事に対して肯定的であればきたであろうことも否定的であったためにより困難になってしまうという事です。

私がどのように生き振舞えばよいかを神の言葉から見るようになり、実際の自分の状態と比べた時、いつも『私は神様あなたの方法で物事を行いたいけれど、それはとっても難しいです』とっていました。主は彼の命令は難しすぎず遠くかけ離れていないという申命記 30 : 11 を私に導かれました。

主の命令が私たちにあまり難しすぎない理由は、神が私たちのうちで力強く

働く神の霊を与えてくれていてその霊が私たちが助けてくれるからなのです。

助け主

わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

ヨハネの福音書 14 : 16

私たちが神の恵みに頼ることなく自力でやろうとすると物事は困難になります。もし人生のすべてが簡単なら、私たちには聖霊の力の助けも必要ではないでしょう。聖書は聖霊を『助け主』として述べています。聖霊は私たちのうちでいつも一緒におられ助けてくれます、私たちができないことを出来るようにしてくれるのです—そして、聖霊なしでは困難であっても聖霊とともにであればやりやすくなるのです。

簡単な方法と困難な方法

さて、パロがこの民を行かせたとき、神は、彼らを近道であるペリシテ人の国の道には導かれなかった。神はこう言われた。「民が戦いを見て、心が変わり、エジプトに引き返すといけない。」

出エジプト記 13 : 17

神が導かれるところどこであっても、神はあなたを守ってくれるのです。神は私たちが耐えられること以上のことは決して来させません。(コリント第一 10 : 13) 彼が命じることは何であっても、神が支払ってくれます。私たちが必要な強さを神に頼り求め続けるなら私たちはけい継続的な葛藤の中で生きる必要はありません。

神があなたに何かをするように求められたことがわかるなら、それが困難だという理由で放棄しないようにしてください。事態が困難になったときか、神ともっと時間を過ごし、神にもっと頼り神からもっと恵みを受けてください。(ヘブル 4 : 16)

恵みはあなたの元にやって来る神の力であなたは何も代価を支払うことなく、

あなたが自分自身でできないことを、あなたを通して行われるためのものです。『私にはこれは出来ない；難しすぎる。』とすることに気を付けてください。

時々神は簡単な方法の代わりに困難な方法で私たちを導かれます、神が私たちのうちである働きをされているからです。もし私たちの人生すべてが大変簡単で自分で何でもできるようであるなら、私たちは神に頼ることをどのように学ぶことができるでしょうか？

神はイスラエルの民を長く困難を持って導かれました、何故なら彼らは臆病だったからです、そして神は彼らが約束の地で直面するであろう戦いに備えるため彼らのうちにある働きをしなければならなかったのです。

大半の人が約束の地に入るということはこれ以上戦いはないと考えるでしょうが、それは正しくありません。イスラエルの民がヨルダン川を渡り約束された地を取りに出て行った後に起こったことを読んだのであれば、彼らが次から次へと戦ったことがわかるでしょう。しかし彼らは神の力と神の指示によってすべての戦いに勝ったのです。

実際には短く、簡単な道のりを神は長く、困難な道を通して彼らを導きました、何故なら神は彼らが土地を所有するために出くわす戦いに備えられていないことを知っていたからです。彼らが敵を見たらエジプトに戻るかもしれないことを神は懸念されたので、神が誰であり彼らが彼ら自身に頼ることは出来ないことを教えるためにより困難な方法を神は取られたのです。

人が困難に出会うと、その人の思いは止めることを求めます。サタンはもし彼が私たちの思いを打ち負かせることができるなら、私たちの体験をダメにできることを知っているのです。だから私たちは落胆したり、退屈したりしないことが重要なのです。

しかりつかまって！

善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取ることにあります。

失望するという心の中は諦めることになります。聖霊は私たちに諦めないようにと教えています、何故ならもし私たちがとどまるなら、最終的には刈り取ることになるからです。

イエスについて考えてみてください。聖霊のバプテストを受け霊に満たされた後直ぐに、彼は聖霊によって荒野に導かれ悪魔にテストを受けることになったのです。イエスは不平を言ったり失望や落胆をしませんでした。彼は否定的に考えたり話したりしませんでした。彼はなぜこんなことが起こったのかとそれを分析しようと混乱しませんでした！彼はそれぞれのテストを勝ち取ったのです。

彼の試練と誘惑の間、私たちの主はどれだけ近困難かと言うことを話して 40日間昼夜荒野をさまよったのではありません。彼は彼の天の父から力を受け勝利で荒野から出てきたのです。(ルカ 4 : 1-13)

イエスが彼の弟子たちとすべてがどれだけ困難かと話し合っ国々を旅したということを想像できるでしょうか？イエスが十字架に行くのがどれだけ難しいとか…彼の先にあることがどれだけ恐ろしいとか…彼らの日々の生活状態がどれだけイライラするかとか論じたということを描けるでしょうか：家に電話をする場所もない田舎をさまよったり、頭の上には屋根がないとか、夜寝る場所もないなどと言ってです。

私たちにキリストの思いがあります、そして私たちは物事をイエスが取り扱ったように扱えるのです：『諦める考え』ではなく—『勝ち取る考え』によって心を整えるのです。

苦しみのあとの成功

このように、キリストは肉体において苦しみを受けたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかわりを断ちました。

こうしてあなたがたは、地上に残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。

この御言葉は困難なことと時をどのように通り過ぎればよいかと言う秘訣を教えてくれています。この御言葉に対する私の解釈は以下の通りです：

『イエスが通り過ぎたことすべてについて考えてみてください、そして彼が肉による苦しみをどのように耐えたか、それはあなたが困難を通り抜けるための助けになるでしょう。戦いのために武装するのは；イエスが行ったことを考え勝つための心積りをするのです。「神をがっかりさせるより私は忍耐によって苦しむわ…」もし私が苦しむなら、キリストの思いを持っているのだから、簡単なことだけをしてすべての困難なことから逃げると言った、自分自身を喜ばせるためだけには生きるつもりはもはやありません。しかし私は私の感情や肉の思いによってではなく神が望まれることのために生きることができるのです。』

神の御心を行うために耐えないといけない『肉においての』苦しみがあります。

旅をしてのミニストリー生活は私の肉体にはいつも快適ではありません、しかしそれが神の私のための御心なので従うのです。それなので、私は正しい考えを持って自分を武装しなければならないのです；さもなければ、わたしは始める前に打ち負かされるでしょう。

あなたの人生で一緒にいるのが大変難しい人がいるかもしれませんが、しかし神はあなたにその関係を保つことを望んでおられるのがわかります。あなたの肉は苦しいでしょう、その人の周りにいるのは簡単ではないのですから、しかしその立場について正しく考える事によってあなた自身を整えることができます。

キリストの十分さのうちでの自信過剰

私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

正しい考えは私たちを戦いのために『武装』するのです。間違った考えで戦いに行くということは武器なしで戦いの前線に行くようなものです。もし私たちがそれをしたら、私たちは長くとどまれないでしょう。

イスラエルの民は泣き言を言う民だったのです、それが彼らを 11 日間でできる旅を 40 年さまよわせることになった理由の一つです。彼らは全ての困難について泣き言を言い、新たなチャレンジごとに不平不満を言ったのです—すべてがどれだけ困難かと言うことをいつも話していたのです。彼らの心の態度は、『どうかすべてを簡単にしてください；もし物事があまりに困難だったら私にはできません！』

クリスチャンの多くが日曜戦士、月曜弱虫であることが最近分かりました。彼らは二日曜日良い話をし—教会ですべての彼らの友達と—しかし、月曜日、『話したことで歩む』時になって、自分を見せつける人が周りに誰もいないので、彼らはわずかなテストで気落ちしてしまうのです。

もしあなたが泣き言言いであったり、不平不満家であるなら、**私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。**(ピリピ 4:13) と言う新しい心の態度を持ってください。

第 19 章

『私にはやめられない；つぶやき、あら捜し、
そして不平不満を言うことはやめられない。』

荒野的心の態度 #4

『私にはやめられない；つぶやき、あら捜し

そして不平不満を言うことはやめられない。』 第 19 章

荒野の心の態度 # 4

人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。

罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行っていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。

ペテロの手紙第一 2 : 19, 20

困難な期間に私たちの態度で神に栄光を帰することを学ぶまでは、私たちが解放されることはありません。苦しみをこうむることが神に栄光を帰するものではありません、苦しみの中で神を敬う態度が神を喜ばせ、そして神に栄光を帰するのです。

もし私たちが神が私たちに与えようとされることをこれらの御言葉から受け取りたいのであれば、私たちはこれらをゆっくり読んでそれぞれの単語を完全に消化する必要があります。イエスが私の苦しみと罰の痛みを負った（イザヤ 53 : 3-6）と聖書が述べているのに私が苦しみを受けるのをなぜ神がそれ程喜ばれるのかを理解しようとこれらの御言葉を学ぶのに長い時間がかかりました。

ペテロ第一章のこれらの御言葉の焦点は苦しみを受ける事ではなく苦しみを受けたものの態度であるということがわかるまで長い年月がかかりました。

この箇所で『こらえる』と言う言葉が使われています、それが言っているのはもし人から悪い扱いを受けても私たちがそれをこらえながら扱うなら、それが神を喜ばせるということなのです。神を喜ばせる事とは私たちの忍耐ある態度なのです—私たちの苦しみではありません。私たちの苦しみの中で励ますために、イエスが不公平な攻撃を受けた時彼がどのようにそれを取り扱ったかを見ることで励ましを受けるでしょう。

私たちの模範であるイエス

あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。

キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

ペテロの手紙第一 2 : 21-23

イエスは輝かしく苦しみを受けられました！ 静かに、不平を言うことなく、状態がどのようであっても神を信頼し、彼は全ての状況の中で同じままでした。彼はことが簡単な時は忍耐を持ってことが困難であったり不公平な時は忍耐を失って応答をすることはありませんでした。イエスが私たちの模範であり彼は私たちにどのように生きるのかを示すために来たということを上記の御言葉が教えています。私たちが人の前で自分自身どのようにふるまうかがその人たちにどのように生きるかを示すのです。私たちは自分の子どもたちに言葉でより例を使って教えます。私たちは全ての人が読むべき手紙であるべきなのです（コリント第二 3 : 2, 3）— 暗闇の世界で光が明るく輝くのです。（ピリピ 2 : 15）

謙遜、柔和そして寛容であることへの召し

さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。

謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍びあい、

エペソ人への手紙 4 : 1, 2

私の家族生活の中で少し前に謙遜、柔和そして寛容であるということについて素晴らしい例となることがありました。

私たちの息子のダニエルがドミニカ共和国への宣教旅行からちょうど戻った時のことでした。彼の腕にはひどい発疹がありあるものは傷口が開いていました。彼が教えられたのはドミニカのうるしだということでした。大変ひどい様子だったのでそれが何であるか確認する必要があると私たちは思いました。常時見てもらう医者がある日不在だったので別の医者に予約をしました。

私たちの娘、サンドラが電話で予約をし、ダニエルの年齢を告げ、彼女は彼

の姉で彼女が弟を連れて行くことを伝えました。サンドラを含む私たち皆がその日は大変忙しい日でした。車に 45 分乗って彼女が医者のおフィスに着くと、『残念ながら、私たちの規則で未成年は親の同伴がないと診察は出来ないので。』

サンドラは彼女が電話を掛けた時彼女が弟を連れて行くことになるということを明確に言ったということを説明しました—私たちの旅行のため彼女がよく弟を医者に連れて行ったのです。看護婦は頑なに彼の親と一緒にないといけないと立ちほだかりました。

サンドラは憤慨することも出来ました。彼女は既に用事がいっぱいのところにもこの用事を加えたのに彼女の努力は全て無駄になってしまうのです。彼女はまた 45 分車を運転して家に戻ることにになるので、すべてが時間の無駄使用のようになってしまいました。

神が彼女を冷静に愛の中にとどまられるようにしてくれました。彼女は母親を訪ねている父親に電話をかけました、彼がやってきてこの状況を解決することになりました。デイブはその朝私たちのオフィスに行って私の本とテープを持って行くように導かれているように感じたのですが、実際はそれらをどうするかわかりませんでした。彼はただそれらを取って行くことだけしかわからなかったのです。

彼が医者建物に着いたとき、患者の受付をしている女性がデイブに彼がミニストーリーに関わりジョイス・マイヤーと結婚しているのかどうかと尋ねました。彼はそうであることを伝えたと、彼女は私のテレビ番組を見ていたので私たちの名前をよく知っていてもしかしたら同じ人物かと思ったのです。デイブは彼女としばらくの間その女性と話し、彼女に感情の癒しについての私の本を上げました。

この話の私のポイントはこれです：もしサンドラががまんができなくなって癩癩を起していたらどうなっていたでしょうか？彼女の証はダメになっても、傷ついたりもしません。実際、私をテレビで見る女性を傷つけることになったかもしれません、そして私の家族が悪い振る舞いをしているのを見るのです。

世界中の人が神を捜しています、そして私たちが彼らに語るより私たち

が見せることのほうがもっと重要です。もちろん、福音を言葉で話すことは重要です、しかしそれを行いつつ私たちの行いが何も語らないこと以上に悪ければ口で語られたことを否定することになるのです。

サンドラはこの状況の中で苦しみを忍耐強く負いました、そして私たちはこのような態度と行いをするように召されていると神の御言葉は述べているのです。

ヨセフの忍耐強い苦しみ

主はひとりの人を彼らにさきがけて送られた。ヨセフが奴隷に売られたのだ。彼らは足かせで、ヨセフの足を悩まし、ヨセフは鉄のかせの中に入った。彼のことがそのとおりになる時まで、主のことは彼をためした。

詩篇 105 : 17-19

旧約聖書の例の一つで、兄弟たちに不公平に取り扱われたヨセフについて考えてください。彼の兄弟たちは彼を奴隷に売り、父親にはヨセフは野の獣に殺されたと告げました。一方、ヨセフはポティファと呼ばれる金持ちに買われ、彼は奴隷としてその人の家に連れていかれました。神はヨセフが行くどこでも好意を与えられたので、すぐに彼の新しい主人に気に入られました。

ヨセフは昇進し続けましたが、別の不公平が彼に起こりました。ポティファの妻が彼を誘惑しようとしたのです、しかし彼は高潔な男性だったので彼女に何もませんでした。彼女はヨセフが彼女に悪いことをしたと夫に嘘を言いました。それによって彼はしていないことのために牢獄にいれられたのです！

ヨセフは彼が牢獄にいた間、他の人を助けようとしていました。彼は決して文句を言わなかったのです、そして彼が苦しみの中で正しい態度をしていたので、神はついには彼を解放し昇進させました。彼はエジプトで大変高い権威を与えられパロの次の権威者になったのです。

神はまた彼の兄弟たちとの境遇にも報復されました、彼らは飢饉の状態だったので、ヨセフの元に食糧を求めてくることになったのです。そこでも、ヨセフは兄弟たちに値するべき厳しい態度ではなく神を敬う正しい態度を示したのです。彼らが彼を傷つけようとしたことを神は彼に良い事へと働かれたという

ことを彼は兄弟たちに告げました—彼らは彼ではなく、神の手の中にあって彼らを祝福しても傷つけることは正しくないということでした（創世記 39—50 参照）

不平不満を言うことの危険

私たちは、さらに、彼らの中のある人たちが主を試みたのにならって主を試みることはないようにしましょう。彼らは蛇に滅ぼされました。

また、彼らの中のある人たちがつぶやいたのにならってつぶやいてはいけません。彼らは滅ぼす者に滅ぼされました。

これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。

コリント人への手紙第一 10 : 9—11

これらの御言葉からヨセフとイスラエルの民の間の違いがすぐにわかります。彼はまったく文句を言わず、彼らがしたことは彼らの望むことでないと全て小さい事にも不平不満を言ったことです。聖書はつぶやいたり、あら捜しと不平不満を言うことの危険についてとても明確です。

メッセージは大変明瞭です。イスラエルの民の不平不満が彼らを破壊する敵を招くドアを開いたのです。彼らは神の素晴らしさを感謝するべきでした—彼らは感謝しなかったのです—だから彼らはその代価を払ったのです。

彼らの苦しみと死の出来事すべてが書かれたのはもし私たちが彼らと同じことをしたならどうなるかということを示すためだと言われています。

私たちはまず最初心の中で不平を持たない限り声に出して不平不満を言いません。不平不満は明らかに荒野的心の態度で私たちが約束の地に行こうとする私たちを妨げるのです。

イエスは私たちの模範です、私たちは彼がしたことをするべきなのです。

イスラエルの民は不平不満を言ったので荒野にとどまることになりました。

イエスは賛美をし死からよみがえりました。

この比較によって、賛美と感謝の力と不平不満の力がわかります。不平不満、つぶやきやあら捜しには力があります—しかしそれは否定的な力です。私たちがこのようなことに私たちの思いや言葉を向ける度に、私たちはサタンに私たちへの力を渡しているのです、それは神がサタンに許されてはいないことです。

ぶつぶつ言ったり、あら捜しをしたり文句を言わない

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。

それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中であって傷のない神の子どもとなり、

ピリピ人への手紙 2 : 14, 15

世の中全体が不平不満を言っているように思える時があります。ぶつぶつぶやくことが多く感謝をの思いを現すことはほとんどないかのようです。人々は仕事があるので家がなくてシェルターで住むことがなく、またスープを待つ列に並ばなくても良いという事実を感謝するべきところを彼らの仕事や上司に文句を言うのです。

そのような貧しい人たちは仕事が完璧でなくても、仕事を持てるということに感動するでしょう。彼らは定期的に収入があって自分の家に住んで自分たちの食事を作るため完璧な上司でなくてもがまんすることができます。

もしかしたらもっとお給料の良い仕事が必要なかもしれないし、上司が不公平な扱いをするのかもしれませんが。それは不運だと思います、しかしそこらで脱出するのに不平不満ではないかと思います。

イライラしたり心配しない—祈り感謝を捧げる！

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

ピリピ人への手紙 4 : 6

この箇所が使徒パウロはどのように私たちの問題を解決したらよいかを教え

ています。彼はすべての状況に感謝を持って祈るようにと教えています。

主はこの同じ原理をこのように私に教えてくれました：『ジョイス、あなたが既に持っている物を感謝していないのに、それ以外の物を与えるべきだろうか？あなたがさらに文句を言うための物を与えるべきだろうか？』

もし私たちが感謝で満ちての生活の土台からの祈りのリクエストを捧げることができないのであれば、好ましい応答を得ることはないでしょう。御言葉は不平を込めた祈りをするようにとは教えていません、感謝を持って捧げる祈りと言っています。

ある者あるいは何かが私たちの望むように起こらない時や何かを待たないといけない時に予想以上に長くかかるときつぶやき、あら捜しや不平不満が通常おこるのです。神の御言葉はこれらの時忍耐強くあるようにと教えています。

私は、忍耐とは待つことのできる能力ではなく待っている間良い態度でいられる能力であることを発見しました。

不平不満を言うことやすべてこれに関わるタイプの否定的な考えや会話のことを真剣にとらえることは大変重要なことです。神は私たちの考えや言葉にそのような機会を与える事がいかに危険かと言うことの啓示を私に与えてくれたと心から信じています。

神は申命記 1 : 6 でイスラエルの民に、…**あなたがたはこの山に長くどまっていた**。と言われました。もしかしたらあなたも同じ山の周りを何度もまわっていて今が前に進んでいくときかもしれません。もしそうなら、あなたの考えや会話が不平不満で満ちている限り肯定的に前進することはないということを覚えておくと良いでしょう。

文句を言わないということが簡単であるとは言っていません、しかし私たちにキリストの思いがあります。それによってやってみてはどうでしょうか？

第 20 章

『長く私を待たせないで；

私は全てをすぐに得るのに相応しいから。』

荒野的心の態度 # 5

『長く私を待たせないで；

私は全てをすぐに得るのに相応しいから。』 第 20 章

荒野的心の態度 #5

こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。

ヤコブの手紙 5 : 7

短気はプライドの実です。誇り高い人は何に対しても正しい態度で待つことができないようです。前の章で見たように、忍耐は待つことのできる能力ではなく、待っている間良い態度を続けられる能力のことでです。

この御言葉は『もし待っているなら忍耐強く、』とは言っていません、『待っているとき忍耐を持って。』と教えています。待つということは人生の一部です。『うまく待つ』ことを出来ない人がたくさんいます。しかも私たちの人生は受け取る時間より待っている時間がはるかに長いのです。

私が話していることはこれです：私たちは神に祈り、信じて何かを求めます、そして私たちはそれが現れるのを待ち続けます。それがやってきたとき、私たちは待ち続けた物をついに受け取ったので喜びます。

しかし、私たちはいつも何かに向かって進んでいないといけないと思うゴール志向の人間なので—何かを待ち望む—私たちは神に何か他の物を求め、信じるという過程に戻ります、そして次のブレイクスルー（打ち破り）まで待ち続けるのです。

この状況を考えてみてわかったことは私は受け取るより待つことにより多くの時間を使っているということです。それで私は受け取る時間だけではなく、待っている時間も楽しむことを学ぼうと決めたのです。

私たちは私たちが向かう所への途中の場所で楽しむことを学ぶ必要があるのです！

プライドが忍耐強く待つことを妨げる

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。

ローマ人への手紙 12 : 3

もしあなたがどのように忍耐強く待つかがわからなかったら待つことを楽しむことは不可能です。プライドが忍耐強く待つことを妨げるのです、なぜならプライドの高い人は自分のことを高く評価するので自分が何事にも決して不便なことは決してあるはずがないと信じているからです。

私たちは自分を悪く評価するべきではありませんが、あまりにも高く評価するべきでもないのです。自分自身をそのように高い場所に持ち上げるのは他の人を見下げることになるので危険なのです。もし他の人が私たちが望むように物事を行わないとか、私たちが考えるように素早く出来ないということがあれば、私たちは忍耐のない振る舞いをしてしまうからです。

謙虚な人は忍耐のない態度を見せることがないのです。

現実的に！

…あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。

ヨハネの福音書 16 : 33

私たちが忍耐のない振る舞いにサタンが使う他の方法は現実的ではなく理想的な考えによるものです。

私たちの状況や関係など全てのことで私たちの頭に浮かぶアイデアはいつも完璧であるなら一何の不都合もなく、何の妨げもなく、愛しくい人に関わることもない—そうして私たちは自分自身をあやまちに陥ってしまうのです。あるいは、実際にサタンは間違った考えで私たちがあやまちに陥らせさせようとするのです。

私たちが否定的であるようにと提案しているのではありません；私は肯定的な態度と考えによって堅く立つクリスチャンです。しかし実際の生活の中で完璧なことはほとんどないということを知っているべきだと言っているのです。

私は夫と異なった町にほとんど毎週末セミナーをするために旅をします。私たちはホテルの舞踏室や町の会議場をよく借ります。初めのころ、これらの場所の何かの具合がいつも悪いので私は短期になりイライラしました—空調設備が正しく働かない（全く動かないとか）、会議室の照明が十分ではないとか、椅子が汚れていたり破れていたり内部の物がはみ出していたり、あるいは前夜の結婚式の披露宴のケーキが残っていたり床に落ちていたりすることがあったのです。

私たちがこれらの部屋を使うのに正当なお金を払っているのに見合った良い態度を貸した側に期待したのですが、それが見られないので私はイライラしました。私たちは借りた場所がきれいで快適であることを確実にしようとする限りのことをしますが、それでも私たちの期待の役 75%が満たされているというのが現状なのです。

私たちの旅行して来るチームのために早い時間のチェックインを約束したことがありました；しかし私たちが到着したら数時間待たないと部屋は空かないと告げられたのです。ホテルのスタッフは私たちのミーティングの時間に関して間違った情報を伝えることがよくあります、私たちが彼らに何度も繰り返して伝え、印刷物を送り、期日を正式に書いたものを示してもです。ホテルと舞踏室のスタッフは不作法であつたり怠慢なことがよくあります。セミナーの昼食会ようにオーダーした食事も良くないことが多いのです。

私たちのクリスチャンの婦人たち（約 800 人程）に出されたデザートにラム酒が加えられていたことを特に思い出します。キッチンが結婚式の披露宴に出す料理と混乱をしていたのです。言うまでもなく、婦人たちがデザートにお酒の味がするようだと言いはじめて少し恥ずかしい思いをしました。

もっと話すことがあります、ポイントはこれです：時々、しかしほとんどまれにしか、完璧な場所で完璧な人により完璧なセミナーを行うことはないのです。

これらの状況で私の忍耐がなくなり悪い振る舞いをするようになるのは私が

現実的ではなく理想的であることが理由であることがついにわかったのです。

私は失敗しようと計画することはありません、しかしイエスがこの世の中で私たちは患難や試練そして失望やイライラすることに向き合わなければならないと言ったことを思い出します。これらのことも私たちの人生の一部です。クリスチャンにとってもクリスチャンでない人にもです。しかしもし私たちが神の愛にとどまり、御霊の実を現すなら、世の中で起こる災難が私たちを傷つけることは出来ないのです。

忍耐：耐えるための力

それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

コロサイ人への手紙 3 : 12

すべての状況で私がどのようにふるまうべきかを自分に思い出させるためにこの御言葉によく目を向けます。忍耐は待つことのできる能力ではなく、待つ間良い態度を保つ能力であることを自分に思い出させるのです。

忍耐は試練によって引き出される

私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つかけたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

ヤコブの手紙 1 : 2-4

忍耐は御霊の実の一つ（ガラテヤ 5 : 22）です、そしてすべての生まれ変わったクリスチャンの霊に与えられています。神の民によって忍耐が表されることは主にとって大変重要なことです。神は神の子どもたちを通して神の人格を他の人々が見ることを望んでいるのです。

ヤコブ 1 章は私たちが完全になるとき、私たちには何も欠けた物はないと教えています。悪魔は忍耐強い人をコントロールすることができません。

ヤコブ 1 章は私たちが困難な状況の中にいるとき喜ぶべきであるということも教えています、『さまざまな試練』によって私たちのうちにある忍耐を引き出すために神が使われる方法なのです。

私の人生の中の『さまざまな試練』が私のうちにある忍耐を最終的に引き出したのですが、最初それ以外のたくさんの良くない性質をも引き出しました：プライド、怒り、反抗、自己憐憫、不平不満などです。これらの他の物に直面し取り扱われなければ忍耐は現れることはないようです。

試練それとも不都合？

彼らはホル山から、エドムの地を迂回して、葦の海の道に旅立った。しかし民は、途中でがまんができなくなり、

民数記 21 : 4

思い出してください、イスラエルの民を荒野を 40 年間彷徨わせることになったのは荒野的心の態度の一つである我慢の足りなさだったということ。

彼らがが少しの不便の中でがまんし確固とすることができなかったのに、このような人々がどのように約束の地に進んでいきその地の所有者を追い出すことができたでしょうか？

聖霊と一緒にあなたのうちにある忍耐の実を育てるよう努力するよう心から励ましたいと思います。聖霊を拒絶すればするほど、その過程はさらに長くかかるでしょう。すべての試練の中で忍耐を持って応答することを学んでください、そうすれば単に我慢しているというだけではなく心から充実した人生を生きていることがわかるでしょう。

寛容と忍耐の重要さ

あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。

へブル人への手紙 10 : 36

寛容で忍耐なしに私たちは神の約束を受け取ることはない地この御言葉は教えています。そしてヘブル 6 : 12 は信仰と忍耐によって私たちは約束を相続すると教えています。

プライドの高い人は自分自身の強さに頼り、自分自身の時に物事が起こるようになります。プライドが『私は今できるんだ!』と言うのです。

謙遜は『神が最善を知っている、そして神は決して遅いことはない!』と言います。

謙虚な人は忍耐強く待ちます; その人には自分自身の肉の強さによって動くことに対し、『神への畏敬』があるのです。しかしプライドの高い人は何のいかもなく、次から次へと試みるのです。

まっすぐな道がいつもゴールへの最短距離とは限らない

人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。

箴言 16 : 25

霊的領域では私たちがいる場所と望む場所との間はまっすぐな道が最短距離でないことがあるということを学ばなければなりません。最短距離が破壊に至らせるかもしれないのです!

私たちは忍耐強く主を待つことを学ばなければならないのです、たとえ神が私たちの望む目的地に遠回りをして連れて行っているようであってもです。

世界中に目的を果たせず不幸な思いのたくさんのクリスチャンがいます、それは彼らが神の方法、神の時にもたらされることを忍耐強く待つ代わりに、自分たちでことを起こそうとするからです。

あなたが神を待とうとするとき、悪魔はあなたに『何かするように』という思いを心に絶えず打ち続けてくるのです。彼は肉の熱心さであなたを動かそうとします、悪魔は肉からは何の益ももたらさないことを知っているからです (ヨハネ 6 : 63 ; ローマ 13 : 14)。

今まで学んできたとおり、短気はプライドのしるしの一部であり、プライドに対する唯一の答えは謙虚なのです。

へりくだって主を待つ

ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

ペテロの手紙第一 5：6

へりくだるという所をアンプリファイ訳聖書は『自分自身の判断で自分を低くする』と訳されていますが、それは自分自身を悪く考えるという意味ではありません。それは単に、『自分の問題すべてを自分自身で解決できると考えないように』と言うことを意味しています。

プライド高く自分で問題を取り扱おうとする代わりに、私たちは神の力強い御手の下にへりくだることを学ばなければいけません。神は正しい時を知っているのでその時、私たちを高く掲げてくれます。

私たちが神を待ち肉の欲で動くことを拒絶するとき、『自己に死ぬ』と言うことが起こります。私たちは自分の方法や自分の思う時に死に始めると、神の私たちへの御心や方法で生きようになるのです。

私たちはいつも神が私たちにするようにと告げる事は何でもすぐに従うべきです、また肉のプライドへの神への恐れも持たなければなりません。覚えておいてください：短気のはプライドです。プライドの高い人は『私を何に対しても待たせないで；私は全て直ちに得るのに値する者だから。』と言うのです。

あなたがたイライラしたり短気になりそうなとき、『主よ、私はあなたの時にあなたの御心の中にいたいのです。私はあなたの先を行きたくないし、あなたの後ろにもいたいとは思いません。お父さん、あなたを忍耐強く待てるように、助けてください。』と言うことをお勧めします。

第 21 章

『私の振る舞いは悪いかもしれないけれど、
それはわたしのせいではありません。』

荒野的心の態度#6

『私の振る舞いはわるいかもしれないけれど、
それは私のせいではありません。』

第 21 章

荒野の心の態度 #6

人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取ってくれたので、私は食べたのです。」

そこで、神である主は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。」女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」

創世記 3 : 12, 13

自分の行いに対する責任を取ろうとしない、すべてが悪いと非難したり他の人のせいにするのは荒野生活の主な原因です。

問題が初めから現れているのがわかります。エデンの園で彼らが罪に面したとき、アダムとエバはお互いに非難し合いました、彼ら自身の行いに対する責任から逃げているのです。

それは全てあなたのせいです！

アブラムの妻サライは、彼に子どもを産まなかった。彼女にはエジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルといった。

サライはアブラムに言った。「ご存じのように、主は私が子どもを産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。たぶん彼女によって、私は子どもの母になれるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。

アブラムの妻サライは、アブラムがカナン土地に住んでから十年後に、彼女の女奴隷のエジプト人ハガルを連れて来て、夫アブラムに妻として与えた。

彼はハガルのところに入った。そして彼女はみごもった。彼女は自分がみごもったのを知って、自分の女主人を見下げるようになった。

そこでサライはアブラムに言った。「私に対するこの横柄さは、あなたのせいです。私自身が私の女奴隷をあなたのふところに与えたのですが、彼女は自分がみごもっているのを見て、私を見下げるようになりました。主が、私とあなたの間をおさばきになりますように。」

アブラムはサライに言った。「ご覧。あなたの女奴隷は、あなたの手の中にある。彼女をあなたの好きなようにしなさい。」それで、サライが彼女をいじめたので、彼女はサ

ライのもとから逃げ去った。

創世記 16 : 1-6

アダムとエバの間で見られた同じシナリオがこのアブラムとサライの間の論争にも見ることができます。彼らに子どもが産まれるという神の約束の成就のために神を待つことに疲れたのです、それで彼らは肉に従い、『彼ら自身の思い』を行ったのです。それが悪くなり問題の元となったので、彼らはお互いを責めるようになったのです。

過去に、デイブと私の中でこれと同じ場面を数えきれない位見ました。私たちは人生の本当の問題をいつも避けているかのようで、現実には決して向かおうとは決してしなかったのです。

私はデイブが変わるようにと祈っていた時のことを絵に描いたかのように思い出します。私は聖書を読んでいて彼の欠点が一層見えてきて、どれだけ彼が変わる必要があるかと思ったのです！私が祈っていた時、主が私に『ジョイス、デイブは問題ではありません…あなたなのです。』と言われたのです。

私は打ちのめされました。そして泣き続けました。私は三日間泣きました、神が私と同じ家で一緒に暮らすことがどんな風であるかを見せられたからです。神は私がどれだけすべてのことをコントロールしようとしているか、どれだけうるさく小言を言ったり文句を言っているか、私を喜ばせることがどれだけ難しいか、私がどれだけ否定的か—等です。それは驚きのあまり私のプライドを吹き飛ばしました、しかしそれは私が主において回復のはじまりでもあったのです。

大抵の人たちのように、私は誰か他の人のせいだとか私にはどうにもできない環境のせいだとすべてを非難していました。私が虐待されてきたので悪い行いをしてきたと考えたのですが、神は『虐待があなたにこのような行いをさせる理由かもしれないけれど、この状態のままにいる言い訳にははいけません！』と言われました。

サタンは私たちの思いに対して懸命に働きかけてきます—私たちが真実に直面させないように要塞を築くためです。真理が私たちを自由にするということをサタンは知っているからです！

自分自身についてまた自分の振る舞いについての真実に直面することは感情的に痛々しいことはないと思います。本当に痛々しい事なので、大半の人がそこから逃げだしてしまいます。他の人についての真実に面することはそれ程難しい事ではありません—しかし、それが自分自身のこととなれば、大変難しい事であることがわかるのです。

もし…

民は神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたは私たちをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこのみじめな食物にも飽き飽きました。」

民数記 21 : 5

すべてイスラエルの民の問題は神とモーセのせいであると文句を言ったことが思い出されると思います。彼らがなぜ荒野にこれほど長い間いることになったかという自分たちの責任を上手く避けたのです。これが彼らをそこに 40 年間でとどらせた主な荒野の心の態度の一つであったことを神は私に教えてくれました。

私が自分の人生の中の同じ山を何年もの間何度もまわり続けた主な理由の一つでもあったのです。私の振る舞いがなぜ悪いかということの言い訳のリストは終わることがありませんでした：

『もし私が子どもの時に虐待されなかったら、癩癩持ちではならなかった。』

『もし私の子どもたちがもっと私を手伝ってくれたら、もっと良い行いをしたのに。』

『もしデイブが土曜日にゴルフをしなかったら、彼のことでそれ程憤慨することはないのに。』

『もしデイブが私にもっとお話をしてくれたら、私はこんなに孤独ではないのに。』

『もしデイブが私にもっとプレゼントをしてくれたら、私はそれ程否定的で

はないのに。』

『もし私が働かなくても良かったら、これほど疲れる事がなくて気難しくはないのに。』（そこで私は仕事を辞めました、それで…）

『もしもっと出かけることがあれば、こんなに退屈はしないのに！』

『もし私たちにもっとお金があれば…』

『もし私たちの家を持つことができたなら…』（そこで私たちは家を買ったのですが、それが…）

『もしこんなにたくさん請求書がなかったら…』

『もし私たちの隣人がもっといい人たちであれば、もしくは違う友達がいれば…』

もし！もし！もし！もし！もし！もし！もし！もし！もし！もし！

しかし…

主はモーセに告げて仰せられた。

「人々を遣わして、わたしがイスラエル人に与えようとしているカナンを探らせよ。父祖の部族ごとにひとりずつ、みな、その族長を遣わさなければならない。」

モーセは主の命によって、パランの荒野から彼らを遣わした。彼らはみな、イスラエル人のかしらであった。

四十日がたって、彼らはその地の偵察から帰って来た。

そして、ただちにパランの荒野のカデシュにいるモーセとアロンおよびイスラエルの全会衆のところに行き、ふたりと全会衆に報告をして、彼らにその地のくだものを見せた。彼らはモーセに告げて言った。「私たちは、あなたがお遣わしになった地に行きました。そこはまことに乳と蜜が流れています。そしてこれがそのくだものです。

しかし、その地に住む民は力強く、その町々は城壁を持ち、非常に大きく、そのうえ、私たちはそこでアナクの子孫を見ました。

民数記 13 : 1-3, 25-28

『もし』と『しかし』はサタンが私たちの思いの中に植え付けるもっとも人

を欺く言葉の二つです。約束の地に 12 人の偵察隊が送られ 2 人の人が竿にかけて運ばないといけないほどの大きな葡萄の房を持って帰って来ました、しかし彼らがモーセに伝えた報告は否定的な物でした。

『しかし』が彼らを打ち負かしたのです！彼らの目を起こるかもしれないという問題にはなく神に向け続けるべきだったのです。

私たちが問題に打ち負かされる理由の一つは神より問題のほうが大きいと私たちが考えてしまうからなのです。それが私たちを真実に直面するのを困難にしている理由でもあるのです。私たちは神が私たちを変えられるかが確かではありません、それで実際の自分を見つめるより自分自身から隠れてしまうのです。

神が私を取り扱われるとき、今は自分自身を見つめるのは困難ではありません、彼が私を変えようとされているのがわかるからです。神ができるということ私には既に見てきたし、神を信頼していますから。しかし、神との歩みの初めの頃は困難でした。次から次へと隠れることが大半だったからです。私は暗闇の中で大変長く生きてきたので、光の元に出てくるのは簡単ではなかったのです。

心のうちの真実

神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください。

どうか、私の咎を、私から全く洗い去り、私の罪から、私をきよめてください。

まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。私の罪は、いつも私の目の前にあります。

私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告されるとき、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。

ああ、私はとがある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。

ああ、あなたは心のうちの真実を喜ばれます。それゆえ、私の心の奥に知恵を教えてください。

詩篇 51 篇では、ダビデ王が神に赦しと憐みを求めて泣き叫んでいました、バテ・シェバの夫を彼らが殺したことを主が取り扱われたためにです。

信じられないかもしれませんが、ダビデの罪が起こったのはこの詩篇を書く丸一年前だったのです、しかし彼はそのことに向かって考える事も、認識することも決してありませんでした。彼は真実に向かっていなかったし、真実を拒絶し続けていた限り、心から悔い改めることができなかつたのです。そして彼が心から悔い改めなかつたので、神は彼を赦すことができなかつたのです。

この御言葉の 6 節は力強い御言葉です。神は『心のうちの』真実を喜ばれると言っています。それはもし私たちが神の祝福を求めるのであれば、私たち自身と私たちの罪について神に対し正直でなければならないという意味なのです。

告白が赦しに先行する

もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。

もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。

ヨハネの手紙第一 1 : 8-10

神は私たちが心から悔い改めたらすぐに赦してください、しかしもし私たちがしたことについて面と向かい真実を認識しなければ悔い改めることは出来ません。

私たちが何か悪いことをしたと認めても、そのことで言い訳をするなら、神の方法で真実に面と向かっているとはいえませんが、普通私たちは自分のことや自分の行いを正当化したいのですが、聖書で私たちの義はイエス・キリストによってのみ認められると教えています（ローマ 3 : 20-24）。私たちが罪を犯した後神と正しくあるのはイエスの血によってだけなのです—私たちの言い訳ではおこりません。

ある日ある近所の人が銀行が閉まらない今直ぐに銀行に連れて行ってもらえ

ないかと私に電話をかけてきたときのことを思い出します、彼女の車のエンジンがかからなかったからでした。私は『自分のこと』をするのに忙しく、またそれを途中で止めたくなかったのも、彼女に失礼な態度で接してしまいました。電話を切ったとたん、私の態度は大変ひどかったということに気づき、彼女に謝罪と彼女を銀行に連れて行くための電話を掛ける必要を感じました。どうして私の態度が大変悪かったということへのあらゆる種類の言い訳で私の頭の中はいっぱいでした：『気分が良くなかったので…』『…をするのに忙しかったので』『問題がいっぱいあったので…』

しかし私の霊の深い所で、聖霊が何も言い訳をしないようにと語っているのがわかったのです！

『ただ彼女に電話をかけあなたが悪かったとだけ言いなさい、以上！「私は間違っていました、そして私の振る舞いには何の言い訳もありません。どうかわたしを赦してください、そして銀行へあなたを連れて行かせてもらえるでしょうか。」とだけ言いなさい。』

それがどれだけ大変なことだったか。私の肉はかっかしていました！こんな小さなことが私の魂の周りで隠れ場所を捜して走り回っていたのがわかりました。しかし真実から隠れることはできません、真実は光だからです。

真理は光

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。

ヨハネの福音書 1：1-5

これが暗闇の王国に対してもっと力強い武器の一つなのです。真理はひかりです、そして聖書は暗闇が光に決して打ち勝ったことはないし、これからも決してないと教えています。

サタンは暗闇で隠し事をしたいのですが、聖霊はそれらを光の中に導き、取扱いたいのです、それで私たちは真に純粋に自由になれるのです。

イエスは真理が私たちを自由にすると仰いました（ヨハネ 8 : 32）。その真理は真理の御霊によって現されるのです。

真理の御霊

わたしには、あなたがたに話すことがたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。

しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

ヨハネの福音書 16 : 12, 13

イエスは弟子たちにすべての真理を見せることが出来たかもしれないのですが、彼らはそれに対してまだ備えられていないことを彼は知っていました。彼は聖霊が天からやってきて彼らにとどまり彼らのうちに住まうまで彼らは待たなければならないと彼らに言いました。

イエスが天に上った後、彼は私たちと一緒に働く聖霊を送りました、神の栄光がさまざまな度合いで私たちを通して現れるように、私たちを整えるためです。

私たちが真実に面と向き合わないのに聖霊が私たちのうちでどのように働くことが出来るのでしょうか？彼は『真理の御霊』と呼ばれているのです。彼の私たちへの主な働きは私たちが真理に面と向かえるよう助ける事です—私たちが真理の場所に導くことです、何故なら真理だけが私たちが自由に出来るからです。

あなたの過去の何か—あなたを傷つけた人か、出来事か、状況—があなたの悪い態度や振る舞いの元かもしれません、しかしそれを言い訳にしてそのままであることはないのです。

私の振る舞いの問題の多くは明らかに長い間の性的にまたことばや感情の虐待が原因でした—しかし私が虐待を言い訳として使っている限り悪い振る舞い

のパターンの罫にはまっていたのです。これは『私はこれが好きではないけれど、それを持ち続け理由なの。』と言ってあなたの敵を弁護しているかのようなのです。

あなたは全ての束縛から輝かしい自由を確実に体験することができます。あなたは荒野で40年間さまよって過ごす必要はありません。あるいは『荒野の心の態度』があなたをそのようにさせたということがわからなかったために40年間かそれ以上を既に過ごしてしまったのであるなら、今日があなたの決断の日です。

あなた自身につい手の真理を神に示してもらおうよう求めてください。神がそれをされるとき、頑張ってください！簡単なことではないでしょう、しかし神が約束されたことを覚えておいてください、『私は決してあなたを離れないし、見放さない。』（ヘブル 13：5）

あなたは荒野から出る途中なのです；約束の地を楽しんでください！

第 22 章

『私の人生は大変みじめだから；私の人生が
こんなにひどいので自分があわれです！』

荒野的心の態度 #7

『私の人生は大変みじめだから；私の人生が

こんなにひどいので自分があわれです！

第 22 章

荒野の心の態度 #7

全会衆は大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。

イスラエル人はみな、モーセとアロンにつぶやき、全会衆は彼らに言った。「私たちはエジプトの地で死んでいたらよかったのに。できれば、この荒野で死んだほうがましだ。

民数記 14：1，2

イスラエルの民は自分たちのことを非常にあわれに思いました。すべての不都合が自己憐憫となる新しい言い訳になったのです。

主が私の『あわれみパーティー』の最中に語られたことを思い出します。『ジョイス、あわれと嘆いているか力強くいるかのどちらかにしなさい、両方であることはありえないから。』

この章は素早くざっと読み通さないでください。私たちが自己憐憫の悪魔をもてなしながら、神の力の中を歩くことは出来ないということを理解することが大変重要だからです！

互いに励まし高め合いなさい

ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

テサロニケ人への手紙第一 5：11

あわれに思うことを諦めるのは私には大変つらい事でした；私が傷ついたとき自分を慰めるのに長い間使って来たからです。

誰かが私たちを傷つけた瞬間、私たちは失望した瞬間、悪魔は私たちがどれだけ悲惨にまた不公平に扱われたかと言う嘘をささやくのです。

そのような時にあなたがすべきことはあなたの心にささやきかける思いに

耳を傾けることです、すると敵が自己憐憫を使ってあなたを束縛の中に留めようとしているかをすぐに気付くことでしょう。

聖書は、しかし、自分自身をあわれに思っよとい勝手は私たちには与えていません。その代わり、私たちは主にあってお互いに励まし高め合うべきなのです。

真のあわれの賜物があります、傷ついている人に対して神からの憐みを持つて、私たちの人生を使って彼らの苦しみを和らげようとするものです。しかし、自己憐憫はゆがんでいます、なぜならそれは神が他の人のために与えられるものであって、それを自分自身に向けてしまうからです。

神が与えようとする愛を私たちが奪い自分たちのほうにむけると、それは利己的で自己中心になってしまいます、それが実際私たちを破壊するのです。自己憐憫は偶像礼拝です—自分自身だけを見て、自分と自分の感情に集中するからです。それは私たちのこと、私たちの必要と関心だけに目を向けさせるのです—そしてそれは間違いなく視野の狭い生き方なのです。

他の人のことを顧みる

自分のことだけでなく、他の人のことも顧みなさい。

ピリピ人への手紙 2 : 4

最近私たちが約束していたミーティングが前触れなキャンセルされました。私が心待ちにしていたミーティングの一つだったので、最初私は少しがっかりしました。こんな出来事が起こったとき以前の私なら自己憐憫、批判とか相手側の非難等あらゆる否定的な考えや行動に陥っていました。このような状況から私が学んだことはただ静かにすることです；何か悪いことを言うより黙っているほうが良いのです。

私が黙って座っていると、神が相手側の人の見地からの状況を私に示し始められました。ミーティングをするための場所が見つかっていなかったのです、そして神はそれがそれにかかわっている人たちをどれだけがっかりさせたかを見せられました。彼らはミーティングに偉大な期待をしていたのですが、今や開くことが出来なくなったのです。

もし私たちが自分の立場からだけでなく、他の人の立場から物事を見るなら、自己憐憫に陥らなくても良いということが簡単であることに驚きました。自己憐憫は他の人ではなく自分のことだけを考える事から起こるのです。

私たちは文字通り同情を得るということに疲れることがあります、自己憐憫は大きな罠でサタンが私たちが荒野にとどませるために好んで使う道具の一つなのです。もし私たちがよく注意していないと、それが癖になってしまうのです。

中毒とは刺激をもたらす何かに自然に応答してしまう物で—ある行いが癖になったことです。

あなたは自己憐憫にどれだけ時間を過ごしますか？失望したことにどのように応答しますか？

クリスチャンには失望したときのまれな特権があります—その人は復職することができるのです。神となら、いつも新しい始まりがあります。自己憐憫は、しかし、私たちを過去の状態にとどめておくのです。

過ぎたことは思わず神に任せる！

先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。

見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。

イザヤ書 43 : 18, 19

私は本当に長い年月を自分があわれだという思いで無駄使いしました。私は先に見たような中毒状態になっていたのです。私が失望したときにする自動的応答は自己憐憫だったのです。サタンは直ちに悪い思いで私の思いを満たすので、私は自分が考える事をどのように考えれば良いかわからなかったのです。私は何でも自分の頭に訪れる事を考えるだけだったのです。考えれば考えるほど、私はあわれに感じたのです。

私は自分の結婚初期のことについての話をよくします。フットボールシーズ

ンの日曜の午後は毎週、デイクはフットボールの試合をテレビで見たいと思っていました。もしそれがフットボールのシーズンでない時であれば、それ以外の『球技のシーズン』でした。デイクは全てを楽しみましたが、私にはどれも楽しくなかったのです。彼はボールの弾む物は何でも好きで、何かスポーツに虜になってしまい私の存在すらを忘れてしまうほどでした。

ある時彼の目の前に立って大変はっきりと、『デイク、私は気分が良くないの；死んでしまうような気分がするの。』と言いました。

彼は目をテレビの画面から上げることもなく、『そうかい、それはいいねえ』と言ったのでした。

私は長い間日曜の午後に怒りと自己憐憫で過ごしました。デイクに腹が立ったときはいつも家の掃除をしました。私がこれほどみじめであるのに彼が楽しんでいるということで彼に罪悪感を感じさせようとしていたということが今は良くわかるのです。家中に嵐が起こったようで、ドアや引き出しをピシャリとならし、彼がいる部屋を手に掃除機を持って行ったり来たりし、どれだけ一生懸命働いているかを見せようと大きな音を立てたりしたのです。

私は、要するに、彼の注目を集めようとしていたのですが、彼は私にはほとんど気づいていませんでした。私は諦めて、家の後ろに行き洗面所の床に座り泣いたこともありました。泣けば泣くほど、自分があわれに思えたのです。後年になって、神がなぜ女性は洗面所に行って泣くのかということの啓示を与えてくれました。洗面所には大きな鏡があって、女性が長い間泣いた後、立ち上がって鏡で自分を見ると本当にあわれに見えるからだと言いました。

私は自分の姿を鏡で見てそれがあまりにひどいのでまた泣き始めたことがあります。最後には、私のあわれきを見せるためデイクのいる部屋にゆっくりと入って行きました。彼は私が台所に行くのなら、アイステイヤーを持ってきてもらえるかと頼める時間だけ私のほうに目を向けるのでした。

結果は、役に立たなかったということです！私は感情的に疲れ果てました一終日良くない感情の状態でしたので結局体まで病んでしまうことになってしまふことがよくあったのです。

神はあなたの手ではなく、神自身の手であなたを解放されます。神だけが人

を変えることが出来るのです！他にもない全能の神だけがダイブのスポーツを見たいという思いを変えることが出来るのです。私が自分の思うように出来ないと自己憐憫の中で転げまわるのを止め主に信頼することを学んだとき、ダイブはのスポーツ観戦はバランスの良い物になったのです。

彼は今もスポーツ観戦を楽しんでいます、そしてそれは今や私には何の気にもならないのです。私はその時間を私の楽しみに使っています。もし私が何か他の事をしたいとか必要なら、ダイブに優しく（怒ってではなく）お願いします、大抵彼は喜んで彼のプランを変えてくれるのです。私のやりたいように出来ない時—そういうときはいつもあります。私の感情が湧きあがってきたらすぐに、『神様、このテストにパスできるよう助けてください。これ以上この山の周りをまわりたくありません！』と祈るのです。

第 23 章

『私は価値のない人間だから

神の祝福には値しない。』

荒野的心の態度 # 8

『私は価値のない人間だから

神の祝福には値しない。』

第 23 章

荒野の心の態度 #8

すると、主はヨシュアに仰せられた。「きょう、わたしはエジプトのそしりを、あなたがたから取り除いた。」それで、その所の名は、ギルガルと呼ばれた。今日もそうである。

ヨシュア記 5 : 9

ヨシュアがイスラエルの民をヨルダン川を越えて約束の地に導いた後、神は彼らが最初に征服し占拠する町ジェリコのために、準備が必要だったのです。

主は全てのイスラエルの男性に割礼を受けるよう命令をしました、彼らが荒野をさまよっていた 40 年の間全く行われていなかったからです。これが行われた後、主がご自身の民からエジプトのそしりを『取り除いた』とヨシュアに告げたのです。

6 章では、神がどのようにイスラエルの民にジェリコを占拠させられたかが教えられています。なぜ最初に彼らからそしりが取り除かれなければならなかったのでしょうか？そしりとは何なののでしょうか？

そしりの定義

そしりと言う言葉の意味は『非難、とがめ、不名誉、不面目、恥辱』などです。神がイスラエルからエジプトのそしりを『取り除く』と言われたとき、神はあるポイントを示されたのです。エジプトはこの世を現しています。何年間かこの世の中にいて世的になった後、私たちは皆そのそしりを取り除く必要があるのです。

何故なら私が行ったことや私にされたことによって、私は恥を元にした性質を持ってしまうことになったからです。私は自分に起こったことで自分を非難しました（たとえそれらの大半が私の子どもの時に起こったことであっても、

そして私がそれを留めることが出来なかったとしてもです)。

恵みとは私たちにやって来る神の力で、それは神からの贈り物で、私たち自身では出来ないことを簡単にできるように私たちを助けてくれるものです。神は私たちに恵みを与えたいのです、そしてサタンは私たちに恥辱を与えることを望んでいます、恥辱はそしりの別のことばでもあります。

恥辱は私はまったく良くない—神の愛や助けを受けるに値しないと語るので。恥は私の内なる人を毒したのです。私は自分にされたことだけではなく、自分自身も恥ずかしかったのです。心の奥底で、私は自分が好きではなかったのです。

神が私たちからそしりを取り除かれるということは私たち各人が神が私たちの過去の罪に対し与えようとされる赦しを受けなければならないということなのです。

あなたは神の祝福には決して値しないということを知らなければなりません—あなたは決して神の祝福に値しないのです。あなたはただへりくだり感謝してそれを受け取ることができるのです、神が何と素晴らしくどれだけあなたを愛してくれているかということに畏敬してです。

自己嫌悪、自己否定、神の赦しを拒絶すること（自分を赦すこと対して）、イエスの血潮を通しての義を理解しないことや、それに関わった問題によってあなたは荒野をさまよいつづけることになるのです。あなたの思いはイエスを通して神の右に立つものであるということによって新たにされなければいけないのです—あなた自身の働きによってではなくてです。

長年の私のミニストリーの経験から、私の問題の約 85 パーセントは自分自身をどのように思うかと言うことからのものであると確信しています。勝利の中を歩んでいる人はだれであっても義の中を歩んでいるのです。

私は神の祝福に値しないということを知っています、しかし私はキリストの共同相続人であるので（ローマ 8：17）その祝福を受け取るのです。神がそれを得られました、そして私はキリストに私の信仰を置くことでその祝福を受けるのです。

相続人それとも奴隷？

ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。

ガラテヤ人への手紙 4：7

あなたは子ども？それとも奴隷ですか—相続人か雇われ人？相続人はひとり
の人の所有物を意志によって他の人に渡すとき、功績以上のことで受け取る人
です。奴隷や雇用人は、聖書の意味からすると、律法に従おうと疲れた人にな
ります。その言葉は苦労や問題による重荷を示しています。

神が恵みでたっぷりと私に与えたかった物を私はそれに値する者になろうと
長い年月を荒野でさまよう奴隷の一人のようだったのです。私の考え方は間違
っていたのです。

まず初めに、私は全てを得なければならぬ、そして値しなければならぬ
と考えたのです：『あなたのために誰も何もしてはくれない。』このおしえを長
年教えられていました。何度も何度もこの言葉を聞いて私は育ちました。私の
ために何かをしてあげようと言う人は嘘をついていて最終的には私を利用しよ
うとしているんだという風に教えられていました。

世の中が教える事は私たちが得るものに値しなければならぬということ
です。もし友達が欲しいのなら、いつも彼らを喜ぶようにしなければ彼らは私た
ちを拒絶すると教えられます。もし仕事で昇進したかったら、正しい人を見
つけ上手く彼らを扱わなければならぬのです、そうすればある日昇進する
機会を得るでしょう、と皆が言います。世の中と一緒に終える時までそこか
らのそしりが私たちの上に重くのしかかり間違いなく取り除く必要があるの
です。

あなたは自分自身をどのように見ますか？

そこで、私たちはネフィリム人のアナク人を見た。私たちには自分がいなごのように見
えたとし、彼らにもそう見えたことだろう。

イスラエル人たちには自分たちに対する恥辱がありました。この節から彼らが自分たちを否定的に見ていたという事実がわかります。国家全体がヨルダン川を渡る前に約束の地に送られた偵察隊の十二人のうちの十人がその土地には巨人が住んでいて彼らから見れば自分たちはイナゴのように見えたと言って戻ってきたのです—それは彼ら自身の目の中にいたのです。

これらの人々が自分たちを何とみかかがここからわかります。

サタンがあなた自身についてあらゆる種類の否定的な思いをあなたに満たそうとする（もし私たちがそうさせるなら）ことにどうか気を付けてください。彼はあなたの思いの中に要塞を築き始めます、それらはあなたについて、また他の人があなたの事をどのように思うかと言うことについてで大半が否定的な思いです。彼はあなたが拒絶するという状況をいつも用意します、そうすることであなたが前進しようとしているときにその痛みを思い出させることができるからなのです。

失敗や拒絶への恐れによってたくさんの人々が荒野にとどまることになります。長い年月エジプトでの奴隷状態でひどい扱いの元での生活がイスラエル人に恥辱を残したのです。元々モーセと一緒にエジプトから来た世代のほとんど誰も約束の地に入れなかったということは注目するべきところです。彼らの子どもたちが入ったのです。しかも神が彼らのそしりを取り除かなければならなかったと言われたのです。

彼らの大半は両親がエジプトを去った後荒野で生まれました。彼らはエジプトに住んでいなかったのにどうして彼らの上に非難があったのでしょうか？

あなたの両親にあることがあなたに引き渡されるのです。態度、考えや振る舞いのパターンが受け継がれることがあるのです。あなたの両親が持ってきた悪い心の態度があなたの態度になることがあるのです。ある事柄についてあなたが考える方法はあなたに渡されたもので、なぜそのように考えるかすらわからないのです。

自分を低く評価する両親、自分には価値がないという態度で『私には神の祝福に値しない』という思い方は間違いなく彼らの子どもに渡されてしまいます。

この本の初めのほうでも話したと思いますが、これはとても大切な分野なの

でもう一度言わせてください、あなた自身に関する思いがどのようなものであるかに十分注意する必要があります。神はあなたの失敗に対する憐みをもし、あなたが喜んで受け取るなら、喜んで与えてくれます。神は何も欠点のない、決して間違いをしない完璧な人を報われるのではありません、神に信頼し信仰を持つ人に報ってくださるのです。

神におくあなたの信仰が神を喜ばせる

信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

へブル人への手紙 11 : 6

信仰がなくては神を喜ばせられないということに注目してください；従って、どれだけ『良い行い』をあなたが提供しても、もしそれが神の好意を『得る』ためにされたことであれば神を喜ばせることはないのです。

何であっても神のために行うことは神を愛するためになされなければならないのです、神から何かを得ようとするためではなくてです。

この力強い御言葉は神はご自身を熱心に求める者に報いてくださる方であるということを教えています。私はこれがわかったとき喜びました！私は過去にたくさん間違いをしたことを知っています、しかし私の心全てを持って熱心に神を求めてきたということも知っているのです。と言うことは私は報いを得られるのです。私はずいぶん前に神が私に与えたい祝福は何でも受け取ろうと決断しました。

主はイスラエルの民を約束の地に連れて行き彼らの想像を超えて祝福したかったのです、しかし初めに神は彼らからそしりを取り除かなければならなかったのです。彼らが恥や非難の重荷を負っている限り神から正しく受け取ることは出来なかったのです。

傷のない者に

すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷の

ない者にしようとされました。

エペソ 1 : 4

これは素晴らしいみことばです！ここで主は私たちが彼のものであって彼が私たちに対して望まれることを備えると教えています—私たちは愛されている、特別な者、価値がある者なので、聖く、非難されるところがなく、傷のない者であるべきだということを知るべきなのです。

一般的に、私たちが聖く生きるためにできることを行わなければならないのです。しかし、神に感謝したいのは私たちが間違いを犯したとき、私たちは許され聖く戻してもらい再び傷のない者にしてもらえるのです—すべて『彼にあって』です。

だれにでも惜しげなく、とがめることなく

あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

ヤコブ 1 : 5

これも神からとがめなく受け取れるということを教えた素晴らしいみことばです。

ヤコブは先には人々には試練があるということをお話していましたが、そしてここでは彼らとその状況のための知恵が必要なら、神に求めるべきであるということをお話しています。ヤコブは神は彼らをとがめられない—ただ彼らを助けてくださる、と安心させています。

あなたは神の大いなる助けなしに荒野を通りぬけることは決してないでしょう。しかし、もしあなた自身について否定的な態度であるなら、神がたとえ助けようとしてくれても、あなたはそれを受け取れないのです。

もしあなたが勝利的で力強い肯定的な生き方を望むのであれば、自分に対して否定的であってはダメなのです。どれだけ遠くまで行かないといけないのかと言うように考えるのではなく、どれだけ自分が進んできたかと考えるようにしてください。自分の前進を考え、ピリピ 1 : 6 を思い出してください、…あな

たがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

自分自身について考えも話すことも肯定的でいてください！

第 24 章

『他の人が私より幸せな時

私が嫉妬したり羨ましくないはずはないでしょう？』

荒野的心の態度 #9

『他の人が私より幸せな時私が嫉妬したり

羨ましくないはずがないでしょう？

第 24 章

荒野の心の態度 #9

ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

ヨハネの福音書 21 : 21, 22

ヨハネ 21 章でイエスはペテロが神に仕え栄光を現すために耐えないといけなことを話していました。イエスがこれらのことをペテロに言った途端、ペテロはヨハネを見て、ヨハネに対するみこころは何かとイエスに尋ねました。ペテロはもし自分が苦しい時を通らなければならないのであるなら、ヨハネもそうであるはずだと確かめたかったのです。

その答えに、イエスは自分のすることにだけこころするようにと丁寧に教えたのです。

他の人のすることを思う（私たちの思いをそこにおく）ことは、私たちを荒野に留めることとなります。嫉妬、妬みそして他の人と自分の境遇を比較して考えたりすることは荒野的な態度です。

嫉妬や妬みに注意する

穏やかな心は、からだのいのち。激しい思いは骨をむしばむ

箴言 14 : 30

妬みは冷淡でぞんざいにふるまわせる原因にあります一時には動物のようでもあるのです。妬みが元でヨセフの兄弟たちは彼を奴隷に売ってしまいました。彼らの父親がヨセフを大変愛したので兄弟たちは彼を嫌ったのです。

あなたの家族の中であなたより気に入られているような誰かがいても、その人を嫌わないでください。神を信頼してください！神があなたに求める事をしてください—彼の好意を信じてください—するとあなたもヨセフのようにな

るでしょう—究極に祝福されるのです。

バイン新約聖書用語解釈時点ではねたむというギリシャ語は『他の人の繁栄や利点を聞いたり見たりして生まれる不快な感情。』と定義されています。嫉妬はウェブスター辞典で『妬ましい、心配、あるいは苦々しい感情』と定義されています。私はこの定義をあなたが持っている物を他の人のために失うという恐れ、他の人の成功への恨み、妬みの感情が沸き起こったものと解釈します。

比較や競争をしない

また、彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという議論も起こった。すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々の上に権威を持つ者は守護者と呼ばれています。

だが、あなたがたは、それではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者のようにになりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。

ルカの福音書 22 : 24-26

私の人生の初期のころは、嫉妬や妬みそして比較で大いに葛藤しました。これは不安な者の共通の特徴の一つです。もし私たちが自分自身の価値に関してユニークな者の一人であると安心することがないと、成功していて状況の良さそうな人と自分自身を自然に比較することになります。

私は（神が私の人生をユニークな個人として計画された）個人であると学ぶことは主が私に与えてくれた尊い自由と大変な価値のあることの一つでした。私は自分自身（あるいは私のミニストリー）と誰とも比べる必要はないことを確信しました。

私はイエスの弟子たちを見て彼らが私と同じようなことで葛藤をしていたことを知りいつも励まされ希望を見いだすのです。ルカ 22 章で弟子たちが彼らのうちのだれが一番偉いかと争っている所があります。イエスは一番偉い者は実際は一番年の若い者のようであるとか喜んで仕える人のようであると言って彼らに応えました。私たちの主は彼の弟子たちに神の王国での人生は世の法と全く反対であるということをお教えるのに大変な時間を費やしました。

イエスは『先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです、』（マ

ルコ 10 : 31)、『いっしょに喜んでください、』（ルカ 15 : 6, 9)、『自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。』（マタイ 5 : 44)などを弟子たちに教えたのです。世はこれは愚かなことと言うでしょう—しかしイエスはそれが本当の力ですと教えています。

世の中の競争を避ける

互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走ることはないようにしましょう。

ガラテヤ人への手紙 5 : 26

世の中のシステムによれば、一番であることが最善の場所なのです。一般的な考え方は、上に上がるために人を傷つけないといけなくとも一番になるようにするべきだという物です。しかし聖書は私たちが人との比較から解放されるまで本当の平安はないと教えています。

例え『楽しいゲーム』と考えられることであったとしても、単にリラックスをして一緒に良い時を過ごすということより、バランスを崩し競争になり、言い争ったりお互いを嫌い合ったりすることになるのをよく見かけます。一般的に、人は負けるためにゲームをすることはありません；誰もがそれぞれの最善を尽くします。しかし勝たない限りゲームを楽しめないと、その人には間違いなく問題があります—その人の人生のいろんな分野に問題を起こすことになる深い根があるかもしれないのです。

私たちは仕事をするときには絶対最善を尽くすべきです；うまくやろうとすることや私たちが選んだ仕事を上達しようとするに何も問題はなりません。しかしクリスチャンの昇進は人からではなく神からくるということを覚えておいてください。私たちは先に進むために世的なゲームをする必要がないのです。もし私たちが神の方法で行うなら、神が私たちに神と人の好意を与えてくれるのです。(箴言 3 : 3, 4)

嫉妬や妬みは地獄からの苦悩です。私は私よりよく見える人や私にない才能を持つ人誰にでも嫉妬や妬みを何年も持っていました。私はミニストリーにおいてもひそかに他の人との競争の中にいました。『私の』ミニストリーが他の誰のものより大きく、より多くの出席者があり、もっと繁栄する、などが私にとって大変重要だったのです。もし他の人のミニストリーがどのようにでも私のよ

りまさったなら、その人のことを喜びたかったのです、それが神の御心で方法であることがわかっていたので、しかし私の魂のうちではそれを認められなかったのです。

私がキリストにあって誰であるかと言う知識で育つようになってわかったことは、それが私の働きではなく、私は他の誰ともまた何とも比べることはないという自由を得たということでした。神に信頼することを学べば学ぶほど、この分野での自由をより楽しみました。私の天の父が私を愛し、私のために何でもあっても最善を行ってくれるということを学んでのです。

神が私たちのためにすることは他の人にされることとは違うかもしれませんが、イエスがペテロに『私が他の人にしようとすることを気にしないで—あなたは私に従いなさい！』と言ったことを私たちは覚えていなければいけません。

私の友達が主からある贈り物を与えられました、私もそれを願っていたのですが、友人は長い間それを待っていたのです。私はこの友達の事を私と同じほどに『靈的』だとは思っていませんでしたので、彼女が神から贈られた物を見せるために私の玄関に喜んで来たとき私は嫉妬し、妬んでしまいました。もちろん、彼女の前では、彼女と一緒に喜ぶふりをしましたが、私の心の中はそうではありませんでした。

彼女が去って、あれは私のためのものだったのと言う態度が出てきました！私は実際に神の彼女への祝福に憤りました、彼女には値しないと思ったのです。私は家にいて彼女が友達と良い時を過ごしている間断食とお祈りをすることにしました。私は宗教の高慢、『パリサイ人』だったので、それをわかってもいなかったのです。

神は私たちが選ばない方法でしばしばある状況を用意します、なぜなら神が私たちには本当に何が必要かを知っているからです。私は与えられることを信じて待っていた物以上に私の悪い態度を取り除かれる必要があったのです。神がこのような方法で状況を整えることは重要なことなのです、それによって私たちは自分自身に面と向かわなければならぬのです。さもなければ、私たちは決して自由を体験することはないでしょう。

敵が私たちの魂に隠れている限り、彼が私たちをいつもコントロールすることになります。しかし神が彼をさらけ出され、もし私たちが自分自身を神の御

手におき、神が願われることに任せるなら、私たちは自由への途中にいるのです。

神は、実際、私の人生をラジオ、テレビ、セミナー、本やテープで何百万人もの人に働く大変大きなミニストリーの働きをするように決定していたのです。しかし、神は私が神にあってあるところまで『成長』しなければ、その働きへとは導くことはなかったのです。

新しい心の態度を得る！

愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。

ヨハネの手紙第三 2

このみ言葉を注意深く考えてみてください。神は私たちが祝福されたいと望む以上に私たちを祝福することを望んでいます。しかし神はまた私たちが神に栄光を絶えず返し与えられた祝福を正しく扱える以上のものは与えないというほどに愛しているのです。

嫉妬、妬み、他の人との比較は幼い者がすることです。全て肉の物で靈的には何のかかわりもないのです。しかし、荒野的な生き方の大いなる原因となることです。

この分野でのあなたの考えを考慮してみてください。あまたの思いの中に悪い考えのパターンが流れ始めたのがわかったとき、自分と少し話してください。自分自身に言ってください、『他の人を嫉妬することが私には何になるのでしょうか？それは私を祝福しません。神が私たちの一人一人のための計画をしているので、私は神が私のために最善の事をしてくれるということを神に信頼することにします。神が他の人にすることは私には何も関係がないから。』そして意図的にその人たちがさらに祝福されるようにと祈るのです。

あなた自身の感情について神に対して正直になることを恐れなくてください。神はあなたがそのように感じているか知っているのですが、そのことを神にあなたからも話すのです。

私は主にこのように言いました：『神様、私は____が、もっと祝福されるようにお祈りします。彼女がもっと豊かになるように；すべての面で彼女を祝福してください。主よ、私はこれを信仰によってお祈りします。私の霊では、彼女に嫉妬していて彼女に劣っているとおもいますが、でも私はこれが好きであつてもなくてもあなたの方法ですることを選びたいのです。』

最近私がある人から聞いたことですがどんなに私たちが何かをよくできたとしても、さらによくできる人がいつも現れます。このことばは本当だと思います。そしてこれが真実なら、私たちの人生で人よりまさろうとするすべての葛藤の目的は一体何なのでしょう？ 私たちが一番になったとたんに、誰かがすぐに私たちを追い抜くのです、早かれ遅かれ、私たちがするより、よりうまくできる人が現れるのです。

スポーツの事を考えてみてください；どんな競技であつてもある人が出した記録を、いつかはまた他の競技者が破ります。娯楽の分野ではどうでしょうか？ 現在のスターはある期間もっとも人気があるかもしれませんが、次に新しい人が現れ先の人の場所を奪うことになるでしょう。私たちが他の誰よりもいつも一番であるように葛藤しなければならないのは何ともひどい欺きなのです—そしてそこにとどまるために戦うのです。

神がずいぶん前に覚えておくようにと私に言われたことで、『一躍有名になるスター』は素早く上昇したくさんの注目を集めますが、大抵彼らは大変短い期間しかとどまることはありません。大抵の場合彼らは上昇ういたのと同じくらいの素早さで下降します。神は長い期間そこにいたほうがどれだけ良いか—そこにとどまるのです—神が私にするようにと言われたことを私の最善を持って行うのです。神が私の評価を扱うということの確信を私にくれました。私の役割として、神が私に求めることは何であつてもすべて私には全て正しい事だと決心しました。なぜでしょうか？ 私以上に神は私がよくできることを知っているからです。

あなたにはこの分野で長い間精神的な要塞があるかもしれません。毎回あなたの少し先を行く人が現れると、あなたは嫉妬や妬みを感じたりその人と競争したいと思うかもしれません。もしそうであるなら、あなたに新しい考え方を持つよう励ましたいと思います。

他の人のために喜びあなた自身を神に信頼するようになしてください。ある時

間と忍耐がいるでしょう、しかし古い心の要塞が壊され代わりに神の言葉が置き換えられるとき、あなたは荒野から出て約束の地に向かうことになるのです。

第 25 章

『私のやり方でします、
それでなければ何もしないことに…』

荒野の心の態度 # 10

『私のやり方でします、

それでなければ何もしないことに…』

第 25 章

荒野の心の態度 # 10

彼らが神に信頼し、神のみわざを忘れず、その仰せを守るためである。
また先祖たちのように、彼らが、かたくなで、逆らう世代の者、心定まらず、その霊が
神に忠実でない世代の者とならないためである。

詩篇 78 : 7, 8

イスラエルの民はかなりのかたくなさと反抗心を彼らの荒野時代に現しました。
彼らがそこで死ぬことになった明らかな原因だったのです。彼らはとにかく神
が彼らにするように命じられたことをしませんでした！彼らは問題に出くわした
とき神に助けを求め泣き叫びました。彼らは神の指示に従順を持って応答も
しました一状況が良くなるまでは。そして、彼らはまた反抗的な態度に戻るこ
とを繰り返したのです。

この同じことが繰り返され何度も旧約聖書に記録われているのは信じられない
位です。そして、もし私たちが知恵を持って歩まなければ、私たちも同じこ
とをして生きることになるのです。

もしかしたら人より頑固で反抗的な性質の人がいるかもしれません。そして、
どのように私たちが人生を始めたかそのルーツを考えなければいけません、な
ぜならそれが影響をするからです。

私は強い性格を持って生まれたので恐らく長い間何があっても『自分のやり
方です』と言うようになってきたのだと思います。しかし私は虐待を受けコン
トロールされて長年過ごしましたが一既に強い性格がそこに加わり一誰も私に
何かをするようにとは言わせないという心の態度がそれらと一緒に出来上がっ
ていました。

明らかに、神は私を用いる前にこの悪い態度を取り扱わなければなりません
でした。

主は私たちのやり方であることを止め神の御手で形作られることを学ぶこと

を要求されます。私たちが頑固で反抗的である限り、神は私たちを用いることができません。

私は『頑固』を頑固と表現します；扱ったり一緒に働くのが難しい、そして支配を拒絶することを『反抗的』；正されることを拒絶する、御しくい；一般的なガイドラインに従うことを拒絶する。これらの両方の定義が私を現しています、私はそのとおりだったのです！

私が若い時に受けた虐待が権威に対してバランスの崩れた態度の元になっていたのです。しかし私がこの本の初めのほうで話したように、私は自分の過去を反抗的やその他の状態にとどまる言い訳にはさせませんでした。勝利的な生き方は主への敏速で正確な従順が要求されます。私たちは神の御心を行ない自分の意志を横に喜んでおこうとする能力の中で成長するのです。私たちはこの分野で前進することは必然のことでです。

ある水準に到達したので、『私が進める限りのところまでやってきた。』と考えるだけでは十分ではないのです。私たちは全ての事に従順であるべきなのです—何かで後ろに引き下がったり主に対して自分のドアを閉ざしたり。私たちには皆できる限りとどまっていたい『ある』分野があります、しかしほんのわずかなパン種が、粉のかたまり全体をふくらませる（コリント第一 5：6）事を思い出してほしいのです。

神はいけにえではなく、従うことを望む

するとサムエルは言った。「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。

まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが主のこぼれを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」

サムエル記第一 15：22, 23

サウルの人生の試験で彼が王になる機会が与えられたことがはっきり示されています。彼がその地位を長く保たなかったのは頑固さと反抗心が原因だったのです。彼には物事に対して自分の考えがあったのです。

預言者サムエルが指示したことをサウルが行わなかったことを正した時、サウルはどのようにすれば良いかと思う彼の考えを説明して、彼の思った事を応えたのです。(サムエル記第一 10 : 6-8 ; 13 : 8-14) サウル王へのサムエルの応えは神はいけにえではなく、従順を望まれるということでした。

しばしば、私たちは神が求めることをしたくないので、私たちの不従順を補う何かをしようとしています。

どれだけの神の子どもたちが彼らの頑固さや反抗心のために『王として支配する』(ローマ 5 : 17 ; 黙示録 1 : 6) ことがダメになったのでしょうか？

アンプリファイ訳聖書の中の伝道者の書の序章は、『この本の目的は人生を全体として調べ尽くし最終的な分析で人生とは神への正しい恐れなしには意味がない事であることを教えるため』と語っています。

従うことなしには正しい尊敬や畏敬はないということを理解しなければならぬのです。今日たくさんの子どもの示す反抗心は彼らの両親を正しく尊敬することの欠如によるのです。これは大抵両親の落ちどなのです、彼らが子どもたちの前で尊敬や畏敬を起こすように生きていないからなのです。

伝道者の書が他の誰よりもたくさんの知恵を与えられたソロモン王によって書かれたということは大半の学者が同意しています。もしソロモンがそれ程の知恵があったのなら、どうして彼の人生であれほどの悲しい誤りをおかすことが出来たのでしょうか？答えは簡単です：持っているでも使わないとそれが可能なのです。私たちにはキリストの思いがあります、しかし私たちはいつもそれを使っているのでしょうか？イエスが私たちのうちで神からの知恵となりました、しかし私たちはその知恵をいつも使っているのでしょうか？

ソロモンは自分のやり方で生き自分自身の事をしたかったのです。彼は自分の人生でいろいろなことを行って過ごしました。彼にはお金で買える物すべてを持っていました—あらゆる世の最高の楽しみです—しかし彼がその本の結論として言ったことはこれです：

結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。

私がこのみ言葉から受け取ったことを私自身の言葉で言い換えてみましょう：

人の創造のすべての目的は人が神に従い畏敬し礼拝することです。全ての神の性格は従順に基づいたものです—それがすべての幸せの土台です。神に従うことなく誰も真の幸せはありません。私たちの人生の何であつても乱れた物が従順によって正されるでしょう。従うということは全ての人に与えられた義務なのです。

私が考える限り、これは素晴らしいみ言葉の一つで、各自学び続けることを励ましたいと思います。

従順と不従順：

両方とも結果があります

すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順がによって多くの人が義人とされるのです。

ローマ人への手紙 5：19

私たちの選択で従うか従わないかは私たちだけではなく、たくさんの人に影響を及ぼします。少し考えてみてください。：もしイスラエルの民が即座に神に従っていたら、彼らの人生はどれだけより素晴らしいものになっていたかということ。彼らの多数と彼らの子どもたちが荒野で死んだのは神のやり方に従わなかったからなのです。彼らの子どもたちは彼らの決断に影響されたのです、それは私たちにも同じことなのです。

最近、私の長男が『お母さん、言いたいことがあるのです、僕は泣くかもしれないけれど、僕の言うことを聞いてもらえるかな。』と言いました。そして彼は続けて言いました、『僕はお母さんとお父さんのことについて考えていたんだ、何年もの間二人がこのミニストーリーに注いできたこと、そして二人がずっと神に従ってきたこと、そしてそれがいつも簡単ではなかっただろうと。僕は気づいたんだ、お母さんとお父さんが通ってきたことで誰も知らないことについて、そして知って欲しいことは今朝神が二人の従順さが僕に偉大な祝福であることを気付かせてくれたんだ、そして僕はそれを感謝しているのです。』

彼が言ったことは私にたくさんの事を意味しました、そしてそれがローマ 5 : 19 を思い出させたのです。

あなたの決断で神に従うということが他の人に影響を及ぼす、そしてあなたが神に従わないことを決めた時もまた、他の人に影響を及ぼすということ。あなたは神に従っていないで荒野にいるかもしれません、しかしどうか心に留めておいて欲しいのはもしあなたに子どもがいるなら、あなたの決断は彼らをもあなたと一緒に荒野に留めることになるということ。彼らが大人になって彼ら自身で脱出できるかもしれません、しかし彼らはあなたの不従順の代価を必ず払うことになると言えるのです。

誰かが過去に神に従ったおかげであなたの人生が今良い状態かもしれません。

従順は遠くまで及ぶことなのです；従順が地獄の門を閉ざし天の窓を開くのです。

従順についてだけの本を書くことが出来る位です、しかしここでは簡単に要点だけを言っておきます、不従順による生き方は悪い考えの実なのです。

すべてのはかりごとをとりこにして

キリストに服従させる

私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

コリント人への手紙第二 10 : 4, 5

私たちの考えが私たちをよく問題を起こさせるのです。

イザヤ 55 : 8 で、主は、わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ…と言っています。私たちが何を考えたとしても、神が神の考えを私たちのために書かれたのです、それを私たち

は聖書と呼びます。私たちは自分の考えを神の言葉の光の元で確かめなければならぬのです、神の思いが最善であることを知って、いつも私たちの考えを喜んで神の考えのもとにゆだねるのです。

これこそがコリント第二 10:4, 5 で示された要点なのです。あなたの心にある思いを調べてください。もしそれが神の思い（聖書）と同意しないのなら、あなた自身の思いを捨てて神の言うことを考えるのです。

人が彼ら自身の無意味な思いの中で生きることは彼らをダメにするだけではなく、彼らの周りにいる人たちもダメにすることが多々あるのです。

考える事は戦場です！

この思いのグラウンドであなたはサタンが仕掛けた戦いに勝つか負けるのです。私の心からのお祈りです、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてイエス・キリストに服従するのにこの本が役立ちますように。

著者について

ジョイス・マイヤーは1976年から神のことばを教えています、そして1980年以來フルタイムの働きをしています。彼女の著書は聖霊に導かれて書かれた70以上のものがあり、**Approval Addiction, In Pursuit of Peace, How to Hear from God,**そして**Battlefield of the Mind**(考える事は戦い)等のベストセラーになった本も書いてきました。彼女の教えは何千にも及ぶCD等とビデオのシリーズにもなっています。ジョイスの **Enjoying Everyday Life** (毎日の生活を楽しむ) はテレビとラジオのプログラムで世界中に放送されています、そして彼女は多くの地域でコンフェランスを開いています。ジョイスと彼女の夫、デイブには4人の成人した子どもがいます、彼らはミズーリー州セント・ルイスに住んでいます。

救いの祈り

神様はあなたを愛していて、あなたと個人的な関係を持ちたいと願っています。もし、あなたが今までイエス・キリストをあなたの救い主として受け入れたことがないのなら、今受け入れることができます。ただ心をイエスに開いて、この祈りを祈ってください。

「天のお父さん、私はあなたに罪を犯してしまっていたことを認めます。私を赦してください。私をきれいさっぱり洗ってください。あなたの息子であるイエスに信頼することを約束します。イエスが私のために死んでくれたことを信じます。十字架上で彼が死んだ時、彼が私の罪を背負ってくれたことを信じます。そして、イエスが死から復活したことを信じます。今、私の人生をイエスに委ねます。

天のお父さん、赦しと永遠のいのちという贈り物を与えてくれてありがとうございます。あなたのために生きることができるよう助けてください。イエスの名によって、アーメン。」

心からこの祈りを祈ったなら、神様はあなたを受け入れました。あなたを清めて、あなたを霊的な死の縛りから解放してくれました。

時間をとって以下の聖書箇所を読んでみてください。そして、これからの新しい人生の旅を神様と一緒に歩いていく中で、神様が語ってくれるように祈ってください。

ヨハネの福音書 3章16節	コリント人への手紙I 15章3-4節
エペソ人への手紙 1章4節	エペソ人への手紙 2章8-9節
ヨハネの手紙I 1章9節	ヨハネの手紙I 4章14-15節
ヨハネの手紙I 5章1節	ヨハネの手紙I 5章12-13節

イエス・キリストとの関係の中で成長することを励まされるような、聖書に基づいた良い教会を見つけることができるように神様に祈り求めてください。神様はいつもあなたと一緒にいてくれます。1日1日、どんな時も神様はあなたを導いてくれます。そして、あなたに用意されている、いのちに溢れた豊かな人生を生きる方法を示してくれるでしょう!

戦いが猛威を振るっています。

あなたの思考が戦場なのです。

心配、疑い、混乱、意気消沈、怒り、そしてとがめる思い…これらのすべては心への攻撃です。もしあなたが否定的な思いで苦しんでいるのなら、勇気を出してください！ジョイス・マイヤーが何百万人もの人をこれらの重要な戦いに勝たせました、そして彼女はあなたも助けることができます。彼女の中の最高のベストセラーで、著者はあなたの考えを変えることによってあなたの生き方を変える方法を教えてくれるでしょう。彼女はあなたが毎日抱える何千もの考えをどのように扱い神が考えるようにあなたも考える事に集中することを教えてくれます。そして彼女が通ってきた試練、悲劇、や彼女自身の結婚生活や、家族とミニストリーが驚くべき人生変革に至らした真実を分かち合っています—それらによってそれぞれの段階での彼女の考えや感情がわかるでしょう。

今あなたの順番です：

- ・あなたが自分の考えを支配して自由と平安を見つける
- ・ダメにする考えを認識し、それらがあなたの生活に影響させないようにする
- ・間違いを犯したときも自分に我慢する
- ・神のことば、賛美、祈りとその他の力強い霊的武器で武装する
- ・精神的『荒野』から出て光に従う—悪い態度や言い訳は神から遠ざけます—全く予期しない幸せや達成感を見つける。

これ以上みじめに毎日を過ごさないでください。あなたの思考の中で戦うことでああなたの勝利が保障されていることを今日見つけ出してください！